令和５年度
シラバス

幼児保育学科
１年生

令和5年度　幼児保育学科履修表（1年生）

系列		授業科目	開講単位	卒業必修	選択	教免必修	保育士必修	レク必修	こども音楽療育士必修	週時間数	1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	担当	備考（★は実務経験のある教員が担当する科目）	ポイント（単位×5）	DP	①保育者として必要な専門知識・技術を修得している	②保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができる	③子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができる	④慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけている	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ
																		CP	幼児保育学科では、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、教養科目および保育に関わる専門科目を体系的に配置する。幼稚園教諭二種免許状および保育士資格取得を中心にした教育課程を編成し、特に保育現場での保育・教育実習を柱として、その事前・事後の学習に重点を置く。教養科目では、心理学や女性学、生物学、英語、情報処理などの一般教養科目を開講し、専門科目では、保育の目的、対象の理解などの科目や保育の内容・方法などの科目を配して知識や技術が十分に身につくよう教育を行う。					
																			① 保育者として必要な専門知識・技能を修得するため、保育の本質・目的、保育の対象の理解、保育の内容・方法など、保育に関わる専門科目を配置する。	② 保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようにするため、事前・事後の学習・指導も含めた保育・教育実習を配置する。	③ 子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができるようにするため、「保育・教職実践演習（幼稚園）」や「キャリア形成演習」など総合演習や特別科目を配置する。	④ 慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけるため、「保育基礎ゼミ」など教養科目を配置する。	
教養科目		現代と女性	2	6	6		4			2	2				元田		10					10	C2023-111-01
		児童文化論	2							2		2			大谷		10				4	6	C2023-111-02
		対人魅力の心理学	2							2		2			髙倉		10					10	C2023-111-03
		いきものと環境	2							2	2				木下		10				4	6	C2023-111-04
		日本国憲法	2			2				2				2			10					10	C2023-111-05
		コンピュータ演習	2			2				2	2				元田		10			4		6	C2023-111-06
		保育基礎ゼミⅠ	1	1						2	1				朝木、元田、四童子、井手、舩原	集中講義	5		2			3	C2023-111-07
		保育基礎ゼミⅡ	1	1						2	1				志方、四童子、井手、新田		5		2			3	C2023-111-08
		英語コミュニケーション	2	2		2	2			2	1	1			虎本		10			4		6	C2023-111-09
		健康・スポーツ科学演習Ⅰ	1	1		1	1	1		2	1				三好		5					5	C2023-111-10
		健康・スポーツ科学演習Ⅱ	1	1		1	1			2		1			永山		5					5	C2023-111-11
小計			18	12	6																		
専門科目	A保育の本質・目的	保育原理	2	2		2	2			2	2				朝木	★	10		10				C2023-122-01
		教育原理	2	2		2	2			2		2			舩原		10		10				C2023-122-02
		子ども家庭福祉	2	2			2			2		2			舩原		10		6		4		C2023-122-03
		社会福祉	2		2		2			2	2				大川		10		10				C2023-222-01
		子ども家庭支援論	2		2		2			2			2				10		5	3	2		C2023-222-02
		社会的養護Ⅰ	2		2		2			2		2			志方		10		10				C2023-222-03
		保育者論	2	2		2	2			2				2			10		6	4			C2023-122-04
	B保育の対象の理解	発達心理学	2	2		2	2		(2)	2	2				新田		10		6	4			C2023-123-01
		子ども家庭支援の心理学	2		2		2			2		2			新田		10		8	2			C2023-223-01
		教育心理学	2	2		2			(2)	2		2			新田		10		6	4			C2023-123-02
		子どもの理解と援助	1		1		1			2			1				5		3		2		C2023-223-02
		子どもの保健	2		2		2		(2)	2	2				緒方	★	10		10				C2023-223-03
		子どもの食と栄養Ⅰ	1		1		1			2			1				5		5				C2023-223-04
		子どもの食と栄養Ⅱ	1		1		1			2				1			5		5				C2023-223-05
		幼児理解と教育相談	2		2	2				2			2			カウンセリングを含む	10		8	2			C2023-223-06
	C保育の内容・方法	教育課程論	2	2		2	2			2				2			10		6	4			C2023-124-01
		保育内容総論	2	2		2	2			2	2				朝木	★	10		5	3	2		C2023-124-02
		子どもと健康	1	3	2	1	1			2	1				三好		5		3	1	1		C2023-124-03
		子どもと人間関係	1			1	1			2		1			朝木	★	5		3	1	1		C2023-124-04
		子どもと環境	1			1	1			2		1			古林	★	5		4		1		C2023-124-05
		子どもと言葉	1			1	1			2	1				井手		5		4	1			C2023-124-06
		子どもと表現	1			1	1		(1)	2	1				宮本（幸）、四童子、井手		5		3	2			C2023-124-07
		幼児教育方法論	2		2	2				2	2				舩原		10		6	3	1		C2023-224-01
		乳児保育Ⅰ	2		2		2			2	2				古林	★	10		6	4			C2023-224-02
		乳児保育Ⅱ	1		1		1			2			1				5		3		2		C2023-224-03
		特別支援教育	1	1		1	1		(1)	2			1				5		2	1	1	1	C2023-124-08
		障害児保育	1		1		1		(1)	2	1				志方		5		3		2		C2023-224-04
		子どもの健康と安全	1		1		1		(1)	2			1				5		3		2		C2023-224-05
		社会的養護Ⅱ	1		1		1			2				1			5		5				C2023-224-06
		子育て支援	1		1		1			2				1			5		3		2		C2023-224-07
		音楽Ⅰ	1		1		1		(1)	2	1				宮本(幸)、四童子ほか		5		5				C2023-224-08
		音楽Ⅱ	1		1		(1)		(1)	2		1			宮本(幸)、四童子ほか		5		5				C2023-224-09
		子どもの動きとリズム	1		1		(1)		(1)	2			1				5		5				C2023-224-10
		造形	1		1		(1)			2	1				井手		5		5				C2023-224-11
		造形表現	1		1		1			2		1			川村		5		3	2			C2023-224-12
		幼児体育	1	1			(1)	1		2		1			三好		5		4		1		C2023-124-09
		「子どもと健康」指導法	1		1	1	1			2			1				5		3		2		C2023-224-13
		「子どもと人間関係」指導法	1		1	1	1			2				1			5		3		2		C2023-224-14
		「子どもと環境」指導法	1		1	1	1			2				1			5		4		1		C2023-224-15
		「子どもと言葉」指導法	1		1	1	1			2		1			井手		5		4	1			C2023-224-16
		「子どもと表現」指導法	1		1	1	1		(1)	2		1			宮本（幸）、四童子		5		5				C2023-224-17
																			217	50	37	71	

系列		授業科目	開講単位	卒業必修	選択	教免必修	保育士必修	レク必修	こども音楽療育士必修	週時間数	1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	担当	備考（★は実務経験のある教員が担当する科目）	ポイント（単位×5）	DP	①保育者として必要な専門知識・技術を修得している	②保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができる	③子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができる	④慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけている	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ
																		CP	幼児保育学科では、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、教養科目および保育に関わる専門科目を体系的に配置する。幼稚園教諭二種免許状および保育士資格取得を中心にした教育課程を編成し、特に保育現場での保育・教育実習を柱として、その事前・事後の学習に重点を置く。教養科目では、心理学や女性学、生物学、英語、情報処理などの一般教養科目を開講し、専門科目では、保育の目的、対象の理解などの科目や保育の内容・方法などの科目を配して知識や技術が十分に身につくよう教育を行う。				
																			① 保育者として必要な専門知識・技能を修得するため、保育の本質・目的、保育の対象の理解、保育の内容・方法など、保育に関わる専門科目を配置する。	② 保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようにするため、事前・事後の学習・指導も含めた保育・教育実習を配置する。	③ 子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができるようにするため、「保育・教職実践演習（幼稚園）」や「キャリア形成演習」など総合演習や特別科目を配置する。	④ 慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけるため、「保育基礎ゼミ」など教養科目を配置する。	
専門科目	D保育・教育実習	保育所実習Ⅰ	2		2		2	(2)				2			朝木、古林、舩原		10			5	2	3	C2023-225-01
		施設実習Ⅰ	2		2		2	(2)					2				10			5	2	3	C2023-225-02
		保育所実習Ⅱ	2		2		2						2				10			8	2		C2023-225-03
		施設実習Ⅱ	2		2												10			6	4		C2023-225-04
		教育実習Ⅰ	2		2	2		(2)				2			三好、四童子、井手		10		4	6			C2023-225-05
		教育実習Ⅱ	2		2	2								2			10		4	6			C2023-225-06
		実習指導Ⅰ	1		1	1	1			2	1				朝木、古林、舩原		5			3	1	1	C2023-225-07
		実習指導Ⅱ	1		1	1				2		1			三好、四童子、井手		5		1	3	1		C2023-225-08
		実習指導Ⅲ	1		1		1			2		1			宮本（幸）、志方、新田、角		5		1	3	1		C2023-225-09
		実習指導Ⅳ	1		1		1			2			1				5			5			C2023-225-10
		実習指導Ⅴ	1		1					2							5			4	1		C2023-225-11
	総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	2	2		2	2			2			1	1			10			4	6		C2023-126-01
		キャリア形成演習	1	1						2				1			5			2	3		C2023-126-02
	特別科目 a群 そだちと指導	乳幼児心理学	1		1		(1)			2			1				5		1	1	3		C2023-223-07
		対人コミュニケーション	1		1		(1)			2			1				5				5		C2023-223-08
		乳児保育指導技術	1		1		(1)			2				1			5			2	3		C2023-224-18
		障害児保育指導技術	1		1		(1)		(1)	2				1			5		2		3		C2023-224-19
		保育実践と評価・記録	1		1		(1)			2				1		※1	5			2	3		C2023-224-20
	b群 あそびと表現	うたと簡易伴奏	1		1		(1)		(1)	2			1				5		2		3		C2023-224-21
		アンサンブル	1		1		(1)		(1)	2				1		※1	5		2		3		C2023-224-22
		子どものあそび文化	1		1		(1)			2				1			5			2	3		C2023-224-23
		子どもと造形	1		1		(1)			2			1				5			2	3		C2023-224-24
		子どもと文学	1		1		(1)			2				1			5		1	1	3		C2023-224-25
	c群 からだと自然	自然体験実習Ⅰ	1		1		(1)			2			1			集中講義 ※1，2	5		2		3		C2023-224-26
		自然体験実習Ⅱ	1		1		(1)			2				1		集中講義 ※1，3	5		2		3		C2023-224-27
		安全保育実習	1		1		(1)			2				1			5				5		C2023-223-09
		保育と環境教育	1		1		(1)			2			1				5			2	3		C2023-224-28
		健康科学実習	1		1		(1)			2				1			5				3	2	C2023-224-29
	レクリエーション	レクリエーション概論	2		2			2		2			2				10				6	4	C2023-227-01
		レクリエーション実技	1		1			1		2				1			5				3	2	C2023-227-02
	こども音楽療育士	こども音楽療育概論	2		2				2	2			2				10			4	6		C2023-227-03
		こども音楽療育演習	1		1				1	2				1			5				5		C2023-227-04
		こども音楽療育実習	1		1				1	2			1			集中講義	5				3	2	C2023-227-05
小計			99	24	75												610		239	126	132	88	
合計			117	36	81																		

（注）
1. 保育士資格を取得しようとする者は、保育士必修科目に加え、保育士必修の欄の（ ）のついている科目の中から7単位以上を選択履修しなければならない。その際、原則として特別科目a～c群の中からいずれかの群を選び、5単位以上履修すること。
2. 備考欄の※1の科目については、全員受講することができる。
3. 社会福祉主事任用資格を取得しようとする者は、保育士資格に必要な科目を選択履修しなければならない。
4. レクリエーション・インストラクター資格を取得しようとする者は、必修科目に加え次に掲げる要件を満たさなければならない。
   (1) レク必修の欄の（ ）のついている科目の中から2単位以上選択履修すること。
   (2) レクリエーション協会の事業（学外実習）に2回以上参加すること。
5. 備考欄の※2の科目を履修したもののうち、希望するものは自然体験活動指導者の登録を行うことができる。
6. 備考欄の※3の科目を履修したもののうち、希望するものはキャンプインストラクターの登録を行うことができる。
7. こども音楽療育士資格を取得しようとする者は、必修科目に加えこども音楽療育士必修の欄の（ ）のついている科目の中から16単位以上選択履修しなければならない。
8. 学生生活を有意義にするために、「カレッジアワー」の時間を週2時間設ける。

科　目	対人魅力の心理学	開講時期 履修方法	１年後期 選必、保育士選択必修
担当者	講師　髙倉　那々実	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	対人関係は社会で生きていくためにおいて重要なものであり，対人魅力は対人関係を理解するために私たちにとって非常に身近で関心の高いテーマである。私たちは他者に対して様々な感情や印象を抱くが，その評価は何によって影響を受け決定づけられていくかは個人差が大きく多様である。本科目では，社会的な対人関係だけでなく身近な家族や友人，恋愛関係で生じる対人魅力の形成について理解することを目指す。授業は講義のほか，簡単な質問紙や心理学実験体験などをまじえて実施する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	対人魅力に関する基礎的な知識を理解することができる。	DP4	対人魅力について理解し，レポートに記述することができる。
2.	対人魅力に関して理解したことを，日常生活や実践的な活用のための工夫ができる。	DP4	授業で学んだ知識に基づき，自身の体験や考えをレポートで記述することや，ディスカッションできる。
3.	授業内の課題に積極的に参加し，他者との意見交換により対人魅力に関する理解を深めることができる。	DP4	授業内での質問やディスカッションに積極的に参加し，自身の感想や意見を他者に伝えることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：授業方針と学習成果について（評価方法及び評価基準）	シラバスで授業概要を把握し，自分自身の興味関心を明確化する（2時間）	授業目的や到達目標を確認し，改めて自分自身の興味関心を明確化する（2時間）
2.	魅力とはなにか：魅力の要素について	第2回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
3.	魅力と性格①：性格分類	第3回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
4.	魅力と性格②：性格特性と魅力の関係	第4回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
5.	対人魅力の理論：対人魅力のメカニズム	第5回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
6.	魅力と外見：魅力の外見的特徴や他者に与える印象	第6回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
7.	魅力と態度：コミュニケーションの在り方	第7回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
8.	魅力と自己：自己開示とは	第8回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
9.	魅力と環境：環境と対人魅力との関係	第9回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
10.	魅力と認知：個人の好みと認知の関係	第10回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
11.	恋愛関係：恋愛時の心理について	第11回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
12.	リーダーシップ：リーダーとは	第12回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
13.	対人援助の心理①：人を援助するとは	第13回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
14.	対人援助の心理②：人に援助されるとは	第14回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	授業内容の振り返りと確認問題を用いた整理（2時間）
15.	魅力の変化：個人の好みはどう変化するか	第15回の授業内容に関するキーワードを本やネットを用いて調べる（2時間）	これまでの授業内容の振り返りと最終レポート課題の準備（2時間）

教科書	特になし，プリント配布
参考書	授業の中で随時紹介する
学習成果の評価方法	最終レポート（60%），授業内の提出課題（20%），受講態度（20%）。提出課題（確認問題）は授業内で適宜解説を加えてフィードバックを行う。
特記すべき事　　項	毎回の出欠確認は，開始時の応答および毎回の授業終了時に提出を求めるコメントカードの提出によって行う。遅刻、早退等はその日の授業時間内に、本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	質問，相談等は毎回の授業終了時に提出を求めるコメントカードを用いて，次回の授業時に回答する。

科　目	いきものと環境	開講時期 履修方法	１年前期 選必、保育士選択必修
担当者	講師　木下　智章	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	幼児期に、出来るだけ多く自然の中で遊び、身近な動植物とのふれあいを持つことは、少年期～青年期における豊かな創造性やたくましい心身の養成につながり、成長後の周囲の人への思いやりの心や環境問題に対する関心などの、社会的責任感の形成に大きな影響を与えることになる。また、いきものとのふれあいを持つことは、近年社会的に大きな問題となっている、心を閉ざした子どもや生きていく意欲を失った人々の心身の回復に、大きな力となることが分かっている。授業では、学生が身近な自然と触れ合いながら生きものの姿を実体験することで、自然のしくみと命の大切さを学習する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	「いきもの」の姿や生活スタイルを正確に捉え、表現することができる。	DP3	動物や植物のスケッチや型どりを、正しく行うことができる。
2.	自然の変化を、長期・短期の時間軸で把握し、観察・記録することができる。	DP3	ビオトープの観察を行ない、動物・植物の変化を記録し、考察できる。
3.	人間と自然の関わりを理解し、自然を守る大切さを伝えることができる。	DP4	「いきもの」と人間との関わりに関して、口頭で発表することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法及び評価の基準） オリエンテーション：「いきもの」とは？	シラバス確認（２時間）	この科目で何を学ぶのかまとめておく（２時間）
2.	春のいきもの：構内で春を探す ビオトープの観察（その１）	ビオトープの下見（２時間）	レポートの完成（２時間）
3.	いきものの形：動物や植物の形を知ろう	各授業テーマについて自分なりに調べておく（２時間）	講義内容、疑問点をまとめておく（２時間）
4.	生きものの観察：いきもの地図をつくろう（実習）	大学内の生きものの下見（２時間）	生きもの地図の完成（２時間）
5.	生きものの観察：いきもの地図をつくろう（相互評価）	生きもの地図の完成（２時間）	講義内容、疑問点をまとめておく（２時間）
6.	動物園オリエンテーション実習（１）	動物の森の下調べ（２時間）	レポートの完成（２時間）
7.	動物園オリエンテーション実習（２）	動物の森の下調べ（２時間）	レポートの完成（２時間）
8.	自然の理解：自然の構成・生物に影響を与える環境要素	各授業テーマについて自分なりに調べておく（２時間）	講義内容、疑問点をまとめておく（２時間）
9.	自然の理解：生きものと生きものの関係（１）	各授業テーマについて自分なりに調べておく（２時間）	講義内容、疑問点をまとめておく（２時間）
10.	自然の理解：生きものと生きものの関係（２）	各授業テーマについて自分なりに調べておく（２時間）	講義内容、疑問点をまとめておく（２時間）
11.	自然の理解：自然の変化 ビオトープの観察（その２）	ビオトープの下見（２時間）	レポートの完成（２時間）
12.	自然と遊ぶ（１）：植物の葉や茎で絵を描こう（実習）	大学内の植物の下見（２時間）	作品の完成（２時間）
13.	自然と遊ぶ（２）：植物の葉や茎で絵を描こう（相互評価）	作品の完成（２時間）	講義内容、疑問点をまとめておく（２時間）
14.	命を考える：生殖・遺伝・進化	各授業テーマについて自分なりに調べておく（２時間）	講義内容、疑問点をまとめておく（２時間）
15.	命を考える：ヒトといういきもの	各授業テーマについて自分なりに調べておく（２時間）	総まとめ（２時間）

教科書	適宜プリントを配付します。
参考書	参考図書などを適宜紹介します。
学習成果の評価方法	受講態度等（20%）、課題レポートの提出（４回を予定）（80%）で総合評価をします。 課題レポートはフィードバックします。
特記すべき事　項	出席は提出物およびコメントカードにより確認します。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	質問・相談があるときは、授業前後に教室または非常勤講師室にて受けます。

科　目	コンピュータ演習	開講時期 履修方法	１年前期 選必、教免必修、保育士選択必修
担当者	准教授　元田　幸代	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	パーソナルコンピュータを使って、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な使い方の学習を行います。 テキストで操作の基本を学んだ後、課題を行っていきます。課題は、授業時間外に取り組む必要がある場合もあります。 毎回の授業内容は次の授業の内容に関連していますので、授業内で課題が完成しなかったり、理解が不十分だったりした場合は、次の授業までに課題を完成および復習しておいてください。授業を欠席した場合は、その回の課題は、次の授業までに各自で行っておいてください。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	ワープロソフト（Word)を使って、ビジネス文書を作成することができる。	DP2,4	Wordを使って行う課題を期限内に提出し、小テストで60%以上得点できる。
2.	表計算ソフト（Excel)を使って、表を作成し、集計やグラフ作成ができる。	DP2,4	Excelを使って行う課題を期限内に提出し、小テストで60%以上得点できる。
3.	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）を使って、プレゼンテーション資料の作成ができる。	DP2,4	PowerPointを使って行う課題を期限内に提出することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法および評価基準）、情報機器実習室の使い方、タッチタイピングについて	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
2.	Word　ビジネス文書作成	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
3.	Word　表の入力	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
4.	Word　ワードアート　図の挿入	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
5.	Word　練習課題	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
6.	Excelの概要、表の作成	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
7.	Excel　関数	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
8.	Excel　グラフの作成	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
9.	Excel　練習課題	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
10.	Word・Excel　小テスト	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
11.	PowerPointの　スライド作成	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
12.	PowerPoint　表・グラフ	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
13.	PowerPoint　アニメーション	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
14.	PowerPoint　練習問題	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習し、課題を行う(30分)
15.	まとめ	授業の振り返りを行う(30分)	授業内容を復習する(30分)

教科書	杉本くみ子・大澤栄子「30時間アカデ教科書 ミック　Office　2019」実教出版
参考書	適宜紹介します。
学習成果の評価方法	課題・小テストなど(80%)、授業への参加姿勢(20%)、課題、小テストは担当教員が確認した後、フィードバックを行います。
特記すべき事　　項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。遅刻、早退等はその日の授業時間内に各自が教員まで伝えにきてください。伝えに来なかった場合は欠席となります。USBメモリを各自準備してください。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に研究室にて受け付けます。

科　目	英語コミュニケーション（Ⅰ）	開講時期 履修方法	１年前期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	教授　虎本　和三	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	英語はグローバル化した社会を生き抜くためのツールであり、その重要性は小学校教育に英語が取り入れられたことからも明らかである。私たちは、日常生活の様々な場面で英語や英語圏の文化に接しながら生活をしている。保育の場においても外国人の保護者や子どもと接する場面も少なくない。そこで本講座では、保育士として必要不可欠な基礎英語力を養成する。自分の考えを相手に伝えるコミュニケーションツールとしての英語力を身につけることを目指している。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	基礎的な英語表現を習得することができる。	DP2	授業中の演習テストで７割以上の得点ができる。
2.	保育の現場に必要な語彙や英会話力を習得することができる。	DP2	授業中の口頭練習や発表に積極的に取り組むことができる。
3.	英語圏の文化や歴史に興味・関心を深めようとする姿勢を身につけることができる。	DP4	ワークシートや課題を積極的にこなし、課題点35点満点中の25点以上を得点できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習の成果について（評価方法および評価基準） Unit 1 前半　保育の英会話への第一歩	テキスト構成把握(30分)	指示された課題作成(30分)
2.	Unit 1 後半　保育園で働く人々と園舎	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
3.	Unit 2 前半　保育園へようこそ（挨拶）	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
4.	Unit 2 後半　保育室	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
5.	Unit 3 前半　時間と数（園児の所持品）	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
6.	Unit 3 後半　保育園で必要な用品	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ テスト準備　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
7.	Unit 4 前半　地図と道案内(1)、まとめとテスト	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
8.	Unit 4 後半　地図と道案内(2)	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
9.	Unit 5 前半　他者の紹介	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
10.	Unit 5 後半　園庭の用具	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
11.	Unit 6 前半　登園と降園	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
12.	Unit 6 後半　天候・感情・状態の表現	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ テスト準備　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
13.	Unit 7 前半　保育士の仕事(1)、まとめとテスト	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
14.	Unit 7 後半　保育士の仕事(2)	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成 (30分)
15.	前期のまとめ	前期講義内容の復習(30分)	テキスト及ワークシートの整理 (30分)

教科書	赤松直子・久富陽子著　「保育の英会話(CD付)　萌文書店
参考書	CDの活用　授業演習用ワークシート
学習成果の評価方法	授業中の評価テスト(50%)、ワークシート・課題(35%)、受講態度等(15%) 評価テストやレポートについては、評価した上でフィードバック・返却します。
特記すべき事　項	授業中に演習内容や評価テストについて事前指示をするので欠席がないように心がける。 出席確認は、授業開始時の応答で行う。遅刻・早退等はその日の講義時間内に申し出ること。
質問・相談等の受付	質問や相談は授業前後に申し出るか、指定した時間帯に研究室（３１２）で受け付ける。

科　目	英語コミュニケーション（Ⅱ）	開講時期 履修方法	１年後期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	教授　虎本　和三	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	英語はグローバル化した社会を生き抜くためのツールであり、その重要性は小学校教育に英語が取り入れられたことからも明らかである。私たちは、日常生活の様々な場面で英語や英語圏の文化に接しながら生活している。保育の場においても、外国人の保護者や子どもと接する場面も少なくない。そこで本講座では、保育士として必要不可欠な基礎英語力を養成する。自分の考えを相手に伝えるコミュニケーションツールとしての英語力を身につけることを目指している。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	基礎的な英語表現を習得することができる。	DP2	授業中の演習評価テストで７割以上の得点ができる。
2.	保育の現場に必要な語彙や英会話力を習得することができる。	DP2	授業中の口頭練習や発表に積極的に取り組むことができる。
3.	英語圏の文化や歴史に興味・関心を深めようとする姿勢を身につけることができる。	DP4	授業用ワークシートや課題を積極的にこなし、課題点３５点中２５点以上を得点できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法および評価基準） Unit 8 前半　保育園の昼食時間	テキスト構成把握　(30分)	指示された課題作成(30分)
2.	Unit 8 後半　食材と料理	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
3.	Unit 9 前半　排泄	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
4.	Unit 9 後半　連絡帳	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
5.	Unit 10 前半　園児間のトラブル、文房具	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
6.	Unit 10 後半　身体の部位	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
7.	Unit 11 前半　けがと病気、まとめとテスト	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ テストの準備　　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
8.	Unit 11 後半　症状と医療機関での表現	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
9.	Unit 12 前半　電話での応対	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
10.	Unit 12 後半　園行事への招待	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
11.	Unit 13 前半　遠足と交通機関	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
12.	Unit 13 後半　保育園の年間行事	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
13.	Unit 14 前半　乳児の対応、まとめとテスト	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ テストの準備　　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
14.	Unit 14 後半　育児用品、成長と発達	テキストの各ユニットの音読 語彙の意味調べ　(30分)	演習内容、語彙の反復練習 指示された課題の作成(30分)
15.	後期授業のまとめ	後期講義内容の復習　(30分)	講義ワークシートの整理 (30分)

教科書	赤松直子・久富陽子著　「保育の英会話」(CD付)　萌文書店
参考書	CDの活用、授業演習用ワークシート
学習成果の評価方法	授業中の演習評価テスト(50%)、課題・ワークシート(35%)、受講態度等(15%) 評価テストやレポートについては、評価した上でフィードバック・返却します。
特記すべき事　項	授業中に演習評価テストやその事前指示をするので欠席がないように心がける。 出席確認は、授業開始時の応答により行う。遅刻・早退等はその日の講義時間内に申し出ること。
質問・相談等の受付	質問や相談は授業前後に申し出るか、指定した時間帯に研究室(３１２）にて受け付ける。

科　目	健康・スポーツ科学演習Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、教免必修、保育士必修、レク必修
担当者	准教授　三好　伸幸	授業形態 単位数	講義＋実習実技 1単位
授業概要	心身ともに健康な生活を送る上において、運動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。そこで健康・スポーツ科学演習Ⅰでは、運動やスポーツの理論とその実践方法を中心に、自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動・スポーツが実践できるようになることを目的とする。また、運動・スポーツを通してより良い人間関係の構築を目指す。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	運動やスポーツの取り組み方を理解し、積極的に、そして安全に実施することができる。	DP4	自ら積極的に、そして安全に配慮しながら活動することができる。
2.	健康における運動やスポーツの重要性を理解し、自身の生活に役立てることができる。	DP4	授業を通してレポート等を課し、60%以上の評価を得ることができる。
3.	運動やスポーツを通して、より良い人間関係を構築することができる	DP4	仲間を思いやり、積極的にグループ活動を行うことができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果・評価基準および評価方法について	シラバスを読み、健康と運動・スポーツの意義を考えておくこと（30分）	授業の概要を振り返り、興味や意欲を高めること（30分）
2.	体力・運動能力測定①（握力、上体起こし、長座体前屈など）、スポーツ活動	新体力テストの項目と方法について事前に学習しておくこと（30分）	授業を通して得られた効果や課題について振り返ること（30分）
3.	体力・運動能力測定②（50m走、ハンドボール投げ）、スポーツ活動	新体力テストの項目と方法について事前に学習しておくこと（30分）	授業を通して得られた効果や課題について振り返ること（30分）
4.	体力・運動能力測定③（シャトルラン）、スポーツ活動	新体力テストの項目と方法について事前に学習しておくこと（30分）	授業を通して得られた効果や課題について振り返ること（30分）
5.	体力測定の意義と体力分析	新体力テストの項目と方法について事前に学習しておくこと（30分）	自身の体力についての特性や課題について振り返ること（30分）
6.	体づくり、スポーツ活動Ⅰ（バスケットボール）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
7.	体づくり、スポーツ活動Ⅱ（バスケットボール）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
8.	体づくり、スポーツ活動Ⅱ（バスケットボール）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
9.	身体活動と健康	身体活動とは何かについて事前に調べておくこと（30分）	自身の運動習慣について振り返ること（30分）
10.	体づくり、スポーツ活動Ⅴ（バドミントン）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
11.	体づくり、スポーツ活動Ⅵ（バドミントン）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
12.	体づくり、スポーツ活動Ⅶ（バレーボール）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
13.	体づくり、スポーツ活動Ⅷ（バレーボール）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
14.	体づくり、スポーツ活動Ⅸ（バレーボール）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
15.	まとめと振返り	これまでの授業内容を振り返っておくこと（30分）	今後の生活に役立てるために何をしていくべきか考えること（30分）

教科書	使用しない
参考書	使用しない（必要に応じて適宜プリントを配布する）
学習成果の評価方法	受講態度・取り組み（40%）、レポート課題（30%）、まとめのレポート（30%） レポート等については評価をおこない、授業内で解説することでフィードバックとする。
特記すべき事　　項	出席は点呼をとるため、挙手し返事をすること。また遅刻、早退、欠席理由は本人より申し出ること。 授業は運動できる服装（指定ジャージ）で参加すること。
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後またはオフィスアワーの時間(主に火曜日、15：00～17：00)に研究室で受け付ける。

科　目	健康・スポーツ科学演習Ⅱ	開講時期 履修方法	１年後期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	講師　永山　寛	授業形態 単位数	講義＋実習実技 1単位
授業概要	心身ともに健康な生活を送る上において、運動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。そこで健康・スポーツ科学演習Ⅱでは、前期におこなった健康・スポーツ科学演習Ⅰを基に、運動やスポーツの理論とその実践方法を中心に、自己の健康のために必要な体力づくりを理解し、生涯を通じて継続的に運動・スポーツが実践できるようになることを目的とする。また、運動・スポーツを通してより良い人間関係の構築を目指す。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	運動やスポーツの取り組み方を理解し、積極的に、そして安全に実施することができる。	DP4	自ら積極的に、そして安全に配慮しながら活動することができる。
2.	健康における運動やスポーツの重要性を理解し、自身の生活に役立てることができる。	DP4	授業を通してレポート等を課し、60%以上の評価を得ることができる。
3.	運動やスポーツを通して、より良い人間関係を構築することができる	DP4	仲間を思いやり、積極的にグループ活動を行うことができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果・評価基準および評価方法について	シラバスを読み、健康と運動・スポーツの意義を考えておくこと（30分）	授業の概要を振り返り、興味や意欲を高めること（30分）
2.	体力・運動能力測定①	新体力テストの項目と方法について事前に学習しておくこと（30分）	授業を通して得られた効果や課題について振り返ること（30分）
3.	体力・運動能力測定②、結果の振返りと前期との比較	新体力テストの項目と方法について事前に学習しておくこと（30分）	自身の体力についての特性や課題について振り返ること（30分）
4.	体づくり、スポーツ活動（ソフトボール、バスケット①）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
5.	体づくり、スポーツ活動（ソフトボール、バスケット②）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
6.	体づくり、スポーツ活動（ソフトボール、バスケット③）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
7.	身体活動と健康との関連①（スポーツと歩数）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
8.	体づくり、スポーツ活動（卓球／バドミントン①）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
9.	体づくり、スポーツ活動（卓球／バドミントン②）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
10.	体づくり、スポーツ活動（卓球／バドミントン③）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
11.	身体活動と健康との関連②（運動強度と健康）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
12.	体づくり、スポーツ活動（バレーボール①）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
13.	体づくり、スポーツ活動（バレーボール②）	種目のルールや特性について事前に調べておくこと（30分）	種目の特性や得られた効果、課題について振り返ること（30分）
14.	体づくり、スポーツ活動（バレーボール③）	自分の得意・不得意な種目ややってみたい種目を考えておくこと（30分）	今後の生活に役立てるために何をしていくべきか考えること（30分）
15.	まとめと振返り	これまでの授業内容を振り返っておくこと（30分）	今後の生活に役立てるために何をしていくべきか考えること（30分）

教科書	使用しない
参考書	使用しない（必要に応じて適宜プリントを配布する）
学習成果の評価方法	受講態度・取り組み（40%）、レポート課題（30%）、まとめのレポート（30%） レポート等については評価をおこない、授業内で解説することでフィードバックとする。
特記すべき事　　項	出席は点呼をとるため、挙手し返事をすること。また遅刻、早退、欠席理由は本人より申し出ること。 授業は運動できる服装（指定ジャージ）で参加すること。
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所で受け付ける。

科　目	現代と女性	開講時期 履修方法	１年前期 選必、保育士選択必修
担当者	准教授　元田　幸代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	現代社会において女性の生き方は多様になり、職業選択の幅も広がってきています。しかし、女性であるがゆえに期待される役割や、制限される活動などの諸問題も存在します。女性が社会の中で直面する諸問題にはどのようなものがあるのかを知り、そのことについて自分の意見を持ち、諸問題を踏まえた上でみなさん自身が自分の生き方を検討することを目標に講義を行います。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	女性が、社会の中で直面する諸問題について、理解することができる。	DP4	女性が、社会の中で直面する諸問題について根拠を示しながら、レポートにまとめることができる。
2.	女性が、社会の中で直面する諸問題について、自分の意見を持つことができる。	DP4	女性が、社会の中で直面する諸問題について自分の意見をレポートにまとめることができる。
3.	女性が、社会の中で直面する諸問題を踏まえつつ、自分の生き方について検討することができる。	DP4	女性が、社会の中で直面する諸問題を踏まえつつ、自分の生き方についてレポートにまとめることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法および評価基準	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
2.	ジェンダーとは何か	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
3.	教育とジェンダー	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
4.	メディアとジェンダー	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
5.	ジェンダーギャップ指数	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
6.	仕事とジェンダー　ワークライフバランス	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
7.	仕事とジェンダー　就労形態	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
8.	仕事とジェンダー　女性政策	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
9.	結婚・離婚とジェンダー	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
10.	子育てとジェンダー	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
11.	家族とジェンダー	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
12.	ライフサイクルとジェンダー	シラバスを読み、授業目標について理解し、関連する事項について調べる（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
13.	各自が調べたことの発表（１）	発表資料作成、準備を行う（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
14.	各自が調べたことの発表（２）	発表資料作成、準備を行う（２時間）	ノートを整理して、授業内容をまとめる（２時間）
15.	まとめ	授業全体の振り返りをしておく（２時間）	授業全体の振り返り、総まとめを行う（２時間）

教科書	なし（適宜プリントを配付します）
参考書	適宜紹介します。
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢(20%)、提出課題（30%）、レポート・発表（50%） 課題、レポート等は担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。遅刻、早退等はその日の授業時間内に各自が教員まで伝えにきてください。伝えに来なかった場合は欠席となります。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に研究室にて受け付けます。

科　目	児童文化論	開講時期 履修方法	１年後期 選必、保育士選択必修
担当者	講師　大谷　朝	授業形態 単位数	講義 2単位

授業概要	子どもは自らを取り巻く環境を通して、人間が築き上げてきた文化に触れ、感性を育んでいく。 「児童文化論」では、子どもの感性を豊かにする児童文化財の意義や魅力を理解し、多様な児童文化財の特性を理解することを目的とする。また、児童文化財の歴史を知り、子どもの成長・発達に果たす役割について検討する。児童文化財の具体的な活用方法を学び、実際に実践しながら乳幼児の発達過程に応じた題材の選択・製作及び表現を行い、保育技術の向上を目指す。

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子どもの発達における児童文化の意義について理解することができる。	DP3	児童文化の歴史・役割について理解し、最終レポートにおいてまとめることができる。
2.	児童文化財を活用するための基礎的な知識を理解することができる。	DP3	多様な児童文化の特徴を理解し、発表することができる。
3.	子どもの発達過程に応じた児童文化財の選択を行い、実践することができる。	DP4	児童文化財の活用技術を練習し、実践することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション　学習成果について（評価方法及び評価の基準）　児童文化の定義・歴史	シラバスを読み、授業目標について理解し関連する事項について調べる（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
2.	児童文化財と「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
3.	児童文化財が子どもの遊びに果たす役割	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
4.	児童文化財の意義①　折り紙など	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
5.	児童文化財の意義②　玩具など	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
6.	児童文化財の製作・実践の注意点	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	児童文化財を選択し、発表に向けて準備する（2時間）
7.	児童文化財のグループ発表・実践①　わらべうた・手遊び・言葉遊び	児童文化財を選択し、発表に向けて準備する（2時間）	児童文化財発表の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
8.	児童文化財のグループ発表・実践②　ペープサート・パネルシアター・人形劇など	児童文化財を選択し、発表に向けて準備する（2時間）	児童文化財発表の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
9.	児童文化財の個人発表・実践①　歌遊び	児童文化財を選択し、発表に向けて準備する（2時間）	児童文化財発表の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
10.	児童文化財の個人発表・実践②　シアタースタイルの児童文化財	児童文化財を選択し、発表に向けて準備する（2時間）	児童文化財発表の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
11.	児童文化財の個人発表・実践③　その他	児童文化財を選択し、発表に向けて準備する（2時間）	児童文化財発表の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
12.	子どもの発達過程に応じた児童文化財の選択	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
13.	子どもの育ちにおける児童文化財の役割と保育者の関わり①　事例検討　0～3歳児	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
14.	子どもの育ちにおける児童文化財の役割と保育者の関わり②　事例検討　3～5歳児	授業テーマについてワークブックを読み、疑問点を明らかにする（2時間）	授業内容の振り返りを行い、ワークブックにまとめる（2時間）
15.	まとめ	全授業を振り返り、ワークブックのまとめを行う（2時間）	授業の内容を確認し、最終レポートをまとめる（2時間）

教科書	「児童文化ワークブック」
参考書	適宜紹介する。
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（10%）、児童文化財発表（40%）、最終レポート及びワークブック提出（50%） 提出課題等は、解説を加え、フィードバックします。
特記すべき事　項	出席は授業開始時の応答により行います。遅刻はその時間内に申し出てください。
質問・相談等の受付	質問・相談がある際は、授業の前後か、授業の際に提出するまとめカードを利用してください。

科　目	保育基礎ゼミⅠ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、科目
担当者	教授　朝木　徹・准教授　元田　幸代・専任講師　四童子　薫・専任講師　井手　裕子・専任講師　舩原　将太	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業は、保育基礎ゼミⅡとともに、大学生に必要な学習スキルやスチューデントスキルを始め人間関係力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、社会人に必要な基礎的汎用能力の養成を目的に開講されています。 保育基礎ゼミⅠでは、集中講義によって保育者に必要な対人関係スキルの養成を行います。集中講義は前半と、後半に分かれています。学生生活をスタートさせる4月では、様々な集団活動を通して、仲間づくりを行います。後半では保育者に必要な専門知識、技術、態度等について知り、今後の学修、大学生活への意欲を高めます。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	クラスや学年全体等の様々な交流を通して、親しい人間関係を構築することができる。	DP4	グループ活動を通して自分の意見を述べたり、他者の意見を傾聴し、クラスの仲間と協力して課題を行うことができる。
2.	クラスメンバーとのコミュニケーションをとり、クラスの一員として自覚を持つことができる。	DP1,4	クラス毎の取り組みに参加し、クラスの目標を取りまとめることができる。
3.	課題を指示に従って丁寧に行うことができる。	DP1,4	出題者の意図を理解して課題を行うことができる。課題を丁寧に、確実に実施することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法および評価基準）	シラバス、学生便覧に目を通す(30分)	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
2.	自分を知る、お互いを知る（１）　（学年交流など）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
3.	自分を知る、お互いを知る（２）　（クラス別交流など）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
4.	自分を知る、お互いを知る（３）　（出身県別交流など）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
5.	ディスカッションと課題達成ゲーム（チームワークについてなど）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
6.	ディスカッションと課題達成ゲーム（リーダーシップについてなど）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
7.	今の思いを話しあってみよう（仲間との思いの共有）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
8.	クラスの団結と今後の目標を立てよう（2日間の振り返りと分かち合い）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
9.	保育者を目指した大学生活の過ごし方について	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
10.	保育所実習に向けた生活技術　フェルトのコースター製作	道具・材料等を準備する（30分）	授業で学んだ内容について復習し、コースターを仕上げる（30分）
11.	保育者に必要な専門知識、技術、態度について（書く）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
12.	保育者に必要な専門知識、技術、態度について（読む）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
13.	保育者に必要な専門知識、技術、態度について（話す）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
14.	保育者に必要な専門知識、技術、態度について（遊ぶ）	授業に関する内容について事前に情報収集しておく（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）
15.	振り返りとまとめ	授業の振り返りを行う(30分)	授業で学んだ内容についてまとめ、復習する（30分）

教科書	なし(必要に応じてプリントを配付します。)
参考書	適宜紹介します。
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢(50%)、課題・レポート(50%)　課題・レポートは担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	授業開始時に、出席確認を行います。遅刻、早退等はその日の授業時間内に各自が教員まで伝えにきてください。伝えに来なかった場合は欠席となります。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に各研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に各研究室にて受け付けます。

科　目	保育基礎ゼミⅡ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、科目
担当者	専任講師　志方　亮介・専任講師　四童子　薫・専任講師　井手　裕子・専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業は、保育基礎ゼミⅠとともに、大学生に必要な学習スキルやスチューデントスキルを始め人間関係力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、社会人に必要な基礎的汎用能力の養成を目的に開講されています。 保育基礎ゼミⅡでは、主に学習スキルとスチューデントスキル、保育者のマナーについて学びます。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	本学の教育方針、建学の精神、ディプロマポリシーを理解し、2年間の学修の見通しを持つことができる。	DP4	キャリアプランニングファイルに教育方針などを記入しており、説明することができる。
2.	社会人としてのマナー（挨拶や言葉遣いなど）について理解し、実践することができる。	DP1,4	社会人としてのマナーを身に付け、学生生活の中で実践できる。
3.	学習スキル、学内の施設設備について理解し、それらを有効に活用することができる。	DP1,4	身に付けた学習スキル、学内の施設・設備を利用して保育学生の基本的な課題に応じることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法及び評価基準）	シラバス、学生便覧に目を通す(30分)	授業資料を読み返す(30分)
2.	教育方針、建学の精神、ディプロマポリシー、校歌について	キャリアプランニングファイルに必要事項を記入する(30分)	教育方針、建学の精神、ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ、校歌の復習を行う(30分)
3.	履修・単位取得、２年間の学びについて	授業資料に目を通し、授業で使用する物を準備する(30分)	授業内容の復習を行い、課題を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
4.	図書館、学内の施設、設備の利用について 学生生活の過ごし方（健康面）	図書館の利用についての資料に目を通す(30分)	授業内容の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
5.	学生生活の過ごし方（生活面）	学生便覧、授業資料の該当部分に目を通す(30分)	課題を行って、授業内容の復習を行う(30分)
6.	ステューデントスキル（大学での学び方）	授業資料の該当部分に目を通す(30分)	課題を行って、授業内容の復習を行う(30分)
7.	学習スキル（読み・書き（レポートの書き方））	授業資料の該当部分に目を通す(30分)	学習スキルの復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
8.	保育者のマナー（話す（電話応対））	授業資料の該当部分に目を通す(30分)	授業内容の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
9.	保育者のマナー（基本・一般的なマナーと常識）	授業資料の該当部分に目を通す(30分)	授業内容の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
10.	保育者のマナー（園内のマナーと常識）	授業資料の該当部分に目を通す(30分)	手紙の書き方の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
11.	保育者の基本（態度・知識・技能）	授業資料の該当部分に目を通す(30分)	敬語、電話のかけ方の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
12.	保育者の基本（言葉遣いと生活技術）	授業資料の該当部分に目を通す(30分)	挨拶、言葉遣いの復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
13.	保育者の基本（子ども・保護者との関わり）	授業資料に目を通し、授業で使用する物を準備する(30分)	授業内容の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
14.	保育者の基本（豊かな保育者になるために）	「快適な学生生活を送るために」に目を通す(30分)	授業内容の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する
15.	振り返りとまとめ	授業の振り返りを行う(30分)	授業内容の復習を行う(30分)また、学んだことを日頃の学生生活で実践する

教科書	幼稚園教育要領解説（平成29年告示　文部科学省）、保育所保育指針解説（平成29年告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年告示　内閣府）、谷田貝公昭編「これだけは身につけたい新・保育者の常識67」一藝社
参考書	「快適な学生生活を送るために」などオリエンテーションで配付される資料 国民生活センター編「くらしの豆知識くらしの豆知識〈2022年版」国民生活センター、その他適宜紹介する。
学習成果の評価方法	授業内で提示した課題（小テストやレポートを含む）による評価(80%)、授業への参加姿勢(20%)を総合して評価する。 授業内で提示した課題は担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行う。
特記すべき事　項	授業開始時に、出席確認を行う。遅刻や早退の際には、各自が授業担当教員まで伝えに来なかった場合、欠席の扱いとする。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー等の時間（火曜 14:50～16:20）に各研究室にて受け付ける。オフィスアワー時に会議等が入る場合は、その他研究室在室時（研究室前に掲示）に各研究室にて受け付ける。

科　目	保育原理	開講時期 履修方法	１年前期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	教授　朝木　徹	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	保育の意義及び目的について理解する。現在、幼稚園や保育所では様々な保育が行われ、多様な保育に対する考え方が存在する。そこで、本授業では子どもを取り巻く近年の社会状況や環境等に視野を広げながら様々な保育課題を考察すると共に、保育の基本的事項（基本原則・保育における養護、目標、内容、環境構成等）や保育の歴史的変遷を踏まえた保育の実際を保育所保育指針を通して学習する。さらに、幼稚園・保育所と地域との連携（子育て支援活動の実際等）に関する理解及び幼稚園・保育所の安全への対応に関する基本的知識を身に付ける。※本授業は、保育所において保育士として3年間携わった実務経験のある教員が保育職の経験を生かし実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育の基本的事項や方法、保育の実際に関して保育所保育指針の内容を踏まえて理解できる。	DP1	試験において保育の基本的事項や方法等に関して、保育所保育指針の記載内容を6割以上解答できる（テスト）
2.	子どもを取り巻く近年の社会状況や環境を踏まえ、保育の意義や目的について理解しながら様々な保育課題を考察することができる。	DP1	授業の内容を踏まえ、近年の社会状況を踏まえた保育の意義や目的について倫理的かつ丁寧にまとめることができる（課題レポート①）
3.	幼稚園・保育所と地域との連携について、特に子育て支援活動に着目しながら保育者に求められる役割を考察することができる。	DP1	授業の内容を踏まえ、幼稚園・保育所と地域との連携の意義等について論理的かつ丁寧にまとめることができる（課題レポート②）

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション／学習成果について （評価方法及び評価基準）	保育原理に関する内容をニュースや新聞、書籍等から予習しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
2.	保育とは何か 保育の基盤としての子ども観	教科書「保育とは何か」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
3.	幼稚園・保育所をめぐる近年の様々な社会状況と乳幼児期にふさわしい生活の展開	教科書「幼稚園・保育所をめぐる…」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
4.	子どもが育つ環境の理解/子どもの生活の変化を踏まえた指導上の課題	教科書「子どもが育つ環境の理解」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
5.	保育の基本事項（基本原則、目標、内容、環境構成、5領域の内容等）と養護及び教育の関係	教科書「保育の基本事項」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
6.	保育の内容・方法の原理① 幼稚園教育要領にみる保育内容	教科書「幼稚園教育要領にみる保育内容」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
7.	保育の内容・方法の原理② 保育所保育指針にみる保育内容	教科書「保育所保育指針にみる保育内容」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
8.	社会の変化と保育内容の関連 （保育の歴史的変遷及び近年の教育・保育政策）	教科書「社会の変化と保育内容の関連」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
9.	諸外国にみる教育・保育理論	教科書「諸外国にみる教育・保育理論」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
10.	よい保育とは （保育の内容・方法）	教科書「よい保育とは」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
11.	保育者の専門性と社会的役割 （保育者という仕事）	教科書「保育者の専門性と社会的役割」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
12.	地域との連携・協働による教育・保育活動の意義及び方法/地域との連携を基とする開かれた幼稚園･保育所づくりが進められてきた経緯	教科書「地域との連携・協働による教育・保育活動」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
13.	幼稚園・保育所と地域との連携 （子育て支援活動の実際等に関する理解）	教科書「幼稚園・保育所と地域との連携」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
14.	事故及び災害に対する危機管理、事故対応を含む幼稚園・保育所の安全管理・教育への取り組み	科書「事故及び災害に対する危機管理、事教故対応」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
15.	保育の現状と課題 まとめとテスト	教科書「保育の現状と課題」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）

教科書	朝木徹著『2023 保育原理 WorkBook』
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、配付プリント、その他（授業中に適宜紹介）
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（授業態度）（10%）、ノート・課題レポート提出（20%）、定期試験（70%） ノート・課題レポート等は、自分なりの考察や丁寧に作成されているか等の観点から評価・フィードバックをした上で返却します。
特記すべき事　　項	毎時間の出席確認は、授業開始時の応答により行います。 遅刻・早退等はその日の講義時間内に申し出てください。
質問･相談等の受付	講義に関する質問は、授業の前後又は研究室に掲示しているオフィスアワー（水曜日12:30～13:00）の時間帯に随時受け付けます。 積極的な授業参加をお願いします。

科　目	教育原理	開講時期 履修方法	１年後期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　舩原　将太	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	現代社会では、多くの「子ども」が当たり前のように学校に通い、教育を受けている。また、多くの大人が、知らず知らずのうちに「子ども」に対して「教育」を行っている。しかし、そもそも「教育」とは何か。また、教育を受けている「子ども」とは何であり、教育を行う「大人」とは何であるといえるのか。本講義では、こうした素朴な問いかけから学びを開始したい。現代の教育への理解を深めるためには、教育にまつわる歴史や思想に問いかけることが不可欠である。また、歴史・思想にとどまらず教育を支える法制度や、隣接する福祉、医療といったものにも目を向けることで、今日における教育の理念について検討を施してゆく。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	教育の基本的概念を身に付ける。	DP1	教育の基本的概念について試験で6割以上解答できる。
2.	教育の歴史に関する基礎的知識を身に付ける。	DP1	教育の歴史に関する基礎的知識及び多様な教育の理念について試験で6割以上解答できる。
3.	多様な教育理念や教育及び学校との関わりを理解する	DP1	教育に関する思想・理念と実際の教育・学校とのかかわりについて試験で6割以上解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法および評価基準） 教育の本質を探究するということ	シラバスを熟読する（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
2.	「子ども」をめぐる歴史－教育の対象である「子ども」の登場	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
3.	「学習」と「教授」の歴史－近代教育の成立	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
4.	近代教育の場としての学校の登場	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
5.	教育の論理を支える思想家たち	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
6.	公教育の理念及びその法制	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
7.	発達について―私を知り、世界を知るということ	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
8.	発達をめぐる障害について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
9.	教育と福祉の連携について―障害児教育の基礎理論	事前配布資料に目を通すこと	配布資料を再読する（2時間）
10.	教育的なコミュニケーションについて	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
11.	教育における評価について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
12.	諸外国の教育制度について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
13.	日本の教育課程について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
14.	家族・社会の連携と家庭教育支援	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
15.	現代社会における教育に関する諸課題	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）

教科書	教科書は指定しません。毎回の講義時に配布する資料を基に講義を実施します。
参考書	適宜、指示します。
学習成果の評価方法	受講態度・姿勢（10%）、小テスト（40%）、最終レポート（50%） 各回の授業終末時に小テストを実施し、採点したものを次回講義時に返却する。また、その際にテストの解説を行いフィードバックする。
特記すべき事　　項	授業開始時に点呼を取り出席を確認する。遅刻をした場合は授業終了時に申し出ること。
質問・相談等の受付	オフィスアワー(火曜日15：45～16：45）にて受け付ける。もちろん、その他の時間であっても柔軟に受け付ける。ただし、研究室来訪に際しては事前にアポイントメントを取ること。

科　目	子ども家庭福祉	開講時期 履修方法	１年後期 必修、保育士必修
担当者	専任講師　舩原　将太	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	現代社会を生きる子どもとは、一方で権利主体とみなされつつも、自立した大人になることが期待された両義的な存在である。本講義では、子どもの自立を支える基盤について、その理念と法制度について検討を行うものである。その際、子どもの居場所として真っ先に想定される「家庭」のみならず、地域社会や国による支援の重要性についても十分に学習していくこととなる。そのうえで、保育士として果たすべき役割についての理解を深める。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子ども家庭福祉の意義・権利擁護・制度や実施体系など基礎知識について専門用語とともに理解する。	DP1	子ども家庭福祉の意義・権利擁護・制度や実施体系など基本的知識について、試験で6割以上回答できる。
2.	子ども家庭福祉の現状と課題について興味関心を持ち、事例とともに理解し、説明できるようになる。	DP3	子ども家庭福祉の現状と課題について事例とともに理解し、試験で6割以上回答できる。
3.	子どもや家庭への支援の必要性を理解し、他職種との連携や保育士の役割について考えたことを文章で説明できる。	DP1,3	子どもや家庭への支援の必要性を理解し、他職種との連携・保育士の役割について考えたことを、試験で6割以上回答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション ①学習成果について（評価方法および評価基準） ②講義の概要について	シラバスをよく読むこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
2.	児童福祉の基礎事項の確認	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
3.	児童福祉に関する歴史の検討	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
4.	児童福祉の現状と課題の確認	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
5.	児童福祉の理念について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
6.	児童福祉と子どもの権利条約	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
7.	児童福祉に関する法制について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
8.	児童福祉と保育（職）	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
9.	社会的養護に関する基礎事項の確認	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
10.	社会的養護をめぐる問題	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
11.	児童虐待とその対応について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
12.	少年非行と児童相談所	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
13.	児童福祉の専門職性	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
14.	障害のある子どもへの支援について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
15.	まとめと振り返り	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）

教科書	指定しません。毎回の講義時に配布する資料を基に講義を実施します。
参考書	適宜、指示します。
学習成果の評価方法	受講態度・姿勢（10%）、小テスト（40%）、最終試験（50%） 各回の授業終末時に小テストを実施し、採点したものを次回講義時に返却する。また、その際にテストの解説を行いフィードバックする。
特記すべき事　　項	授業開始時に点呼を取り出席を確認する。遅刻をした場合は授業終了時に申し出ること。
質問・相談等の受付	オフィスアワー(火曜日15：45～16：45）にて受け付ける。もちろん、その他の時間であっても柔軟に受け付ける。ただし、研究室来訪に際しては事前にアポイントメントを取ること。

科　目	社会福祉	開講時期 履修方法	１年前期 選択、保育士必修
担当者	教授　大川　絹代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	様々な生活上の困難を抱えている人々を支援し、その問題解決のために必要な制度や援助方法、その実施体系について、具体的な事例を通し、グループワーク、ディスカッションを通して実践的・主体的に学ぶ。 その中で、困難を抱えて生きるということはどういうことなのか、また、支援者として必要な姿勢とはどのようなものであるのか、自分のこととして考え、専門職としての視点を学んでいく。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会福祉の基本概念・理念について理解する。	DP1	レポート、定期試験で6割以上解答できる。
2.	社会福祉の制度や実施体系と、現在の課題について理解する。	DP1	デスカッション、グループワークで考えをまとめ発表できる。
3.	利用者理解のための専門職としての視点を理解する。	DP1	定期試験・レポートにて考えをまとめ文章で説明できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について<評価方法・評価基準> 国民の暮らしと社会福祉Ⅰ（少子・高齢化、貧困・格差、孤立と暮らし）	教科書の第1章に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
2.	国民の暮らしと社会福祉Ⅱ（子ども・家庭と暮らし、障害のある人と暮らし、高齢者と暮らし）	教科書の第２章に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
3.	社会福祉の考え方 理論とソーシャルワーク	教科書の第3章に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
4.	社会福祉と基本的人権１ （憲法と社会福祉、権利宣言と権利条約）	教科書の第4章-1.2に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
5.	社会福祉と基本的人権２ （公的責任と社会福祉）	教科書の第4章-3に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
6.	社会福祉の発展過程	教科書の第5章に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
7.	社会福祉の制度と仕組み１ （社会福祉の法律、行政組織の仕組みと機能）	教科書の第6章-1.2第1項に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
8.	社会福祉の制度と仕組み２ （民間活動の役割、社会福祉の専門職）	教科書の第6章-3.4に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
9.	子どもと家庭のための福祉制度、施設と現状	教科書の第7章に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
10.	障害のある人の福祉制度・施設と現状１ （障害者総合支援法の事業と支援）	教科書の第8章-1に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
11.	障害のある人の福祉制度・施設と現状２ （身体障害者福祉法・知的障害者福祉法の事業と支援、精神保健福祉法・発達障害者支援法の事業と支援）	教科書の第8章-2.3に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
12.	高齢者のための福祉制度・施設と現状1 （老人福祉法と養護老人ホームなどの支援）	教科書の第9章-1に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
13.	高齢者のための福祉制度・施設と現状２ （介護保険法の介護サービスと地域支援事業、高齢者医療確保法と高齢者医療制度）	教科書の第9章-2.3に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
14.	地域福祉の仕組み・役割と現状	教科書の第10章に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）
15.	社会福祉の今日的課題	教科書の第11章に目を通しておくこと（2時間）	講義で学んだ授業内容や各種用語について復習しておくこと（2時間）

教科書	中山正雄監修　杉本豊和編著「新・社会福祉　人々の暮らしに寄り添う　」教育情報出版
参考書	適時、授業内で提示
学習成果の評価方法	試験60%、レポート30%、授業参加度（取組、発表）10%。レポートはフィードバック後、返却します。
特記すべき事　　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。 毎回の出席は、授業開始時の応答および各回のミニレポートにより確認します。
質問・相談等の受付	質問、相談があるときはオフィスアワー（火曜日16時～17時）に研究室にて受け付けます。

科　目	社会的養護Ⅰ	開講時期 履修方法	１年後期 選択、保育士必修
担当者	専任講師　志方　亮介	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	子育ては原則として両親が家庭で養育するものであるが、核家族化、地域の養育力の減少、女性の社会進出、多様な価値観などの種々の社会的要因で、家庭だけで子育てをすることが難しくなっている。児童虐待の増加や子どもの貧困など子どもをめぐる問題が顕在化するなかで、子どもの権利と国民の義務としての社会的養護のシステムについて理解を深め、具体的事例についてグループワーク、ディスカッションを通し実践的、主体的に学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会的養護の意義、制度、実施体系、現状と課題について理解する。	DP1	定期試験及びレポート等で６割以上正答できる。
2.	社会的養護の対象、形態、専門職等について理解する。	DP1	定期試験及びレポート等で自身の考えをまとめ、一般的な水準に適切に回答することができる。
3.	社会的養護の歴史的変遷について理解する。	DP1	定期試験及びレポート等でまとめ、６割以上正答することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 社会的養護に関する社会的状況	教科書Chapter1の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
2.	子どもの人権擁護と社会的養護	教科書Chapter2の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
3.	社会的養護の制度と法体系	教科書Chapter3の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
4.	社会的養護の対象と施設などの運営管理	教科書Chapter4の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
5.	家庭養護	教科書Chapter5の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
6.	社会的養護の変遷	教科書Chapter6の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
7.	社会的養護の理念と概念	教科書Chapter7の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
8.	社会的養護の基本原則	教科書Chapter8の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
9.	社会的養護の理論（アタッチメント、ホスピタリズム、ノーマライゼーション）	教科書Chapter9の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
10.	社会的養護の理論（アセスメント、プランニング、記録）	教科書Chapter9の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
11.	社会的養護のしくみと実施体系	教科書Chapter10の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
12.	社会的養護にかかわる専門職	教科書Chapter11の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
13.	専門職の倫理と責務	教科書Chapter11の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
14.	被措置児童等の虐待防止	教科書Chapter12の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
15.	社会的養護の課題と地域福祉およびまとめ	教科書Chapter13の内容を理解する（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）

教科書	中山正雄監修、浦田雅夫編著「よりそい支える社会的養護Ⅰ」教育情報出版
参考書	適時、授業内で提示
学習成果の評価方法	試験（60%）レポートや小テスト等及び授業態度（40%）を含め総合的に判断する。 レポート等については授業中に解説を加えたうえでフィードバックを行う。
特記すべき事　項	出欠確認を授業開始時の応答によって実施する。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ることとする。
質問・相談等の受付	質問や相談などはオフィスアワー（木曜：10：40～12：10）に 219研究室 にて受け付ける。

科　目	発達心理学	開講時期 履修方法	１年前期 必修、教免必修、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	乳幼児の心身の発達に関する基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理学的特性をふまえた、主体的な学習活動を支える指導のための視点や考え方を理解する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児の心身の発達の過程を理解する。	DP1	定期試験で、乳幼児期における発達の特徴について解答できる。
2.	胎児期から青年期における認知や行動の発達について理解する。	DP1	定期試験で、胎児期から青年期にわたる発達過程の各発達段階の特徴について解答できる。
3.	社会や他者との関わりの中での発達について理解する。	DP2	定期試験で、幼児期及び児童期の他者認知や社会性の発達について解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：学習成果や授業の目的、評価の基準などについて	シラバスで授業概要を把握する（1時間）	授業目的や到達目標を振り返り、2回目以降の授業に備える（30分間）
2.	発達段階・発達の生物学的基礎について	関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
3.	発達における遺伝・環境の影響について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
4.	発達に関する代表的理論について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
5.	胎児期・新生児期の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
6.	乳幼児期における発達１：感覚・知覚の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
7.	乳幼児期における発達2：他者理解の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
8.	乳幼児期における発達3：抑制機能の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
9.	乳幼児期における発達4：社会的学習の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
10.	乳幼児期における発達5：道徳観と向社会性の発達	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
11.	乳幼児期における発達6：原始反射・運動の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
12.	乳幼児期及び児童期における言語の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
13.	乳幼児期から青年期にわたる自己の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
14.	青年期における発達の特徴について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
15.	授業の振り返り・まとめ	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（1時間）	これまでの授業内容を振り返り、定期試験に向けての準備をする（2時間）

教科書	特になし。毎回、授業資料を配布する。
参考書	(1) 無藤隆、子安増生（2011）「発達心理学Ⅰ」 東京大学出版会；(2) 岩井邦夫 他（2006）「グラフィック乳幼児心理学」 サイエンス社
学習成果の評価方法	定期試験（60%）、授業内課題　（25%）、授業への取り組み(15%) 授業内課題へのフィードバックは、次回の授業にて実施する。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
特記すべき事　　項	出席は、授業の開始時に点呼により確認する。授業開始（出席確認後）から15分までの出席を「遅刻」とし、それ以降は「欠席」とする。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	質問・相談等の対応は以下の通りとする。 (1) 授業終了後、授業教室にて受けつける。(2) オフィスアワー(木曜日14：50 ～16：20）の時間内に、研究室にて受けつける。

科　目	子ども家庭支援の心理学	開講時期 履修方法	１年後期 選択、保育士必修
担当者	専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	保育者の役割には子どもの養護と教育に加え、子育て家庭や養育者への支援があり、その必要性は近年ますます高まっている。本授業では、ヒトの生涯発達や、子育てという人生のイベントにおける養育者の悩みや発達、家族の意義や機能などについて心理学的な側面から学ぶ。子どもだけではなく養育者についての理解を実際の事例を通して深めることで、体系的な子ども家庭支援のあり方とその課題を考えていく。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	生涯発達の視点からヒトの一生をとらえ、子どもの発達や、子育て中の養育者の心理などに関する基礎的な理解を習得する。	DP1	レポートにおいて、子どもと養育者に関する生涯発達心理学的理解について記述することができる。
2.	家族とは何かを理解するために、家族の意義や機能、家族をとらえるための理論について学び、子どもと家族に対する包括的な視点を習得する。	DP1	レポートにおいて、家族の意義や役割に関する理解について、また親子・家族関係の理解について記述することができる。
3.	子育て家庭に関する基礎的な理解をもとに、保育者としての支援の技術や姿勢を養い、自らの支援のあり方を考えることができる。	DP2	レポートにおいて、子育て家庭にまつわる現代の課題について、また自分自身が目指す支援のあり方について記述することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：学習成果や授業の目的、評価の基準などについて	シラバスで授業概要を把握する（1時間）	授業目的や到達目標を振り返り、2回目以降の授業に備える(30分間)
2.	生涯発達1：胎児期から乳幼児期にかけての発達について	関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
3.	生涯発達2：乳幼児期から児童期にかけての発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
4.	生涯発達3：児童期から青年期にかけての発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
5.	生涯発達4：成人期から老年期にかけての発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
6.	家族と家庭の意義・機能について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
7.	保育者による家庭支援１：基本姿勢・倫理観について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
8.	保育者による家庭支援２：支援の方法・手続きについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
9.	養育者についての理解１：産むことの難しさについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
10.	養育者についての理解2：育児不安・育児ストレスについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
11.	養育者についての理解3：育児制度について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
12.	特別な配慮を要する家庭1: 虐待について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
13.	特別な配慮を要する家庭2: 障害を持つ子どもの育ちについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
14.	保育と社会全体としての子育てについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、考えをまとめる（30分間）
15.	授業の振り返り・まとめ	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	これまでの授業内容を振り返り、最終レポートに向けての準備をする（2時間）

教科書	特になし。毎回、授業資料を配布する。
参考書	(1)幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）；(2)保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省）；(3)幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府）
学習成果の評価方法	最終レポート（65%）、授業内課題（20%）、出席・受講態度(15%) 授業内課題へのフィードバックは、次回の授業にて実施する。
特記すべき事　　項	出席は、授業の開始時に点呼により確認する。授業開始（出席確認後）から15分までの出席を「遅刻」とし、それ以降は「欠席」とする。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	質問・相談等の対応は以下の通りとする。 (1) 授業終了後、授業教室にて受けつける。(2) オフィスアワー(木曜日14：50 ～16：20）の時間内に、研究室にて受けつける。

科　目	教育心理学	開講時期 履修方法	１年後期 必修、教免必修、こども音楽選択必修
担当者	専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	幼児の学習過程についての基礎的な知識を身につけ、各発達段階の心理学的特性をふまえた、幼児の学習活動を支える指導の基礎を理解する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼児の学習に関する基礎知識を身につけ、発達をふまえた学習を支える指導についての基礎的な考え方を理解する。	DP1	定期試験で、幼児の学習の特徴や発達過程について解答できる。
2.	様々な学習のメカニズムを理解し、その特性を活かした教育法について考えることができる。	DP2	定期試験で、学習のメカニズムやその特徴について解答できる。
3.	教育における実践的な指導や評価のあり方、諸問題とその支援について理解できる。	DP2	定期試験で、学習指導や評価、子どもが抱える学習上の困難などについて解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：学習成果や授業の目的、評価の基準などについて	シラバスで授業概要を把握しておく（1時間）	授業目的や到達目標を振り返り、2回目以降の授業に備える（30分間）
2.	学習の概念・学習過程に関する理論について	関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
3.	動機づけについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
4.	記憶について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
5.	思考・推理について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
6.	概念・言語の理解について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
7.	メタ認知・自己調整学習について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
8.	社会的学習・協同による学習について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
9.	条件づけ・強化について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
10.	パーソナリティの理論・測定について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
11.	知能検査・知能に関する理論について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
12.	学習指導の理論とデザインについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
13.	学習評価について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
14.	子どもが抱える困難とその支援	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（30分間）
15.	授業の振り返り・まとめ	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（1時間）	これまでの授業内容を振り返り、定期試験に向けての準備をする（2時間）

教科書	特になし。毎回、授業資料を配布する。
参考書	(1) 瀬尾美紀子 (2021) 「Progress & Application 教育心理学」 サイエンス社; (2) 篠原彰一 (2012) 「学習心理学への招待 [改訂版]」 サイエンス社
学習成果の評価方法	定期試験（60%）、授業内課題　（25%）、授業への取り組み(15%) 授業内課題へのフィードバックは、次回の授業にて実施する。
特記すべき事　　項	出席は、授業の開始時に点呼により確認する。授業開始（出席確認後）から15分までの出席を「遅刻」とし、それ以降は「欠席」とする。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	質問・相談等の対応は以下の通りとする。 (1) 授業終了後、授業教室にて受けつける。 (2) オフィスアワー(木曜日14：50 ～16：20) の時間内に、研究室にて受けつける。

科　目	子どもの保健	開講時期 履修方法	１年前期 選択、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	子どもが健全に発育、成長していくために、子どもの心身の健康増進を図ることが重要です。そのために子どもの身体発育や生理機能、運動機能及び精神機能の発育と保健について理解し、関連する子どもの疾病とその予防法や対応、精神保健とその課題について学びを深めます。また、保育における環境や衛生管理、安全管理について他職種との連携・協働の下での適切な対応についても理解していきます。＊この授業はこども病院において看護師として7年以上の臨床経験を持つ教員により症例説明や保健活動について実践に即した授業を行います。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。	DP1	定期試験および授業中の質問において保健活動の知識について6割以上回答できる。現代社会の子供の現状を把握しレポートすることができる。
2.	子どもの身体発育や生理機能および運動機能、ならびに精神機能の発達と保健について理解することができる。	DP1	定期試験や授業中の質問で身体発育や、生理・運動・精神機能の各発達について6割以上回答できる。簡単な身体の構造が図示できる。
3.	子どもの疾病の予防及び適切な対応について理解することができる。	DP１	定期試験や授業中の質問で疾病の予防や対応の仕方について6割以上回答できる。子どもに多い疾患の対応について具体的に説明できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	科目の概要説明と学習成果について(評価方法および評価基準)説明 生命の保持と情緒の安定及び保健活動の意義	ヒトの生命活動とはどのようなものかについて調べる(2時間)	保健活動の種類を復習しておく(2時間)
2.	健康の概念と健康指標 健康であることの意味や自分自身の健康観についても考えてみる	健康の考え方について諸説を調べる　(2時間)	講義で学んだ健康指標について自身も含め当てはめてみる(2時間)
3.	現代社会における子どもの健康の現状と課題 現代社会で起きている子どもを取り巻く健康問題について考える	子どもの健康の現状について調べる　(2時間)	講義で学んだ内容や子どもの現状について復習する(2時間)
4.	地域における保健活動と児童虐待防止についてディスカッションも含め考える	児童虐待の現状について調べておく　(2時間)	講義で学んだ内容や子どもの現状について復習する(2時間)
5.	子どもの身体的発育・発達と保健 子どもの発育について具体的数値なども示しながら、発達全般について考える	子どもの身体的発達にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や発達の平均値等について復習する(2時間)
6.	身体発育及び運動機能の発達と保健 子どもの発育発達の原則等も交えながら成長について考える	子どもの運動機能の発達にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や発達の平均値等について復習する(2時間)
7.	生理機能の発達と保健ー人体の構造と生理機能について学ぶとともに子どもの成長に伴う生理機能についても考える	子どもの生理機能の発達にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や発達の平均値等について復習する(2時間)
8.	子どもの心身の健康状態とその把握 日常の健康観察とその根拠についても考える	子どもの心身の不安にはどのようなものがあるか現状を調べる(2時間)	講義で学んだ内容や心身の健康を保つための実践法について復習する(2時間)
9.	健康状態の観察 保育施設での健康観察についてグループワークやディスカッションを行う	子どものADLにはどのようなものがあるかを調べる(2時間)	講義で学んだ内容や健康観察の視点について復習する(2時間)
10.	心身の不調等の早期発見 子どもの特徴等も考慮して体調不良に気づくにはどのようなことが必要かについてグループワークを通して考える	自身の心身の不調にはどのようなものがあるかを調べる(2時間)	講義で学んだ内容や心身不調の発見の視点について復習する(2時間)
11.	発育・発達の把握と健康診断 母子健康手帳等を参考に健康診断について考える	子どもの健康診断にはどのようなものがあるかを調べる(2時間)	講義で学んだ内容や健康診断の必要性などについて復習する(2時間)
12.	保護者との情報共有 乳幼児の保護者について理解を深め情報を共有する手段等についても考える	保護者との共有すべき情報にはどのようなものがあるかを調べる(2時間)	講義で学んだ内容や保護者との連携の内容などについて復習する(2時間)
13.	子どもの疾病の予防及び適切な対応 子どもに多い疾患について説明。その予防策や対応について考える	子どもの代表的な疾病にはどのようなものがあるかを調べる(2時間)	講義で学んだ内容や疾患名などについて復習する(2時間)
14.	主な疾病の特徴 子どもに多い疾患について事例をもとに症状や特徴について説明	前回の講義に出てきた疾病の原因・治療・予防法等を調べる(2時間)	講義で学んだ内容や疾患名などについて復習する(2時間)
15.	子どもの保健の振り返りと総合まとめ	テキスト全体を振り返り、確認したいことなどを挙げておく(2時間)	定期試験に備え講義中の質問事項等の再確認をしておく(2時間)

教科書	山下雅佳実他著「イラスト子どもの保健・健康と安全」　東京教学社
参考書	兼松百合子他著　「子どもの保健・実習」同文書院 その他授業中に適宜紹介します
学習成果の評価方法	期末試験(80%)　レポート(15%)　受講態度(5%)　レポートは添削・評価して授業中にフィードバック後に返却します
特記すべき事　項	毎回の出席は名前の応答により確認します。遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出てください。毎回の授業初めに前回授業のポイントを質問します。その項目は必ずノートしておき定期試験に備えておいてください。"
質問・相談等の受付	質問、相談などがあるときは授業終了後 直接質問に来てください。その時の内容で即答、次回持越しや研究室対応を決めます。研究室対応は金曜日16：30～17：30内で受け付けます。

科　目	保育内容総論	開講時期 履修方法	１年前期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	教授　朝木　徹	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	幼稚園や保育所等における園生活全体を通した保育内容の総合的理解という観点から学習を進める。具体的な乳幼児の姿と関連付けながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技能を身に付ける。幼稚園教育要領や保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における各章のつながりを読み解き「保育の目標」、「育みたい資質能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等の保育・教育の全体構造について、乳幼児期の子どもにふさわしい生活や遊びの姿と関連付けながら理解する。また、近年の多様な保育・教育の展開を考察すると共に保育実践に必要な知識や技術を身に付ける。※本授業は、保育所において保育士として3年間携わった実務経験のある教員が保育職の経験を生かし実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育内容の全体構造として、幼稚園教育や保育所保育の基本的内容を理解している。	DP1	試験において幼稚園教育及び保育所保育の基本的内容に関して6割以上解答できる（テスト）。
2.	乳幼児期の子どもの興味や関心、発達過程などに応じて、保育環境を考え保育者のかかわり方や指導計画作成について理解する。	DP2	乳幼児期の子どもの興味や関心、発達過程などを踏まえ具体的な保育者の関わり方や指導計画について、論理的に述べることができる（課題レポート）。
3.	近年の多様な保育の展開を理解しながら、保育実践に必要な知識や技術を身に付ける。	DP3	試験において近年の多様な保育の展開に対する具体的な保育実践に必要な知識や技術について6割以上解答できる（テスト）。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション／学習成果について （評価方法及び評価基準）	保育内容総論に関する内容をニュースや新聞、書籍等から予習しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
2.	園生活全体を通した保育内容の総合的理解	教科書「保育内容の総合的理解」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
3.	保育の基本を踏まえた保育内容の展開 （子どもの主体性の尊重）	教科書「保育の基本を踏まえた保育内容の展開」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
4.	乳幼児期にふさわしい生活 （安定した情緒、主体的な活動、体験の重視）	教科書「乳幼児期にふさわしい生活」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
5.	「幼稚園教育要領」にみる保育内容① 幼児期にふさわしい生活の展開/育みたい資質・能力	教科書「育みたい資質・能力」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
6.	「幼稚園教育要領」にみる保育内容② 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿及び5領域の内容	教科書「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
7.	「保育所保育指針」にみる保育内容① 養護及び教育が一体的に展開する保育	教科書「養護及び教育が一体的に展開する保育」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
8.	「保育所保育指針」にみる保育内容② 子どもの発達過程と保育（生活、遊び、活動）	教科書「子どもの発達過程と保育」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
9.	生活や遊びを通しての総合的な保育と保育者の役割	教科書「生活や遊びを通しての総合的な保育」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
10.	主体的活動としての遊び/子どもにとっての行事の意味	教科書「主体的活動としての遊び」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
11.	環境を通して行う保育	教科書「環境を通して行う保育」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
12.	幼稚園教育・保育所保育と小学校教育の円滑な接続	教科書「幼稚園教育・保育所保育と小学校教育の…」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
13.	保育の計画と記録の意義 具体的な乳幼児の姿から指導計画を立案する手順（長期、短期）と配慮点	教科書「保育の計画と記録の意義」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
14.	子どもの実態に即した具体的な保育・教育課程/指導計画の評価の考え方 （計画P、実践D、記録、省察、評価C、改善A）	教科書「子どもの実態に即した具体的な保育…」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
15.	近年の多様な保育の展開 まとめとテスト	教科書「近年の多様な保育の展開」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）

教科書	太田光洋編『保育内容総論 -生活・遊び・活動を通して育ち合う保育を創る-』同文書院
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、配付プリント、その他（授業中に適宜紹介）
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（授業態度）（10%）、ノート・課題レポート提出（20%）、定期試験（70%） ノート・課題レポート等は、自分なりの考察や丁寧に作成されているかなどの観点から評価・フィードバックをした上で返却します。
特記すべき事項	毎時間の出席確認は、授業開始時の応答により行います。 遅刻・早退等はその日の講義時間内に申し出てください。
質問・相談等の受付	講義に関する質問は、授業の前後又は研究室に掲示しているオフィスアワー（水曜日12:30～13:00）の時間帯に随時受け付けます。 積極的な授業参加をお願いします。

科　目	子どもと健康	開講時期 履修方法	１年前期 選必、教免必修、保育士必修
担当者	准教授　三好　伸幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの健康は、周囲の環境に左右されるため、社会（保護者、保育者を含む）がその環境を整えていくことが大切である。 また、乳幼児期はヒトしての基盤を形成する重要な時期であり、子どもの健康な体や心を育て、将来的に自ら健康で安全な生活を営む力を養っていく必要がある。 本授業では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味及び体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。	DP１	授業で行う小テストで、体の諸機能の発達と生活習慣の形成についてそれぞれ6割以上解答できる。
2.	安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。	DP１，２	授業で行う小テストで、安全な生活と怪我や病気の予防について6割以上解答できる。
3.	乳幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。	DP１，３	乳幼児の運動発達の特徴を理解し、年齢に応じた運動あそびを考えまとめることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果・評価基準および評価方法について	子どもの健康に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
2.	乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題	健康課題に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
3.	健康の定義と乳幼児期の健康の意義	健康の定義について調べ健康の意義について考えておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
4.	乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義	生活習慣に関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
5.	乳幼児期の運動発達	運動器の発達に関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
6.	乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義	動きの獲得に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
7.	乳幼児の体の発達	幼児の体の発達に関する情報を収集しておくこと（30分）	これまでの授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
8.	子どもを取り巻く環境と健康	現代の環境について情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
9.	子どもの運動あそびと健康	運動あそびと健康に関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
10.	子どもの心の健康	心の健康に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
11.	幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方	安全教育・健康管理に関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
12.	幼児期の怪我の特徴や病気の予防	幼児期の怪我の特徴や病気について情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
13.	危険に関するリスクとハザードの違いと安全管理	安全管理に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
14.	日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方	幼児期の身体活動に関する情報を収集しておくこと（30分）	これまでの授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
15.	保育者の役割	保育者の役割について考えをまとめてておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）

教科書	なし
参考書	杉原隆　他　編「保育内容「健康」」ミネルヴァ書房、日本発育発達学会編「子どもと発育発達」杏林書院
学習成果の評価方法	小テスト２回（50%）、課題（30%）、授業態度（20%） テスト、課題については評価を行った後に、授業内で解説をおこなうことでフィードバックとする。
特記すべき事　項	出席は点呼をとるため、挙手し返事をすること。また、遅刻、早退、欠席理由は本人より申し出ること。
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後またはオフィスアワーの時間（主に火曜日15:00～17:00）に研究室にて受付ける。

科　目	子どもと人間関係	開講時期 履修方法	１年後期 選必、教免必修、保育士必修
担当者	教授　朝木　徹	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの発達を幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における乳児保育の視点、1歳以上3歳未満児の保育の視点、3歳以上児の保育の視点を踏まえ、子どもに対する理解を深める。特に、子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴やその社会的背景、求められる保育者の役割について、領域「人間関係」の基盤となる幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項を学習する。※本授業は、保育所において保育士として3年間携わった実務経験のある教員が保育職の経験を生かし実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子どもの発達について、乳児保育、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育内容を理解している。	DP1	試験において、子どもの発達について乳児保育、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育内容に関して6割以上解答できる（テスト）。
2.	乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達論の視点から理解している。	DP2	試験において、乳幼児期の人間関係の発達について園生活の実際でみられる関係発達論の視点に関して6割以上解答できる（テスト）。
3.	子どもの育ちを支える保育者同士の人間関係や協働について理解している。	DP3	授業の内容を踏まえ、子どもの育ちを支える保育者同士の人間関係や協働について論理的かつ丁寧にまとめることができる（課題レポート）。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション／学習成果について （評価方法及び評価基準）	子どもと人間関係に関する内容をニュースや新聞、書籍等から予習しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
2.	私たちにとっての人間関係 （子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景）	教科書「私たちにとっての人間関係」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
3.	子どもの発達の理解①/人と関わる力の育ちがその後の人生を支える力となることについて（幼稚園教育要領、保育所保育指針等に基づく養護と教育の関係）	教科書「子どもの発達の理解①」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
4.	子どもの発達の理解②/家族や地域との関わりと育ち （乳児保育の3つの視点、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育）	教科書「子どもの発達の理解②」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
5.	領域「人間関係」が目指すもの 乳幼児期に育つ人と関わる力の発達	教科書「領域「人間関係」が目指すもの」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
6.	乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達① 保育者との関係	教科書「保育者との関係」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
7.	乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達② 他の乳幼児との関係/集団の中での育ち	教科書「他の乳幼児（集団）との関係」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
8.	自立心・協働性の育ち	教科書「自立心・協働性の育ち」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
9.	道徳性・規範意識の芽生え	教科書「道徳性・規範意識の芽生え」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
10.	子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係	教科書「子どもの育ちを支える保護者と…」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
11.	子どもの育ちを支える保育者同士の人間関係（協働とは）	教科書「子どもの育ちを支える保育者同士の…」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
12.	自分の感情や価値観が子どもとの関係に及ぼす影響	教科書「自分の感情や価値観が子どもとの関係に…」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
13.	青年期のアイデンティティ探求を踏まえた保育者としての成長	教科書「青年期のアイデンティティ探求を…」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
14.	保育者に必要な対人関係スキル	教科書「保育者に必要な対人関係スキル」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
15.	保育現場で出会う様々な保育事例を考える まとめとテスト	教科書「保育現場で出会う様々な保育事例を考える」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）

教科書	朝木徹著『2023 子どもと人間関係 WorkBook』
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、配付プリント、その他（授業中に適宜紹介）
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（授業態度）（10%）、ノート・課題レポート提出（20%）、定期試験（70%） ノート・課題レポート等は、自分なりの考察や丁寧に作成されているかなどの観点から評価・フィードバックをした上で返却します。
特記すべき事　　項	毎時間の出席確認は、授業開始時の応答により行います。 遅刻・早退等はその日の講義時間内に申し出てください。
質問・相談等の受付	講義に関する質問は、授業の前後又は研究室に掲示しているオフィスアワー（水曜日12:30～13:00）の時間帯に随時受け付けます。 積極的な授業参加をお願いします。

科　目	子どもと環境	開講時期 履修方法	１年後期 選必、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　古林　ゆり	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育者は、乳幼児を取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技術を身につける必要がある。さらに、そのねらいや内容の理解とともに実践力を身につけるために具体的な保育内容について学ぶことが重要である。さらに、乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深めることを目指す。 ※本授業は、保育所において幼児教育に13年間携わった実務経験のある教員が、「子どもと環境」に関する保育経験を生かし、実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児を取り巻く環境と、発達における保育内容「環境」の意義を理解している。	DP1,3	乳幼児を取り巻く環境について意識を持ち、保育内容「環境」に関するねらいや内容を理解している。定期試験に6割以上解答することができる。
2.	乳幼児期の思考・科学的概念の発達を理解している。	DP1	視聴覚教材による観察記録や授業内に課せられた課題・レポートにおいて、論露的で簡潔な文章でにより学習成果の評価を行う。
3.	乳幼児期の自然環境、標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解し、保育内容の検討や教材研究に取り組める。	DP1	領域「環境」における基礎的な知識について理解し、乳幼児期の発達に伴った保育内容の立案や教材研究ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果について（評価方法・評価基準）	シラバスを読み到達目標と授業内容について確認しておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
2.	乳幼児を取り巻く環境の諸側面と、乳幼児の発達におけるそれらの重要性	乳幼児を取り巻く社会環境について調べ学習を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
3.	乳幼児と環境との関わりについて	保育における環境構成について調べ学習を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
4.	あそびと環境、保育者の役割	あそびと環境について関連する資料等を確認しておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
5.	知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育などの乳幼児を取り巻く環境の現代的課題	子どもと環境の現代的課題について調べ学習を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
6.	子どもの発達と自然環境①　季節を感じる保育の展開	季節を感じる保育について資料等を確認しておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
7.	子どもの発達と自然環境②　栽培、飼育の意義と目的	保育における栽培、飼育について調べ学習を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
8.	乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の領域「環境」を読む（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
9.	乳幼児を取り巻く標識・文字などの環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の領域「環境」を読む（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
10.	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方	子どもを取り巻く地域の社会資源について調べる（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
11.	子どもの主体的な生活と環境	子どもを取り巻く生活環境に関連する資料等を確認する（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
12.	地域環境への理解と生命尊重の意味について	子どもを取り巻く自然環境について関連資料を確認する（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
13.	科学絵本や図鑑の活用と教材づくり	保育教材づくりの準備を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
14.	保育指導計画の作成と実践方法について	保育指導計画の作成を事前に行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
15.	まとめ	これまで学んだ内容をまとめる（30分）	試験に向けての準備と振り返りを行う（30分）

教科書	使用しません。（授業時に適宜資料を配布）
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞」　フレーベル館
学習成果の評価方法	定期試験（40%）、課題・レポート提出（45%）、授業への参加姿勢（15%）で評価します。 課題については、解説を加えつつフィードバックします。
特記すべき事　　項	・毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。 ・遅刻、早退は、必ず本人が直接理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問などがある場合は、オフィスアワー（月曜日　14:50～16:50）に担当教員の114研究室へ来てください。

科　目	子どもと言葉	開講時期 履修方法	１年前期 選必、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」等における領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指している。「子どもと言葉」においては、領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付けることを目標とする。子どもの言葉の発達過程について具体的に解説し、児童文化財の実践等、体験的に学習を進める。授業内でアクティブラーニングを活用し、グループワークを行うことがある。この授業は、認定こども園での実務経験のある教員が、その経験を活かし、実践を踏まえながら授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、子どもの言葉の発達過程を説明できる	DP1	言葉の意義や子どもの言葉の発達過程について、最終レポートにおいて詳細に記述できる
2.	言葉の美しさや楽しさなど言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解している	DP2	子どもの言葉の発達過程に合わせた言葉遊びなどの実践について、最終レポートにおいて的確に記述できる
3.	言葉を育む児童文化財の意義を理解し、児童文化財を実践できる	DP1	児童文化財の意義を踏まえ、子どもの発達過程に即した児童文化財を選択し、実際に発表できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法及び評価の基準）言葉の獲得の重要性 言葉は人間に何をもたらすか	シラバスを読み、到達目標と授業内容について理解する（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
2.	言葉とコミュニケーション、言葉と思考の関連性	教科書第1章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
3.	子どもの言葉の発達過程（事例をもとに）① 0歳から1歳ごろ	教科書第3章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
4.	子どもの言葉の発達過程（事例をもとに）② 1歳ごろから3歳ごろ	教科書第3章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
5.	子どもの言葉の発達過程（事例をもとに）③ 3歳ごろから5,6歳ごろ	教科書第3章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
6.	「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」等における領域「言葉」について　ねらいと内容	「幼稚園教育要領解説」・「保育所保育指針解説」の領域「言葉」を読む（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
7.	言葉に対する感覚を豊かにする実践①（わらべうた）	教科書第6章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
8.	言葉に対する感覚を豊かにする実践② 言葉遊び（しりとり・なぞなぞ等）	教科書第9章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
9.	子どもの言葉の発達における児童文化財の意義	教科書第7,8章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
10.	言葉を育む児童文化財の実践①　絵本（0歳から2歳）	児童文化財を選択し、実践発表に向けて練習する（30分）	児童文化財の振り返りを行い、ノートをまとめる（30分）
11.	言葉を育む児童文化財の実践②　絵本（3歳から5,6歳）	児童文化財を選択し、実践発表に向けて練習する（30分）	児童文化財の振り返りを行い、ノートをまとめる（30分）
12.	言葉を育む児童文化財の実践③　ストーリーテリング	児童文化財を選択し、実践発表に向けて練習する（30分）	児童文化財の振り返りを行い、ノートをまとめる（30分）
13.	言葉を育む児童文化財の実践④　紙芝居	児童文化財を選択し、実践発表に向けて練習する（30分）	児童文化財の振り返りを行い、ノートをまとめる（30分）
14.	言葉を育む児童文化財の実践⑤　その他 （パネルシアター・エプロンシアター・ペープサート等）	児童文化財を選択し、実践発表に向けて練習する（30分）	児童文化財の振り返りを行い、ノートをまとめる（30分）
15.	まとめ	全授業を振り返り、ノートをまとめる（30分）	全授業のまとめを踏まえてレポートを作成する（30分）

教科書	太田光洋編書「保育内容・言葉」（保育・教育ネオシリーズ20）第三版　同文書院
参考書	幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示　文部科学省）、保育所保育指針解説（平成29年3月告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年3月告示　内閣府）
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（10%）、小テスト（20%）、児童文化財実践（30%）、課題レポート（40%） 課題・レポートについては次回、解説を加えフィードバックします
特記すべき事　項	出席は授業開始時の応答により行います。遅刻、早退は時間内に必ず本人が直接理由を申し出てください
質問・相談等の受付	質問・相談がある際は、オフィスアワー（火曜日、14:50～17:00 ※会議で不在の時もあります）に担当教員の114研究室に来てください

科　目	子どもと表現	開講時期 履修方法	１年前期 選必、教免必修、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・専任講師　四童子　薫・専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達およびそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身に付ける。ICTを活用し、様々な子どもの表現に触れ、表現力を培う。授業内でアクティブラーニングを活用し、グループワークを行うことがある。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児の発達の理解と表現活動の意味を把握できる。	DP1	乳幼児の表現活動の意味についてノートに記述し、理解を深めるとともに実践発表に役立てることができる。
2.	表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、乳幼児の表現・感性を支える保育者としての感性を豊かにすることができる。	DP1,2	感性や表現力を高めるための援助活動を計画し、実践発表をすることができる。
3.	様々な表現活動を体験し、保育者としての表現力や指導・援助力を高めることができる。	DP2	意欲的に表現活動に取り組み、歌や楽器を活用した遊びや表現活動の展開を考えて、人前で発表、表現することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について(評価方法および評価基準)　(担当：宮本)	教科書に目を通しておく(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
2.	表現とは何か、保育の基本と「表現」　(担当：宮本)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
3.	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」について　(担当：宮本)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
4.	音楽表現を生成する過程　(担当：宮本)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
5.	他者の表現を受け止め共感することの意義　(担当：宮本)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
6.	身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性の再構成　(担当：宮本)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
7.	音楽表現することの楽しさを生み出す要因の分析　(担当：四童子)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
8.	様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通したイメージの再構成　(担当：四童子)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
9.	乳幼児の遊びや生活の中に見られる素朴な表現　(担当：井手)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
10.	表現活動の実際(1)　造形表現　(担当：井手)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
11.	表現活動の実際(2)　身体表現　(担当：井手)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
12.	表現活動の実際(3)　総合的な表現活動と集団としての表現活動　(担当：井手)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
13.	表現活動の実際(4)　グループ表現活動　(担当：井手)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
14.	表現活動の実際(5)　個人発表　(担当：四童子)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)
15.	表現活動の実際(6)　グループ発表　(担当：四童子)	課題を振返り、準備を行う(30分)	授業内容を復習しておく(30分)

教科書	榎沢良彦 編著「保育内容・表現」同文書院 植田光子 編著「手あそび百科」ひかりのくに
参考書	幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育　・保育要領解説など
学習成果の評価方法	授業時の取り組み(20%)、提出状況(30%）、グループ、個人発表(50%)により担当者3名の合議で総合的に評価する。 提出物については、次回、解説を加えフィードバックを行う。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時に行う。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。 授業時の取組みも重視するため、欠席等がないように心がけること。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、授業の前後の教室もしくはオフィスアワー（火曜日14：50～16：20）に各研究室にて受け付ける。

科　目	幼児教育方法論	開講時期 履修方法	１年前期 選択、教免必修
担当者	専任講師　舩原　将太	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	幼児教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）を考える上では、子どもたちに求められる資質・能力が社会による「期待」に応じて時々刻々と変化しているという視点が不可欠である。本講義では、教育の対象である「子ども」が発見されるという出来事を起点としながら幼児教育の方法及び技術について学習する。そのうえで現代における幼児教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目指していこう。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な幼児教育の方法を理解する。	DP1,3	幼児教育方法論の基礎的な質問テストに6割以上答えられる。
2.	幼児教育の目的に適した指導技術を理解し会得する。	DP1,2	幼児教育の目的に適した指導技術を理解し、実践できる。
3.	情報機器を活用した効果的な情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に着ける。	DP1	情報機器を活用し、教材を作成できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション ―学習成果について（評価方法および評価基準）、てやんでいから始める幼児教育方法論	シラバスをよく読むこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
2.	幼児教育の基礎的理論について―オーエンとフレーベル	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
3.	教育・保育方法の特性について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
4.	教育・保育における環境の構成について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
5.	子どもの育ちと物的環境	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
6.	子どもの育ちと人的環境	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
7.	子どもの育ちと社会的環境	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
8.	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と育みたい資質・能力	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
9.	「主体的・対話的で深い学び」と教育方法の関係	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
10.	幼児理解に基づいた評価	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
11.	幼児教育・保育における遊び	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
12.	幼児教育・保育における計画と評価	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
13.	子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
14.	幼児教育・保育における情報機器の活用及び効果的な教材・指導案の作成	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
15.	まとめと振り返り	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）

教科書	教科書は指定しません。毎回の講義時に配布する資料を基に講義を実施します。
参考書	適宜、指示します。
学習成果の評価方法	受講態度・姿勢（10%）、小テスト（40%）、最終試験（50%） 各回の授業終末時に小テストを実施し、採点したものを次回講義時に返却する。また、その際にテストの解説を行いフィードバックする。
特記すべき事　　項	授業開始時に点呼を取り出席を確認する。遅刻をした場合は授業終了時に申し出ること。
質問・相談等の受付	オフィスアワー(火曜日15：45～16：45）にて受け付ける。もちろん、その他の時間であっても柔軟に受け付ける。ただし、研究室来訪に際しては事前にアポイントメントを取ること。

科　目	乳児保育Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 選択、保育士必修
担当者	専任講師　古林　ゆり	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解するとともに、子育てを取り巻く現状や課題を踏まえ、3歳未満児の発育・発達に基づく保育の内容と運営体制についての知識を身に付けることを目指す。また、乳児保育における職員、保護者、地域の関係機関との連携について理解する。授業では視聴覚教材による実践観察を行い、グループワーク、プレゼンテーションなどを通して内容の理解を深める。 ※本授業は、保育所において乳幼児教育に13年間携わった実務経験のある教員が乳児教育の経験を生かし、実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割などについて理解している。	DP1	小テストや提出課題の内容によって学習成果の評価を行う。定期試験では、「乳児保育」に関する基礎知識について6割以上解答ができる。
2.	乳児の発達と、保育所・乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解している。	DP1,2	授業内に課せられたレポートにより学習成果の評価を行う。「乳児保育」の現状と課題について理解し、論理的で簡潔な文章で作成されている。
3.	乳児保育の内容と職員間の連携・協同及び保護者や地域の関係機関との連携について理解している。	DP1,2	グループワークおよび発表により学習成果の評価を行う。乳児保育における関係機関との連携について理解し、目標達成のためグループで協働できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法・評価基準）	シラバスを読み到達目標と授業内容について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
2.	乳児保育の意義・目的	保育所保育指針解説第1章１「保育所保育に関する基本原則」を確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
3.	0、１歳児の発達と保育	保育所保育指針解説第２章1「乳児保育に関わるねらいおよび内容」を確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
4.	２歳児の発達と保育	保育所保育指針解説第２章２「３歳未満児の保育に関わるねらいおよび内容」を確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
5.	乳児保育の役割と機能	保育所保育指針解説第5章を読み、保育士の役割について理解する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
6.	乳児保育の歴史的変遷	乳児保育の歴史について調べ、事前学習を行う（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
7.	乳児保育における養護と教育（育児行為の意義）	保育所保育指針解説第１章２を読み、養護について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
8.	乳児保育における養護と教育（あそびの意義）	保育所保育指針解説第１章２を読み、養護について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
9.	乳児保育における社会支援と社会的状況	保育所保育指針解説第４章1、2を読み、子育て支援について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
10.	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	保育所保育指針解説第1章３を読み、保育計画及び評価について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
11.	乳児保育における連携と協働	保育所保育指針解説第4章3を読み、関係機関等との連携について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
12.	乳児の発達を踏まえた保育士による援助や関わり（育児行為と環境）	保育所保育指針解説第3章を読み、子どもの健康や安全について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
13.	乳児の発達を踏まえた保育士による援助や関わり（保育技術）	保育所保育指針解説第2章４節を読み、保育の実施に関する留意点について確認する（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
14.	３歳未満児のあそびと環境（保育観察）	乳児のあそびに関する教材研究を行う（2時間）	授業で学んだ内容やWork Book・資料を読み返し、ノートを整理する（2時間）
15.	乳児保育の現状と課題 まとめ	乳児保育に関する現代の状況等に関する内容を書籍等から情報を得ておくついて調べる（2時間）	試験に向けての準備と振り返りを行う（２時間）

教科書	古林ゆり著「乳児保育Ⅰ　Work Book」
参考書	厚生労働省「保育所保育指針解説　＜平成30年3月＞」　フレーベル館
学習成果の評価方法	定期試験40%、提出課題45%、授業への取り組み15%で評価します。 課題については、解説を加えつつフィードバックします。
特記すべき事項	・毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。 ・遅刻、早退は、必ず本人が直接理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問、相談がある場合は、オフィスアワー（火曜日　10:30～14:30）に114研究室にて受け付けます。

科　目	障害児保育	開講時期 履修方法	１年前期 選択、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	専任講師　志方　亮介	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	個性や多様性が尊重される現代において、障害を持つ子どもたちへの福祉的支援の意義は大きい。本授業では、現代社会の障害へのとらえ方を整理し、発達障害等の各障害に関する知識を習得することを目標とする。保育現場での関わりや支援を念頭におき、ロールプレイや視聴覚教材を用いた障害の模擬体験や、障害児保育に関する現代的課題についてグループワークを通じた学びを求める。さらに、社会制度や支援における多機関連携、多職種連携等、広く児童福祉の視点を身に付ける。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育現場でみられる各種障害について概要を理解し関わり方について検討できるようになる。	DP3	授業で扱った各種障害の概要に関する試験問題に６割以上の正答ができる。
2.	障害児保育に関連する理念や体制、法制度等に関する知識を身に付ける。	DP1	授業で扱った障害児保育の理念や体制等に関する試験問題に６割以上の正答ができる。
3.	ロールプレイや視聴覚教材を用いた模擬体験を通じて障害児者や保護者への共感的態度を身に付ける。	DP1,3	授業時のミニレポートやディスカッションで自分の体験を言語化し分かりやすく説明できるようになる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	授業のオリエンテーション・学習成果（評価方法・評価基準）について／障害児保育の概説	障害児者との接触体験を振り返る（30分）	第１回の授業内容と疑問点の整理（30分）
2.	現代の「障害」概念の歴史的変遷とインクルーシブ保育および合理的配慮への理解	教科書 第１章の当該箇所を読む（30分）	第２回の授業内容と疑問点の整理（30分）
3.	ICFモデルにもとづく多様性の理解と障害児支援	教科書 第１章の当該箇所を読む（30分）	第３回の授業内容と疑問点の整理（30分）
4.	発達障害児への理解①＜自閉スペクトラム症（ASD）への理解と支援＞	教科書 第２章の当該箇所を読む（30分）	第４回の授業内容と疑問点の整理（30分）
5.	発達障害児への理解②＜注意欠如・多動症（AD・HD）および学習症（LD）への理解と支援＞	教科書 第２章の当該箇所を読む（30分）	第５回の授業内容と疑問点の整理（30分）
6.	知的障害児への理解と支援の要点	教科書 第２章の当該箇所を読む（30分）	第６回の授業内容と疑問点の整理（30分）
7.	発達障害児および知的障害児への支援と教材研究	教科書 第３章の当該箇所を読む（30分）	第７回の授業内容と疑問点の整理（30分）
8.	身体障害児（肢体不自由）への理解と支援の要点	教科書 第２章の当該箇所を読む（30分）	第８回の授業内容と疑問点の整理（30分）
9.	視覚障害児、聴覚障害児、言語障害児への理解	教科書 第２章の当該箇所を読む（30分）	第９回の授業内容と疑問点の整理（30分）
10.	重症心身障害児、医療的ケア児への理解	教科書 第２章の当該箇所を読む（30分）	第10回の授業内容と疑問点の整理（30分）
11.	身体障害を中心とした障害児支援の視点と教材研究	教科書 第３章の当該箇所を読む（30分）	第11回の授業内容と疑問点の整理（30分）
12.	障害児保育に向けた多職種連携とチームアプローチ	教科書 第３，４章の当該箇所を読む（30分）	第12回の授業内容と疑問点の整理（30分）
13.	障害受容に向けた家庭支援と関係機関との連携・協働	教科書 第５章の当該箇所を読む（30分）	第13回の授業内容と疑問点の整理（30分）
14.	配慮を要する子どもへの個別の指導計画及び支援計画の作成	教科書 第３，４章の当該箇所を読む（30分）	第14回の授業内容と疑問点の整理（30分）
15.	障害児保育の現状と課題・本授業のまとめ	授業内容全体に関する疑問点の整理（30分）	授業全体の振り返りと疑問点の解消(30分)

教科書	尾野明美　小湊真衣　奥田訓子　「特別支援教育・保育概論ー特別な配慮を要する子どもの理解と支援ー」　萌文書林
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
学習成果の評価方法	授業態度（授業中のワークや小レポートの提出 40%）、定期試験（60%） ワークや小レポートについては担当教員が確認し、内容をまとめたうえで解説を行うことで学生へのフィードバックとする。
特記すべき事　項	毎回の出欠確認は開始時の応答により確認する。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ることとする。
質問・相談等の受付	質問や相談などはオフィスアワー（火曜10：40～12：10）に 219研究室 にて受け付ける。

科　目	音楽Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 選択、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・専任講師　四童子　薫・講師　今村　由紀・講師　山田　光子・講師　遠江　亮子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	幼児期から音楽に接することは、子どもの成長において感性や創造性を養う上で非常に重要なことである。ピアノは保育手段として、歌を歌ったり身体を動かしたりする時、あるいは1日の保育の流れの中で大いに活用される楽器である。ピアノを通して、楽譜の読み方、演奏の仕方、表現の仕方を学び保育者として必要な基礎的な音楽表現力を養う授業を展開していく。課題曲の演奏動画の提出など、ICT教育を活用した双方向授業も行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	ピアノの基礎技術を習得する。	DP1	指や手首の形、指使いなどの基本ができるようになる。また、教科書22頁以上を達成する。
2.	ピアノを通して、基礎的な読譜力を習得する。	DP1	基本的な音符、休符などのリズムや音符の高さを理解して、演奏ができる。
3.	音楽理論、和声理論の学習を通して、ピアノによる簡易伴奏で適切な伴奏付けを習得する。	DP1	ハ長調その他進度に応じて各調のカデンツを左手でおさえ、簡単な和音を使用して童謡が弾けるようになる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：授業概要、授業形態、各種音楽調査など学習成果について(評価方法および評価基準)	教科書に目を通しておく(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
2.	レッスングループの編成、音楽理論と楽譜の読み方	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
3.	教科書：大譜表(10頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
4.	教科書：大譜表(11頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
5.	教科書：和音奏(12～13頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
6.	教科書：並進行・反進行(14頁)	日々の練習状況を記録し、記録用紙の提出準備をする(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
7.	試験（１）：ハ長調カデンツの演奏	課題曲の練習をする(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
8.	教科書：並進行・反進行(15頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
9.	教科書：三和音(16頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
10.	教科書：三和音(17頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
11.	教科書：8分音符と付点4分音符(18～19頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
12.	教科書：簡易伴奏Exercise１(a～d)　(20頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
13.	教科書：簡易伴奏Exercise１(e～i)　(21～22頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
14.	教科書の総復習、練習記録の振返り	日々の練習状況を記録し、記録用紙の提出準備をする(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
15.	まとめと試験（２）	課題曲の練習、試験の準備をする(30分)	授業全体の振り返りを行い、まとめをする(30分)

教科書	清原貴子・鷲尾領子 編著「歌って 弾いて 楽しく学ぶ　保育者のためのピアノレッスン」　櫂歌書房
参考書	適宜紹介する。
学習成果の評価方法	進度・授業時の取り組み(70%)、試験時の演奏(30%）などで総合評価する。 フィードバックは、授業およびレッスン(個別)時に適宜行う。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時と終了時に行う。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。 授業時の取組みも重視するため、欠席等がないように心がけること。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、授業の前後の教室もしくはオフィスアワー（火曜日14：50～16：20）に研究室にて受け付ける。

科　目	音楽Ⅱ	開講時期 履修方法	１年後期 選択、保育士選択必修、こども音楽選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・専任講師　四童子　薫・講師　半田　峰子・講師　山田　光子・講師　遠江　亮子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	前期の「音楽Ⅰ」に引き続き、ピアノを中心に個人およびグループレッスンの形態をとりながら、より程度の高い授業内容を進める。具体的には、左手の伴奏リズムの多様、和音のバリエーション、さらには弾き歌いの学習など、保育現場で必要とされるピアノ演奏の応用技術を展開していく。また童謡以外にもマーチなど他のジャンルの音楽へもレパートリーを拡大しながら授業を実施していく。課題曲の演奏動画の提出など、ICT教育を活用した双方向授業も行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	「音楽Ⅰで習得したピアノの基礎技術をさらに高め、豊かな表現力を習得する。	DP1	ハ長調音階を指使い正しく、なめらかに演奏することができる。また、教科書30頁以上を達成する。
2.	ピアノを通して、高度な読譜力、リズム感、音楽性を習得する。	DP1	8分音符と16分音符や付点音符などを理解し、より複雑なリズムが取れるようになり、童謡などのレパートリーを増やす。
3.	音楽理論、和声理論の学習を通して、保育現場で応用、実践するためのピアノ伴奏力を習得する。	DP1	ハ・ト・ヘ長調など、いろいろな調のカデンツを左手でおさえ、変化のある伴奏形を使用して童謡が弾けるようになる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：授業概要、授業形態、グループ編成 学習成果について(評価方法および評価基準)	教科書に目を通しておくこと(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
2.	教科書：スタッカート(23頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
3.	教科書：簡易伴奏Exercise2(24頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
4.	教科書：５指で弾けるト長調(25～26頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
5.	教科書：簡易伴奏Exercise3(a～c)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
6.	教科書：簡易伴奏Exercise3(d～f)	日々の練習状況を記録し、練習表の提出準備をする(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
7.	試験（１）：ハ長調音階(51頁－62c)の演奏	課題曲の練習をする(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
8.	教科書：５指で弾けるヘ長調(28～29頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
9.	教科書：簡易伴奏Exercise4(a～c)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
10.	教科書：簡易伴奏Exercise4(d～f)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
11.	教科書：3/8・6/8拍子(31～32頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
12.	教科書：簡易伴奏Exercise5(a～b)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
13.	教科書：３連符と16分音符(33～34頁)	日々の練習状況を記録する(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
14.	教科書：簡易伴奏Exercise6(a～d)	日々の練習状況を記録し、記録用紙の提出準備をする(30分)	教科書に目を通し、指摘を受けた箇所を中心に練習をする（30分）
15.	まとめと試験（２）　カデンツと自由曲の演奏	課題曲の練習、試験の準備をする(30分)	授業全体の振り返りを行うこと（30分）

教科書	清原貴子・鷲尾領子 編著「歌って 弾いて 楽しく学ぶ　保育者のためのピアノレッスン」　櫂歌書房
参考書	適宜紹介する。
学習成果の評価方法	進度・授業時の取り組み(70%)、試験時の演奏(30%）などで総合評価する。 フィードバックは、授業およびレッスン(個別)時に適宜行う。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時と終了時に行う。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。 授業時の取組みも重視するため、欠席等がないように心がけること。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、授業の前後の教室もしくはオフィスアワー（火曜日14：50～16：20）に研究室にて受け付ける。

科　目	造形	開講時期 履修方法	１年前期 選択、保育士選択必修
担当者	専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業では、造形の製作課題を通して感性を豊かにするとともに、幼児の造形教育に必要となる基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。 様々な描画素材を用いた作品製作を実践することで、造形に対する理解を深めるとともに、保育者に必要な応用力と創造性を身につける。また、幼児の造形活動の実践時における安全指導の方法についても学ぶ。授業内ではディスカッションやグループワークを行うことがある。この授業は、認定こども園での実務経験のある教員が、その経験を活かし、実践を踏まえながら授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児の造形教育に必要な知識・技能を身につける	DP1	乳幼児期の造形教育に関する知識を理解し、レポートにおいて説明できる
2.	自身の感性を造形で表現できる	DP1	乳幼児の遊びに必要な造形材料の使い方を習得し、それを用いた表現活動ができる
3.	子どもの自発的かつ主体的な造形活動を理解し、説明できる	DP1	乳幼児の持つ創造性を引き出し、豊かな表現へと導くための理論と方法について理解を深めることが出来たか、レポートにおいて的確に記述できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果について（評価方法および評価基準）	シラバスを読み、学習成果について理解する（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
2.	乳幼児期における造形とは何かを学ぶ 就学前～小中学校の発達の連続性を学ぶ グループ討議	教科書P9～17を読んで予習を行う（30分）	グループで出た意見を振り返る（30分）
3.	感性の違いを知る 好きな造形物を持ち寄り、グループ討議	好きな造形物を探し、データ又は印刷物を準備する（30分）	グループで出た意見を振り返る（30分）
4.	用具の使い方、素材を学ぶ 教科書記載以外の用具・素材についてグループ討議	教科書P49～97を読んで予習を行う（60分）	グループで出た意見を振り返る（30分）
5.	様々な技法を学ぶ① 興味を惹かれる技法についてグループ討議	教科書P100～155を読んで予習を行う（60分）	技法の実践をイメージする（30分）
6.	様々な技法を学ぶ② 決定した技法を用いて何を作るかグループ協議	実践したい技法で何ができるかを考えておく（30分）	作成にかかる時間を見通しておく（30分）
7.	様々な技法を学ぶ③ 協議した内容をもとにグループで造形物をつくる	必要な用具、素材を準備しておく（30分）	作成にかかる時間の見通しを修正する（30分）
8.	様々な技法を学ぶ④ 協議した内容をもとにグループで造形物をつくる・続き	前回不足した用具や素材を準備しておく（30分）	完成したものが、どのように保育に活かせるかを考える（30分）
9.	様々な技法を学ぶ⑤ 興味を惹かれる技法についてグループ討議	教科書P156～205を読んで予習を行う（60分）	技法の実践をイメージする（30分）
10.	様々な技法を学ぶ⑥ 決定した技法を用いて何を作るかグループ討議	実践したい技法で何ができるかを考えておく（30分）	作成にかかる時間を見通しておく（30分）
11.	様々な技法を学ぶ⑦ 協議した内容をもとにグループで造形物をつくる	必要な用具、素材を準備しておく（30分）	作成にかかる時間の見通しを修正する（30分
12.	様々な技法を学ぶ⑧ 協議した内容をもとにグループで造形物をつくる・続き	前回不足した用具や素材を準備しておく（30分）	完成したものが、どのように保育に活かせるかを考える（30分）
13.	乳幼児の発達と造形活動について学ぶ 保育実践の場における子どもの姿を知る	教科書P207～231を読んで予習を行う（30分）	実践の場における子どもの姿をイメージする（30分）
14.	発達に課題がある子どもの造形活動について学ぶ 保育実践の場における子どもの姿を知る	教科書P207～231を読んで予習を行う（30分）	実践の場における子どもの姿をイメージする（30分）
15.	グループ討議とレポート作成 まとめ　配布資料やレポートに解説を加えながら全体の学びを振り返り、理解度の向上を図る	レポートに使用するデータや素材を準備しておく（60分）	各グループのレポートを振り返る（30分）

教科書	樋口一成　編著　「幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材」　萌文書林
参考書	必要に応じて資料の配布を行う
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（20%）、課題（40%）、レポート（40%）を総合的に評価する 課題・レポートについては次回、解説を加えフィードバックします
特記すべき事　項	出席は授業開始時の応答により行います。遅刻、早退は時間内に必ず本人が直接理由を申し出てください
質問・相談等の受付	質問・相談がある際は、オフィスアワー(火曜日、14:50～17:00 ※会議で不在の時もあります)に担当教員の114研究室に来てください

科　目	造形表現	開講時期 履修方法	１年後期 選択、保育士必修
担当者	講師　川村　愛	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	表現とは、心に思うことや感ずることを色や形によって、表し出すことです。その過程に自由な発想と気づきがあり、そして互いに鑑賞することで寛容な心を育み、人間性を豊かにするものです。 本講義は、子ども達の豊かな感性を伸ばすことができる保育者としての視点・気づきを大切にし、自らも楽しみながら主体的に制作に取り組むことを目標とし、生涯を通じて人間的な発達を図る端緒となることを期待します。		

	到　達　目　標	該当する DP番号	学習成果の評価基準
1.	自らの発想や気づきを基に表現し、主体的に誠実に制作することができる。	DP1	制作活動やレポートの中で他者と違った視点を持っているか、作品に工夫がされているか、完成度を上げる努力がなされているかを評価する。
2.	制作活動に必要な知識と技術を向上させることができる。	DP1	材料や画材の使い方を理解し、適切に使用できているか、技法を使って表現する努力ががなされているかを評価する。
3.	相互に作品を鑑賞し、感想を言葉で表現するボキャブラリーを身につけることができる。	DP2	自らの作品についてレポートで解説をし、他者の作品を鑑賞し感想を述べることができるかを評価する。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：授業の流れ、学習成果について（評価方法・評価基準）、画材について説明。自分と造形表現についての考察/フロッタージュ	授業計画を確認しておく。（30分）	課題レポート作成(30分)
2.	子どもの発達段階と表現/造形教育について調べてみよう	教科書P23～27に目を通しておく。（30分）	課題レポート作成(30分)
3.	色彩について/コラージュによる感情表現①	制作材料の準備［雑誌,チラシ,いろがみ,はさみ,のり,ぞうきん］	必要ならば制作を進める（30分）
4.	コラージュによる感情表現②	制作材料の準備［雑誌,チラシ,いろがみ,はさみ,のり,ぞうきん］（30分）	課題レポート作成(30分)
5.	光と風と音のスケッチ/バチック	制作材料の準備［絵具,筆,パレット,クレパス,ティッシュペーパー］（30分））	課題レポート作成(30分)
6.	インクルーシブアートについて/粘土を使った立体表現①オノマトペ	制作材料の順備［粘土,粘土ベラなどの道具,木工ボンド,絵具,ぞうきん］（30分）	制作計画をもとに、必要な準備をする(30分)
7.	粘土を使った立体表現②芯材を使って	制作材料の順備［粘土,粘土ベラなどの道具,木工ボンド,絵具,ぞうきん］（30分）	課題レポート作成(30分)
8.	様々な絵画技法①デカルコマニー・ストリングス・スキージ	制作材料の準備［絵具,筆，パレット，糸］（30分）	課題レポート作成(30分)
9.	様々な絵画技法②スタンピング・ステンシル	制作材料の準備［絵具,筆，パレット，はさみ，おもしろいかたちのもの］（30分）	課題レポート作成(30分)
10.	鑑賞/様々な環境の子ども達とアート	教科書P65～72に目を通しておく。（30分）	課題レポート作成(30分)
11.	アートを取り入れた実践/異なる素材を使った表現	制作材料の順備［廃材，粘土，木工ボンド,はさみ,のり，テープなど］（30分）	課題レポート作成(30分)
12.	グループ活動　大きな絵の制作①計画～制作	グループごとに制作材料の準備（30分）	制作計画をもとに、必要な準備をする(30分)
13.	グループ活動　大きな絵の制作②	グループごとに制作材料の準備（30分）	制作計画をもとに、必要な準備をする(30分)
14.	グループ活動　大きな絵の制作③	グループごとに制作材料の準備（30分）	課題レポート作成(30分)
15.	まとめ	これまでの授業を振り返っておく（30分）	課題レポート作成(30分)

教科書	北沢昌代、畠山智宏、中村光絵『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現』開成出版
参考書	授業内で適宜提示します。
学習成果の評価方法	提出作品（60%）、レポートの提出（20%）、授業への取り組み（20%） 作品・レポートについては、評価後返却し内容についてフィードバックします。
特記すべき事　　項	・出席は授業開始時に点呼にて確認。 ・欠席、遅刻、早退等で授業内に作品などが提出できなかった場合は、次回もしくは最終授業までに必ず提出すること。
質問・相談等の受付	質問、相談は随時受け付け、必要に応じてフィードバックします。

科　目	幼児体育	開講時期 履修方法	１年後期 必修、保育士選択必修、レク必修
担当者	准教授　三好　伸幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの心身の健全な発育発達を促す上で、運動は必要不可欠な要素の一つである。特に幼児期においては脳と身体のネットワークを形成する重要な時期であり、運動を通じて正しい身体の使い方を体得することが重要である。また、幼児期においては、遊びを通し様々な体験をすることによって身体の動きをかくとくすることが多いと考えられる。 本授業では、基本的な動作を行う運動遊びや身近な物を用いた運動遊びを行う。授業で体験することで運動の特性を理解し、工夫できる力を養う。そして、指導力の基盤を形成することを目的とする。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	運動遊びに関する指導や環境づくりができる。	DP1	授業で行った内容を理解し、指導や環境作りのポイントを図表を用い丁寧にまとめることができる。
2.	身近な物を用いて創意工夫し、運動を楽しむことができる。	DP3	意欲的に運動を楽しもうと取り組む姿勢や楽しむたための工夫を考え、提案することができる。
3.	安全に配慮して運動を行う環境づくりができる。	DP1	自己のみならず他者への危険を察知でき、安全に運動を行える環境作りができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果・評価基準および評価方法について	幼児期の運動あそびに関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
2.	基本的な動作を体験する遊びⅠ（走る動きを引き出す遊び）	体力測定の項目と方法について事前に調べておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
3.	基本的な動作を体験する遊びⅡ（跳ぶ動きを引き出す遊び）	遊びと体力の関係について事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
4.	基本的な動作を体験する遊びⅢ（投げる動きを引き出す遊び）	走る遊びについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
5.	基本的な動作を体験する遊びⅣ（蹴る動きを引き出す遊び）	跳ぶ遊びについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
6.	幼児の体力測定と結果の理解、活用方法	投げる遊びについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
7.	器具を使った運動遊びと指導法Ⅰ（マット運動）	蹴る遊びについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
8.	器具を使った運動遊びと指導法Ⅱ（マット運動）	幼児の体力測定と方法について事前に調べておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
9.	器具を使った運動遊びと指導法Ⅲ（跳び箱）	幼児の体力測定の結果の解釈について調べておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
10.	器具を使った運動遊びと指導法Ⅳ（跳び箱）	新聞紙を使った遊びについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
11.	器具を使った運動遊びと指導法Ⅴ（鉄棒）	ペットボトルを使った遊びについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
12.	器具を使った運動遊びと指導法Ⅵ（鉄棒）	紙パックを使った遊びについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
13.	器具を使った運動遊びと指導法Ⅶ（縄跳び）	複合あそびの意味について調べ情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
14.	器械体操の確認テスト	熱中症に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
15.	まとめ	これまでの授業に関する内容をまとめておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）

教科書	なし
参考書	石井美晴・菊池秀範　編集　「保育の中の運動遊び」　萌文書林
学習成果の評価方法	課題（40%）、確認テスト（30%）、授業への取組み（30%） 課題、確認テストについては評価をおこない、授業内で解説しフィードバックとする。
特記すべき事　　項	出席は点呼をとるため、挙手し返事をすること。また、遅刻、早退、欠席理由は本人より申し出ること。
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後またはオフィスアワーの時間（主に火曜日15:00～17:00）に研究室にて受付ける。

科　目	「子どもと言葉」指導法	開講時期 履修方法	１年後期 選択、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「言葉」は「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指す。「子どもと言葉」指導法においては、乳幼児期に育みたい資質能力について理解し、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」等に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、子どもの発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、情報機器や教材を活用した保育を構想する方法を身につけることを目的とする。アクティブラーニングを活用し、グループワークを行うことがある。この授業は、認定こども園での実務経験のある教員がその経験を活かし、実践を踏まえながら授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」等に示される領域「言葉」のねらい及び内容を理解する	DP1	領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、言葉を育む保育の構想について、最終レポートで自分の考えを記述できる
2.	子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける	DP2	言葉に関する発達や学びの過程について理解し、保育計画に基づく指導案を作成できる
3.	領域「言葉」の特性を踏まえ、情報機器や機材を活用した保育実践を実施できる保育技術を身に付ける	DP1	指導案に基づく模擬保育を実践し、振り返りを行うことができる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション　学習成果について（評価方法及び評価の基準）「幼稚園教育要領」等における領域「言葉」の位置づけ（ねらい・内容）	シラバスを読み、到達目標、授業内容について理解する（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
2.	子どもの言葉の発達における保育者の援助① 0歳から2歳まで　事例分析	配布資料を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
3.	子どもの言葉の発達における保育者の援助② 3歳から6歳まで　事例分析	配布資料を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
4.	子どもの言葉の発達過程と保育計画及び評価	配布資料を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
5.	領域「言葉」と他領域の関わり、小学校国語科教育のつながりと相違	教科書第2章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
6.	子どもの発達過程に合わせた言葉を育む遊び① ごっこ遊びの実際と劇遊びの発展	教科書第10章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
7.	子どもの発達過程に合わせた言葉を育む遊び② 言葉に対する感覚を育てる言葉遊び	配布資料を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
8.	子どもの発達過程に合わせた情報機器及び教材の活用 児童文化財と環境の構成	配布資料を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
9.	言葉を育む保育指導案の作成・検討	配布資料を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業内容を振り返り、指導案作成を行う（30分）
10.	言葉を育む保育①　模擬保育と振り返り（言葉に対する感覚を育てる保育）	指導案に基づき、模擬保育の準備を行う（30分）	授業内容を振り返り、課題を明確にする（30分）
11.	言葉を育む保育②　模擬保育と振り返り（言葉を育む教材・情報機器の活用）	指導案に基づき、模擬保育の準備を行う（30分）	授業内容を振り返り、課題を明確にする（30分）
12.	言葉を育む保育③　模擬保育と振り返り（言葉を育む多様な遊び）	指導案に基づき、模擬保育の準備を行う（30分）	授業内容を振り返り、課題を明確にする（30分）
13.	言葉の育ちに関わる現代的問題①　特別な配慮を必要とする子どもへの関わり　事例検討	教科書第5章を読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
14.	言葉の育ちに関わる現代的問題②　多文化理解を進める保育 児童文化財等の教材の活用	ワークブックを読み、疑問点を明らかにする（30分）	授業で学んだ内容を振り返り、ノートをまとめる（30分）
15.	まとめ	全授業を振り返り、ノートをまとめる（30分）	全授業のまとめを踏まえてレポートを作成する（30分）

教科書	太田光洋編書 「保育内容・言葉」 （保育・教育ネオシリーズ20）第三版　同文書院
参考書	幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示　文部科学省）、保育所保育指針解説（平成29年3月告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年3月告示　内閣府）
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（15%）、指導案（30%）、模擬保育（20%）、課題レポート（35%） 指導案・レポートについては次回、解説を加えてフィードバックを行います
特記すべき事　項	出席は授業開始時の応答により行います。遅刻、早退はその時間内に必ず本人が申し出てください
質問・相談等の受付	質問・相談がある際は、オフィスアワー(火曜日、14:50～17:00　※会議で不在の時もあります）に担当教員の114研究室に来てください

科　目	「子どもと表現」指導法	開講時期 履修方法	１年後期 選択、教免必修、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・専任講師　四童子　薫	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。本授業では、乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付けることを目的とする。授業内ではアクティブラーニングを活用し、グループワークを行うことがある。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。	DP1	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」のねらい及び内容について理解し、レポートの形にまとめることができる。
2.	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	DP1	子どもの生活における表現の意味について理解し、感性や表現力を高めるための具体的な援助活動を計画し、指導案を作成することができる。
3.	音楽表現を理解し、実際に保育に活用できる保育技術を身に付ける。	DP1	領域「表現」のねらい及び内容について理解した上で、それに基づいた音楽表現活動の実践や模擬保育に取り組み、指導法を習得することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法および評価基準）（担当：宮本）	教科書の第一章を読んでおく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
2.	幼稚園教育要領・保育所保育指針における基本、 領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造（担当：宮本）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
3.	領域「表現」の特性及び乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法の理解（担当：宮本）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
4.	幼稚園教育における評価の考え方（担当：宮本）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
5.	領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながり（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
6.	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
7.	領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法①（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
8.	領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法②（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
9.	領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法③（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
10.	領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法④（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
11.	指導案の構造を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案の作成（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
12.	模擬保育とその振り返り①（0～2歳児への保育）(担当：四童子)	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
13.	模擬保育とその振り返り②（3～4歳児への保育）(担当：四童子)	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
14.	模擬保育とその振り返り③（5～6歳児への保育）(担当：四童子)	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)
15.	保育実践の動向、まとめ（担当：四童子）	指定する課題を予習しておく(30分)	本時限内容について復習しておく(30分)

教科書	吉富功修・三村真弓編著　「幼児の音楽教育法～美しい歌声をめざして～」改定5版　ふくろう出版
参考書	榎沢良彦編著「保育内容・表現」（保育・教育ネオシリーズ19）同文書院 幼稚園教育要領（平成29年度3月告示　文部科学省）、保育所保育指針（平成29年度3月告示　厚生労働省）、幼保連携型こども園教育・保育要
学習成果の評価方法	授業時の取り組み(30%)、指導案の作成(10%)、模擬保育(20%)、提出物・小テスト(40%)等により総合的に評価する。 提出課題については次回、解説を加えフィードバックを行う。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時に行う。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。 授業時の取組みも重視するため、欠席等がないように心がけること。
質問・相談等の受付	授業の前後に教室、もしくはオフィスアワー（火曜日14:50～16:20）に各研究室にて受け付ける。

科　目	保育所実習Ⅰ	開講時期 履修方法	１年後期 選択、保育士必修、レク選択必修
担当者	教授　朝木　徹・専任講師　古林　ゆり・専任講師　舩原　将太	授業形態 単位数	学外実習 2単位
授業概要	1年次の保育所実習は、1年次後期の10月に実施され、あらかじめ本学が指定した保育所にて、10日間の見学・観察・参加を中心にした現場実習を行う。保育所の目的・機能及び入所児の生活の様子などについて、実習体験を通して理解を深める。 実習にあたっては、交通費、給食費等の費用が必要にある場合がある。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育所の役割や機能を具体的に理解できる。	DP2,4	実習園からの評価が3以上であること。実習指導Ⅰで準備した教を活用するなど保育技術を高め、保育所の役割や機能を体験的に理解できるようになる。
2.	観察記録や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めることができる。	DP2	実習園からの評価が3以上であること。 日誌等に子どもとの関わりなどが的確に記述されている。
3.	保育士の業務内容や職業倫理について具体的に知ることができる。	DP3	実習園からの評価が3以上であること。 日誌等に保育の業務内容などが的確に記述されている。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
	予習（必要時間）	復習（必要時間）
○オリエンテーション／学習成果について （実習資格基準、評価方法及び評価基準） ○保育所実習Ⅰを通して次の事項を体験的に学習する 1．保育所の役割と機能 （1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり （2）保育所保育指針の理解と保育の展開 2．子どもの理解 （1）子どもの観察とその記録による理解 （2）子どもの発達過程の理解 （3）子どもへの援助や関わり 3．保育内容・保育環境 （1）保育の計画に基づく保育内容 （2）子どもの発達過程に応じた保育内容 （3）子どもの生活や遊びと保育環境 （4）子どもの健康と安全 4．保育の計画・観察・記録 （1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解 （2）記録に基づく省察・自己評価 5．専門職としての保育士の役割と職業倫理 保育士の業務内容 職員間の役割分担や連携・協働 保育士の役割と職業倫理	保育所実習Ⅰは体験的な学習が主となる為、予習として次の内容についてテキストや保育所保育指針、ニュースや新聞、関係書籍等を活用して予習しておく。 1．保育所の役割と機能 2．子ども理解 3．保育内容・保育環境 4．保育の計画・観察・記録 5．専門職としての保育士の役割と職業倫理	実習期間で学んだ知識や技術等の内容を日々、復習しておく。

教科書	朝木徹、大谷朝著『2023 保育所実習サブテキスト』
参考書	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、待井和江・福岡貞子編『保育実習・教育実習』ミネルヴァ書房
学習成果の評価方法	実習園の評価（70%）を参考に実習日誌等（30%）を併せ学内で総合的に評価します。
特記すべき事　項	実習を行うためには「幼児保育学科 学外実習に関する実習資格基準」を満たす必要があります。
質問・相談等の受付	実習中の質問・連絡については、連絡先を実習開始前にお知らせします（実習前後については実習指導Ⅰと同様です）。

科　目	教育実習Ⅰ	開講時期 履修方法	１年後期 選択、レク選択必修、教免必修
担当者	准教授　三好　伸幸・専任講師　四童子　薫・専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	学外実習 2単位
授業概要	1年次においては、見学・観察・参加活動を主とする2週間（10日間）の実習を、あらかじめ学校側が指定した幼稚園（基本実習園）においておこなう。 幼稚園の目的・機能および教師が園児に対しておこなう教育・保育や園児の園生活の様子などについて、実習を通して理解を深める。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	学内での講義や演習で学修した保育に関する知識・技術・技能を活用できる。	DP1	教育実習Ⅰの評価が3以上取れ、実習日誌の幼児の活動を正しく記入することができる。
2.	幼稚園での教育・保育の実際について、体験的にまた総合的に理解できる。	DP2	教育実習Ⅰの評価が3以上取れ、実習日誌の教師の援助と指導上の留意点を正しく記入することができる。
3.	幼稚園での教育・保育の実際について、理論と実践を統合することができる。	DP2	教育実習Ⅰの評価が3以上取れ、実習日誌の環境の構成を正しく記入することができる。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
	予習（必要時間）	復習（必要時間）
教育実習（Ⅰ）では見学・観察・参加活動を主とする実習を行う。 見学・観察においては以下の3つのカテゴリーに着目する。 １．幼稚園の実情に関するカテゴリー （１）幼稚園教諭（仕事、役割、指導のあり方等） （２）人的組織（園児数、クラス数、園務分掌組織等） （３）その他（施設・設備・備品・園の規則・園の地域性等） ２．子どもの実態に関するカテゴリー （１）子どもの興味・関心・欲求等（内面的な部分） （２）子どもの健康状態、身体発達等（外面的な部分） ３．家庭の状況に関するカテゴリー （１）園と家庭との連携 （２）保護者の子どもや園への関わり等 参加活動においては、各園の指導教諭の指導と助言を受け、その指示に従って保育活動や園務に指導教諭と一緒に積極的に従事する。	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示で準備をおこなうこと（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容を生かし翌日の実習目標を立てること（2時間）	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示を復習し、実習園の教育方針や目標を復習しておくこと（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容についてまとめること（2時間）

教科書	なし
参考書	幼稚園教育要領
学習成果の評価方法	実習園の評価表（70%）を参考に実習日誌等を併せ学内で総合的に評価する。
特記すべき事　　項	実習中の欠勤・遅刻・早退、トラブル等の連絡は確実に実習演習室に連絡すること。また、実習資格基準を満たさない場合は実習に出られないので注意すること。その他、交通費が必要な場合ある。
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後または各担当教員のオフィスアワーの時間に研究室および218実習演習室にて受付ける。

科　目	実習指導Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 選択、教免必修、保育士必修
担当者	教授　朝木　徹・専任講師　古林　ゆり・専任講師　舩原　将太	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	実習指導Ⅰは、2年間5回の実習の基礎的内容であり、「保育所実習Ⅰ」に向けての授業を展開する。 実習指導Ⅰは、保育所実習Ⅰの事前、事後指導として位置づけられている。実習の意義や目的の理解、各教科で得た知識や技術と実践との具体的統合を通して、実習への意欲や意識を高める。さらに、実習体験を基礎にして保育所の使命や自己の学習目標を再確認する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育所実習の意義・目的を十分に理解できる。	DP2,4	テストにおいて、保育所実習の意義・目的について6割を超えて解答できる。
2.	保育所実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。	DP3	チェックリストの関連項目の達成度が8割を超える。
3.	実習の計画・観察・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に理解することができる。	DP2	日誌・教材製作・指導案等の課題提出が期限内に行え、保育内容発表が的確に行える。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（実習の実施計画、実習に向けてのイメージづくり）／学習成果について（学外実習に関する実習資格基準及び評価方法、評価項目）	実習指導に関する内容をニュースや新聞、書籍等から予習しておく（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
2.	保育所実習（見学・観察・参加実習）の意義、目的、概要について	サブテキスト「保育所実習の意義等」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
3.	保育の内容と課題の明確化。 実習における見学・観察記録の取り方について（保育所の1日の流れ）	サブテキスト「実習の際の見学・観察記録の取り方」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
4.	実習日誌の書き方について（見学・観察記録の取り方を踏まえて）	サブテキスト「実習日誌の書き方」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
5.	模擬保育の体験（保育内容としての遊び）	サブテキスト「模擬保育の体験」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
6.	外部講師による実習に向けての講話	サブテキスト「外部講師による実習に向けての講話」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
7.	実習園別交流（朝の会、帰りの会の進め方）	サブテキスト「実習園別交流」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
8.	部分保育指導案の作成について（計画と実施、留意点等）	サブテキスト「部分保育指導案の作成」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
9.	実習園別集団・個人面談（実習における課題の明確化、留意事項等）	サブテキスト「実習園別集団・個人面接」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
10.	保育実習1・2年生合同連絡協議会「1年生の初めての保育所実習に向けて」	サブテキスト「保育実習1・2年生合同連絡協議会」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
11.	実習日誌の準備について（子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務）	サブテキスト「実習日誌の準備」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
12.	事前訪問指導（実習生としての心構え）	サブテキスト「事前訪問指導」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
13.	事前訪問（実習の計画と記録等）	サブテキスト「事前訪問」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
14.	保育内容研究発表会（自己紹介教材、手遊び等）	サブテキスト「保育内容研究発表会」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）
15.	実習の準備、実習直前指導（実習中の心得、課題の明確化、諸注意等）	サブテキスト「実習直前指導」の頁を中心に目を通しておくこと（30分）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（30分）

教科書	朝木徹・大谷朝著『2023 保育所実習サブテキスト』
参考書	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、待井和江・福岡貞子編『保育実習・教育実習』ミネルヴァ書房
学習成果の評価方法	出席・課題提出などの平常点40%、テスト60% 課題については、評価・フィードバックをした上で返却します。
特記すべき事項	保育所実習に向けての重要な科目です。 止むを得ない事情以外の欠席や事前の連絡、授業課題の未提出がある場合は、実習への準備が不十分と判断します。
質問・相談等の受付	質問などがある場合には、各担当教員（朝木先生・古林先生・舩原先生）の研究室前に掲示されているオフィスアワーの時間帯に来てください。実習園演習室（218室）でも質問を受け付け、アドバイスなども受けられます。

科　目	実習指導Ⅱ	開講時期 履修方法	１年後期 選択、教免必修
担当者	准教授　三好　伸幸・専任講師　四童子　薫・専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	幼稚園実習指導においては、教育実習（特に1年次の「見学・観察・参加」活動を主とする実習）に向けた指導および事前・事後指導を行う。学内の授業で習得した基礎科目や専門科目などの知識や技術・技能を実践の場において活用できるよう本授業にて統合していく。授業においては、個人別の課題、グループ（実習園）別の課題などを提示し、全体での発表や複数のグループでの模擬保育の発表を行う。また、保育所実習の事後指導として成績のフィードバックを生かす指導、2年生の実習体験談を参考にし円滑な教育実習を実現できる内容を導入する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼稚園の機能や内容を十分に理解できる。	DP1,2,3	チェックリストの関連項目の達成度が8割を超える。
2.	幼稚園教諭としての職業倫理を持つことができる。	DP2	外部講師の講演に関するレポートを適切にまとめることができる。
3.	教育実習が円滑に行えるよう準備を万全にできる。	DP2	課題提出が期限内に行え、教材発表が的確に行うことができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果・評価基準および評価方法について （①授業計画の理解　②幼稚園についての理解）	幼稚園の機能に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
2.	教育実習についての理解 （①1年次実習のねらい　②実習日誌の活用）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
3.	2年生による教育実習に関する助言 （1・2年合同教育実習協議会）	実習に向けての準備として必要な項目についてまとめること（30分）	実習に向け自らの課題についてまとめておくこと（30分）
4.	事前訪問に関する指導 （日時、交通手段、所持品、心得など）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
5.	幼稚園事前訪問、教育実習の課題と対策（１）	実習園に関する情報（教育方針・目標など）を収集しておくこと（30分）	事前訪問で受けた指示をまとめ整理しておくこと（30分）
6.	幼稚園事前訪問報告 （実習園別の課題整理および目標設定）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
7.	冬期休暇課題の提示（指導計画、教材の作成）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容を生かし指導案、教材の作成を行うこと（30分）
8.	冬期休暇課題の提出、相互評価、全体発表	作成した指導案を見直し、発表練習を行うこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
9.	実習園別面接、教育実習の課題と対策（２）	実習日誌で事前に記入すべき内容を記入しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
10.	外部講師による講演「見学・観察・参加実習に向けて」	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
11.	直前指導１（指導案の作成について） 教育実習の課題と対策（３）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
12.	直前指導２（保育内容の研究・実習園別発表、相互評価）	事業課題で作成した指導案、教材を見直し、発表練習を行うこと（30分）	発表後の相互評価で得た内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
13.	直前指導３ （「保育所実習」評価フィードバック、実習での課題の確認）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
14.	事後指導１ （教育実習の反省と今後の課題の確認、実習園別面接）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
15.	事後指導２ （2年次教育実習、2年次保育・施設実習に向けての指導）	授業に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）

教科書	実習指導Ⅱサブテキスト
参考書	適宜紹介する。
学習成果の評価方法	課題（50%）、保育内容研究（30%）、受講態度（20%）などで総合的に評価する。 課題については評価をおこない、授業内で解説しフィードバックとする。
特記すべき事　項	欠席・遅刻・早退の連絡は必ず本人が実習演習室に連絡すること
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後または各担当教員のオフィスアワーの時間）に研究室および218実習演習室にて受付ける。

科　目	実習指導Ⅲ	開講時期 履修方法	１年後期 選択、保育士必修
担当者	准教授　宮本　幸・専任講師　志方　亮介・専任講師　新田　博司・教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	児童養護施設や乳児院、障がい者施設などで行う「施設実習Ⅰ」にむけて、実習への意欲や意識を高め、実習の意義や目的、内容を理解し、自らの実習の課題を明確にします。施設実習における留意事項に十分配慮し、実習の計画と記録等について具体的に理解します。学外講師による講演などICT教育を活用した双方向授業とアクティブラーニングを活用したグループワークも行います。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	施設実習の意義・目的を理解する。	DP1,2	レポートにおいて、施設実習の意義・目的について具体的に、かつポイントを絞って説明することができる。
2.	対象(施設、利用児)について理解する。	DP2	レポートにおいて、対象(施設、利用児)について具体的に、かつポイントを絞って説明することができる。
3.	実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。	DP3	レポートにおいて、自らの課題について具体的に、かつポイントを絞って説明することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について(評価方法および評価基準)	シラバスに目を通しておく(30分)	授業内容を復習する(30分)
2.	施設１日見学について 児童福祉施設について	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
3.	施設１日見学 児童養護施設(講話)	施設一日見学に必要な準備を行う(30分)	授業内容を復習する(30分)
4.	施設１日見学 児童養護施設(見学、ふれあい)	施設一日見学に必要な準備を行う(30分)	授業内容を復習する(30分)
5.	施設１日見学 重症心身障がい児施設(講話)	施設一日見学に必要な準備を行う(30分)	授業内容を復習する(30分)
6.	施設１日見学 重症心身障がい児施設(見学、ふれあい)	施設一日見学に必要な準備を行う(30分)	授業内容を復習する(30分)
7.	施設１日見学の振り返り	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
8.	実習施設について学ぶ（1） 施設実習に向けた課題探し/保育者像形成と施設実習の関連	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
9.	実習施設について学ぶ（2） 学外講師による講演(知的障がい児者施設、児童養護施設)	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
10.	実習施設について学ぶ（3） 調べ学習と介護技術概要	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
11.	実習施設について学ぶ（4） 調べ学習と介護技術実習	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
12.	実習施設について学ぶ（5） 実習合同協議会	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
13.	実習施設について学ぶ（6） 学外講師による講演(重症心身障がい児者施設)	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
14.	実習施設について学ぶ（7） キャリア形成ゼミ発表会	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)
15.	まとめ	課題やレポートを整え、提出準備を行う（30分)	授業内容を復習する(30分)

教科書	施設実習サブテキスト
参考書	実習指導Ⅰ、Ⅱのテキスト、社会養護のテキストなど
学習成果の評価方法	授業態度：学習態度や課題提出を含む(60%)、レポートや小テスト(40%) レポートや小テストについては、解説を加えフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	欠席・遅刻・早退の連絡は、必ず本人が実習演習室に連絡してください。授業への消極的な参加(居眠り、私語が目立つ、30分以上の遅刻等)は出席とみなさないこともあります。この科目の受講状況は、実習資格基準に関わります。
質問･相談等の受付	質問や相談などはオフィスアワー(火曜日14:50～16:20)に各研究室にて受け付けます。

令和５年度
シラバス

幼児保育学科
２年生

令和5年度　幼児保育学科履修表(2年生)

系列		授業科目	開講単位	卒業必修	選択	教免必修	保育士必修	レク必修	こども音楽療育士必修	週時間数	1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	担当	備考 (★は実務経験のある教員が担当する科目)	ポイント(単位×5)	DP	①保育者として必要な専門知識・技術を修得している	②保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができる	③子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができる	④慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけている	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ
																		CP	幼児保育学科では、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、教養科目および保育に関わる専門科目を体系的に配置する。幼稚園教諭二種免許状および保育士資格取得を中心にした教育課程を編成し、特に保育現場での保育・教育実習を柱として、その事前・事後の学習に重点を置く。教養科目では、心理学や女性学、生物学、英語、情報処理などの一般教養科目を開講し、専門科目では、保育の目的、対象の理解などの科目や保育の内容・方法などの科目を配して知識や技術が十分に身につくよう教育を行う。					
																			① 保育者として必要な専門知識・技能を修得するため、保育の本質・目的、保育の対象の理解、保育の内容・方法など、保育に関わる専門科目を配置する。	② 保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようにするため、事前・事後の学習・指導も含めた保育・教育実習を配置する。	③ 子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができるようにするため、「保育・教職実践演習(幼稚園)」や「キャリア形成演習」など総合演習や特別科目を配置する。	④ 慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけるため、「保育基礎ゼミ」など教養科目を配置する。	
教養科目		現代と女性	2	6	6		4			2	2						10					10	C2022-111-01
		児童文化論	2							2		2					10				4	6	C2022-111-02
		対人魅力の心理学	2							2		2					10					10	C2022-111-03
		いきものと環境	2							2	2						10				4	6	C2022-111-04
		日本国憲法	2			2				2				2	渡部		10					10	C2022-111-05
		コンピュータ演習	2			2				2	2						10			4		6	C2022-111-06
		保育基礎ゼミⅠ	1	1						2	1					集中講義	5		2			3	C2022-111-07
		保育基礎ゼミⅡ	1	1						2	1						5		2			3	C2022-111-08
		英語コミュニケーション	2	2		2	2			2	1	1					10			4		6	C2022-111-09
		健康・スポーツ科学演習Ⅰ	1	1		1	1	1		2	1						5					5	C2022-111-10
		健康・スポーツ科学演習Ⅱ	1	1		1	1			2		1					5					5	C2022-111-11
小計			18	12	6																		
専門科目	A保育の本質・目的	保育原理	2	2		2	2			2	2						10		10				C2022-122-01
		教育原理	2	2		2	2			2		2					10		10				C2022-122-02
		子ども家庭福祉	2	2			2			2		2					10		6		4		C2022-122-03
		社会福祉	2		2		2			2	2						10		10				C2022-222-01
		子ども家庭支援論	2		2		2			2			2		朝木		10		5	3	2		C2022-222-02
		社会的養護Ⅰ	2		2		2			2		2					10		10				C2022-222-03
		保育者論	2	2		2	2			2				2	古林		10		6	4			C2022-122-04
	B保育の対象の理解	発達心理学	2	2		2	2		(2)	2	2						10		6	4			C2022-123-01
		子ども家庭支援の心理学	2		2		2			2		2					10		8	2			C2022-223-01
		教育心理学	2	2		2			(2)	2		2					10		6	4			C2022-123-02
		子どもの理解と援助	1		1		1			2			1		古林	★	5		3		2		C2022-223-02
		子どもの保健	2		2		2		(2)	2	2						10		10				C2022-223-03
		子どもの食と栄養Ⅰ	1		1		1			2			1		元田		5		5				C2022-223-04
		子どもの食と栄養Ⅱ	1		1		1			2				1	元田		5		5				C2022-223-05
		幼児理解と教育相談	2		2	2				2			2		大川	カウンセリングを含む	10		8	2			C2022-223-06
	C保育の内容・方法	教育課程論	2	2		2	2			2				2	舩原		10		6	4			C2022-124-01
		保育内容総論	2	2		2	2			2	2						10		5	3	2		C2022-124-02
		子どもと健康	1	3	2	1	1			2	1						5		3	1	1		C2022-124-03
		子どもと人間関係	1			1	1			2		1					5		3	1	1		C2022-124-04
		子どもと環境	1			1	1			2		1					5		4		1		C2022-124-05
		子どもと言葉	1			1	1			2	1						5		4	1			C2022-124-06
		子どもと表現	1			1	1		(1)	2	1						5		3	2			C2022-124-07
		幼児教育方法論	2		2	2				2	2						10		6	3	1		C2022-224-01
		乳児保育Ⅰ	2		2		2			2	2						10		6	4			C2022-224-02
		乳児保育Ⅱ	1		1		1			2			1		大瀧		5		3		2		C2022-224-03
		特別支援教育	1	1		1	1		(1)	2			1		志方		5		2	1	1	1	C2022-124-08
		障害児保育	1		1		1		(1)	2	1						5		3		2		C2022-224-04
		子どもの健康と安全	1		1		1		(1)	2			1		緒方	★	5		3		2		C2022-224-05
		社会的養護Ⅱ	1		1		1			2				1	大川		5		5				C2022-224-06
		子育て支援	1		1		1			2				1	志方		5		3		2		C2022-224-07
		音楽Ⅰ	1		1		1		(1)	2	1						5		5				C2022-224-08
		音楽Ⅱ	1		1		(1)		(1)	2		1					5		5				C2022-224-09
		子どもの動きとリズム	1		1		(1)		(1)	2			1		宮本(幸)、四童子ほか		5		5				C2022-224-10
		造形	1		1		(1)			2	1						5		5				C2022-224-11
		造形表現	1		1		1			2		1					5		3	2			C2022-224-12
		幼児体育	1	1			(1)	1		2		1					5		4		1		C2022-124-09
		「子どもと健康」指導法	1		1	1	1			2			1		三好		5		3		2		C2022-224-13
		「子どもと人間関係」指導法	1		1	1	1			2				1	井手		5		3		2		C2022-224-14
		「子どもと環境」指導法	1		1	1	1			2				1	古林		5		4		1		C2022-224-15
		「子どもと言葉」指導法	1		1	1	1			2		1					5		4	1			C2022-224-16
		「子どもと表現」指導法	1		1	1	1		(1)	2		1					5		5				C2022-224-17
																			217	50	37	71	

系列			授業科目	開講単位	卒業必修	選択	教免必修	保育士必修	レク必修	こども音楽療育士必修	週時間数	1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	担当	備考（★は実務経験のある教員が担当する科目）	ポイント（単位×5）	DP	①保育者として必要な専門知識・技術を修得している	②保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができる	③子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができる	④慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけている	科目ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ
																			CP	幼児保育学科では、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、教養科目および保育に関わる専門科目を体系的に配置する。幼稚園教諭二種免許状および保育士資格取得を中心にした教育課程を編成し、特に保育現場での保育・教育実習を柱として、その事前・事後の学習に重点を置く。教養科目では、心理学や女性学、生物学、英語、情報処理などの一般教養科目を開講し、専門科目では、保育の目的、対象の理解などの科目や保育の内容・方法などの科目を配して知識や技術が十分に身につくよう教育を行う。				
																				① 保育者として必要な専門知識・技能を修得するため、保育の本質・目的、保育の対象の理解、保育の内容・方法など、保育に関わる専門科目を配置する。	② 保育に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようにするため、事前・事後の学習・指導も含めた保育・教育実習を配置する。	③ 子どもを取り巻く様々な問題に関心を持ち、主体的に保育に臨むことができるようにするため、「保育・教職実践演習（幼稚園）」や「キャリア形成演習」など総合演習や特別科目を配置する。	④ 慈しみの心で人と接し、人とともに社会に貢献できる実践力を身につけるため、「保育基礎ゼミ」など教養科目を配置する。	
専門科目	D保育・教育実習		保育所実習Ⅰ	2		2		2	(2)				2					10			5	2	3	C2022-225-01
			施設実習Ⅰ	2		2		2	(2)					2		宮本、志方、新田		10			5	2	3	C2022-225-02
			保育所実習Ⅱ	2		2		2						2		元田、新田		10			8	2		C2022-225-03
			施設実習Ⅱ	2		2										宮本		10			6	4		C2022-225-04
			教育実習Ⅰ	2		2	2		(2)				2					10		4	6			C2022-225-05
			教育実習Ⅱ	2		2	2								2	元田、三好		10		4	6			C2022-225-06
			実習指導Ⅰ	1		1	1	1			2	1						5			3	1	1	C2022-225-07
			実習指導Ⅱ	1		1	1				2		1					5		1	3	1		C2022-225-08
			実習指導Ⅲ	1		1		1			2		1					5		1	3	1		C2022-225-09
			実習指導Ⅳ	1		1		1			2			1		元田、志方、新田、角		5			5			C2022-225-10
			実習指導Ⅴ	1		1					2					宮本、角		5			4	1		C2022-225-11
	総合演習		保育・教職実践演習（幼稚園）	2	2		2	2			2			1	1	朝木、元田、三好、宮本、古林、志方、四童子、井手、船原、新田		10			4	6		C2022-126-01
			キャリア形成演習	1	1						2				1	朝木、元田、新田		5			2	3		C2022-126-02
	特別科目	a群 そだちと指導	乳幼児心理学	1		1		(1)			2			1		新田		5		1	1	3		C2022-223-07
			対人コミュニケーション	1		1		(1)			2			1		新田		5				5		C2022-223-08
			乳児保育指導技術	1		1		(1)			2				1	日野		5			2	3		C2022-224-18
			障害児保育指導技術	1		1		(1)		(1)	2				1	永野		5		2		3		C2022-224-19
			保育実践と評価・記録	1		1		(1)			2				1	井手	※1	5			2	3		C2022-224-20
		b群 あそびと現代	うたと簡易伴奏	1		1		(1)		(1)	2			1		四童子		5		2		3		C2022-224-21
			アンサンブル	1		1		(1)		(1)	2				1	宮本、鈴木、遠江	※1	5		2		3		C2022-224-22
			子どものあそび文化	1		1		(1)			2				1	豊永		5			2	3		C2022-224-23
			子どもと造形	1		1		(1)			2			1		楢﨑		5			2	3		C2022-224-24
			子どもと文学	1		1		(1)			2				1	大谷		5		1	1	3		C2022-224-25
		c群 からだと自然	自然体験実習Ⅰ	1		1		(1)			2			1		土居、西尾	集中講義 ※1，2	5		2		3		C2022-224-26
			自然体験実習Ⅱ	1		1		(1)			2				1	江副、大久保	集中講義 ※1，3	5		2		3		C2022-224-27
			安全保育実習	1		1		(1)			2				1	緒方	★	5				5		C2022-223-09
			保育と環境教育	1		1		(1)			2			1		村江		5			2	3		C2022-224-28
			健康科学実習	1		1		(1)			2				1	三好		5				3	2	C2022-224-29
		レクリエーション	レクリエーション概論	2		2			2		2			2		前田		10				6	4	C2022-227-01
			レクリエーション実技	1		1			1		2				1	原田		5				3	2	C2022-227-02
		こども音楽療育士	こども音楽療育概論	2		2				2	2			2		遠江		10			4	6		C2022-227-03
			こども音楽療育演習	1		1				1	2				1	宮本		5				5		C2022-227-04
			こども音楽療育実習	1		1				1	2			1		宮本	集中講義	5				3	2	C2022-227-05
小計				99	24	75												610		239	126	132	88	
合計				117	36	81																		

（注）

1. 保育士資格を取得しようとする者は、保育士必修科目に加え、保育士必修の欄の（　）のついている科目の中から7単位以上を選択履修しなければならない。その際、原則として特別科目a～c群の中からいずれかの群を選び、5単位以上履修すること。
2. 備考欄の※1の科目については、全員受講することができる。
3. 社会福祉主事任用資格を取得しようとする者は、保育士資格に必要な科目を選択履修しなければならない。
4. レクリエーション・インストラクター資格を取得しようとする者は、必修科目に加え次に掲げる要件を満たさなければならない。
   (1) レク必修の欄の(　)のついている科目の中から2単位以上選択履修すること。
   (2) レクリエーション協会の事業（学外実習）に2回以上参加すること。
5. 備考欄の※2の科目を履修したもののうち、希望するものは自然体験活動指導者の登録を行うことができる。
6. 備考欄の※3の科目を履修したもののうち、希望するものはキャンプインストラクターの登録を行うことができる。
7. こども音楽療育士資格を取得しようとする者は、必修科目に加えこども音楽療育士必修の欄の（　）のついている科目の中から16単位以上選択履修しなければならない。
8. 学生生活を有意義にするために、「カレッジアワー」の時間を週2時間設ける。

科　目	日本国憲法	開講時期 履修方法	２年後期 選必、保育士選択必修、教免必修
担当者	講師　渡部　忠信	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	国を動かす人が、思うがままに力を行使できる社会で、我々が、幸せな生活を送ることは難しいだろう。そこで、①「憲法」という、「国民」ではなく「国」を縛るための特別のルールを用意し（法の支配）、同時に、②その憲法に、我々ひとりひとりが生まれながらに持っている「人権」という権利を「国から守る」役割を担わせれば（人権保障）、「幸せな生活ができる」社会に近づけることができるに違いない。 そこで、授業では、こうした機能を果たしている「日本国憲法」の概要をつかみ、同時に、雇用・結婚・家族形成・育児・教育・生活保障といった分野で、私たちの生活スタイルと価値観が、どう変わり、今後、どうなるのか？についても考えていく。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	「法の支配・立憲主義」の意味を理解し、憲法の役割について説明できるようになる。	DP4	期末試験において、課題に対して、憲法の観点から「問題の所在」を示し、かつ、自分の意見を付した論述ができる。
2.	雇用・家族・人口・国際環境等に生じている変化を、憲法訴訟というフィルターを通して理解し、説明できるようになる。	DP4	授業で扱うテーマ中、特に重要なものについて、勉強した内容を、丁寧にレポートにまとめることができる。
3.	就職・結婚・育児といったライフイベントの際に、社会人・大人として知っておくべき、法の知識と素養を身に付ける。	DP4	中間テストで、６割以上解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	ガイダンス、学習成果について（評価方法および評価基準） 憲法は何のためにつくられたルールか	シラバスを読んでくる（2時間）	ノート整理と理解（2時間）
2.	「人権」とはどんな権利か	人権の種類を調べてくる（2時間）	ノート整理と理解（2時間）
3.	私生活とプライバシー（幸福追求権13条）	「個人情報が害される」例を1つ調べてくる（2時間）	ノート整理と理解（2時間）
4.	家族と平等Ⅰ（現在の家族制度と性的役割分業家族）	性的役割分業家族について調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
5.	家族と平等Ⅱ（法の下の平等14条）	結婚すると法律上どんな変化が起きるか、例を1つ調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
6.	仕事と人権Ⅰ（日本の雇用慣行とルール）	日本の雇用慣行の特徴を調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
7.	仕事と人権Ⅱ（働き方の男女格差）	男女の働き方のちがいを調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
8.	中間テストと解説	これまでの講義をまとめておく(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
9.	社会保障・福祉国家（生存権25条）	社会保障の種類を調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
10.	子どもの権利と親の教育の自由（教育基本権26条）	子どもの権利の具体例を1つ調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
11.	グローバル社会と人権（国籍と人権について考える）	外国人が持ってない権利の例を1つ調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
12.	自己決定権（LGBTについて考える）	LGBTについて調べてくる（2時間）	ノート整理と理解（2時間）
13.	信教の自由・政教分離（20条）	「国と宗教の関係」にはどんなタイプがあるか調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
14.	議会制・選挙の仕組み（選挙権15条）	選挙制度の種類を調べてくる(2時間)	ノート整理と理解（2時間）
15.	総復習とまとめのテスト	総まとめと試験勉強(2時間)	講義全体を振り返っておく(2時間)

教科書	デイリー法学選書編集委員会編　「ピンポイント憲法」三省堂（ISBN:978-4-385-32022-9） 必要に応じてプリント資料を配布します。
参考書	指定しない
学習成果の評価方法	まとめのテスト（50%）、中間テスト（30%）、レポート（20%）で総合的に判断する。 レポートは評価の上、フィードバックします。（後日の授業にて、返却）
特記すべき事　項	出席は、授業開始時に点呼により行う。遅刻・早退等はその日の講義時間内に申し出ること。
質問・相談等の受付	質問や相談は授業の前後に対応する。

科　目	子ども家庭支援論	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士必修
担当者	教授　朝木　徹	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	現代社会における家庭や子どもが置かれている社会状況を踏まえ、改めて家庭とは何か、子どもが育つために必要な環境とは何か等に着目し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義や目的、その為の支援体制を理解する。また本授業では、子育て家庭のニーズや現状、今日的課題と共に多様な支援の展開や関係機関との連携等について、対人援助者として保育者に求められる基本的態度等を問いながら、グループワークやディスカッションを取り入れ事例検討を重ねて支援の実際を理解する。※本授業は、保育所において保育士として3年間携わった実務経験のある教員が保育職の経験を生かし実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子ども家庭支援の意義や目的、必要性等について理解している。	DP1	試験において、子ども家庭支援の意義や目的、必要性等に関して、6割以上解答できる（テスト）。
2.	子育て家庭に対する多様な支援の展開について、実践に即して説明できる。	DP2	試験において、子育て家庭に対する多様な支援の展開に関して、6割以上解答できる（テスト）。
3.	現代の子育て家庭のニーズや現状、多様な支援の展開を理解し、保育者の立場に立って具体的な支援を考察することができる。	DP3	保育者の視点に立ちながら現代の子育て家庭のニーズや現状、多様な支援の展開について論理的かつ丁寧にまとめることができる（課題レポート）。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション／学習成果について （評価方法及び評価基準）	子ども家庭支援に関する内容をニュースや新聞、書籍等から予習しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
2.	子ども家庭支援の意義と目的・役割 （「家庭」という言葉／家庭の意義と機能）	教科書「子ども家庭支援の意義」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
3.	子育て家庭のニーズと子ども家庭支援の必要性	教科書「子育て家庭のニーズと子ども家庭支援の…」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
4.	保護者や地域の「子育てを自ら実践する力」の向上を助ける支援	教科書「保護者や地域の「子育てを自ら実践する力…」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
5.	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の展開① （保育者に求められる基本的態度）	教科書「保育者に求められる基本的態度」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
6.	保育の専門性を活かした子ども家庭支援の展開② （家庭の状況に応じた支援：援助の展開過程）	教科書「家庭の状況に応じた支援」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
7.	地域社会の変容と子育て家庭の福祉を図るための社会資源 （子育て支援サービスの概要）	教科書「地域社会の変容と子育て家庭の福祉を図る…」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
8.	子ども家庭支援の内容と対象 （保護者と保育者の適切な関係／カウンセリングマインドとは）	教科書「子ども家庭支援の内容と対象」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
9.	保育所等を利用する子どもの家庭への支援 （ワークライフバランスと現代家庭の実状）	教科書「保育所等を利用する子どもの家庭への支援」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
10.	子ども家庭支援における原理・原則／個人に対する援助技術	教科書「子ども家庭支援における原理・原則」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
11.	特別な配慮を必要とする家庭への支援と関係機関等との連携・協力／保護者の気持ちの変動	教科書「特別な配慮を必要とする家庭への支援と…」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
12.	要保護児童及びその家庭に対する支援と関係機関等との連携・協力	教科書「要保護児童及びその家庭に対する支援と…」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
13.	家庭内のコミュニケーションと子育て（子どもの育ちの喜びの共有）／園全体の支援体制	教科書「家庭内のコミュニケーションと子育て」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
14.	子ども家庭支援に関する現状と課題／地域の子育て家庭への支援と保育者の役割	教科書「子ども家庭支援に関する現状と課題」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
15.	子ども家庭支援の記録と保護者との連携 まとめとテスト	教科書「子ども家庭支援の記録と保護者との連携」の頁を中心に目を通しておくこと（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）

教科書	朝木徹著『2023 子ども家庭支援論 WorkBook』
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、配付プリント、その他（授業中に適宜紹介）
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（授業態度）（10%）、ノート・課題レポート提出（20%）、定期試験（70%） ノート・課題レポート等は、自分なりの考察や丁寧に作成されているかなどの観点から評価・フィードバックをした上で返却します。
特記すべき事　　項	毎時間の出席確認は、授業開始時の応答により行います。 遅刻・早退等はその日の講義時間内に申し出てください。
質問・相談等の受付	講義に関する質問は、授業の前後又は研究室に掲示しているオフィスアワー（水曜日12:30～13:00）の時間帯に随時受け付けます。 積極的な授業参加をお願いします。

科　目	保育者論	開講時期 履修方法	２年後期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　古林　ゆり	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	保育所保育士、施設保育士、幼稚園教諭、保育教諭は、専門職として保育に携わり、保育に必要な知識、技能、仕事への倫理観をもつことが重要である。そのため保育者論では、具体的な保育実践記をもとに、グループワークやディスカッションを行うことで、保育活動における専門性について検討し、保育者としての省察力を高めることを目指す。また、子どもの成長を支える保育者として、他者と協働していくことの社会的役割と使命を持つ者としての理解を深める。 ※本授業は、保育所において乳幼児教育に13年間携わった実務経験のある教員が実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	倫理観に裏付けられた専門的な知識、技術、判断をもった保育者の専門性について理解する。	DP1	教育・保育や保育職の社会的意義について小テストで６割以上解答できる。
2.	保育士、幼稚園教諭の資格、専門職としての倫理性と責務の自覚が必要であることを理解する。	DP1,2	保育者に求められる倫理性、役割・資質及び職務内等について、課題レポートにおいて論理的で簡潔な文章で作成することができる。
3.	幼稚園・保育所の担う役割が拡大・多様化する中で、幼稚園・保育所が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性を理解する。	DP1,2	幼稚園・保育所が担う役割と専門家等との連携について、グループワークやディスカッションを行い、課せられた課題に取り組む。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法・評価基準）	シラバスを読み到達目標と授業内容について確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
2.	公教育の目的と保育者の存在意義（責任と義務）	保育者の責任と義務について関連する資料を読んで確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
3.	保育者の倫理観と含む上・身分上の義務及び身分保障	保育者の倫理と義務及び身分保障について関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
4.	保育者に求められる基礎的な資質能力	保育者の資質能力について関連する資料を読んで確認する　（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
5.	保育職の職業的特徴について	保育職の職業的特徴について関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
6.	教職観の歴史的変遷と現代社会の保育者の役割	社会の変化と保育者の仕事について関連する資料を読んで確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
7.	保育者の制度上の位置づけについて	保育者制度の意義づけについて関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
8.	省察的実践者としての保育者	保育者としての省察力を高めるため、実践を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
9.	現代社会の変化と保育者の仕事（実践記録の検討）	現代社会と保育者の仕事について関連する資料を読んで確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
10.	保育者の専門性と自己評価について 中間まとめ（小テスト・解説）	保育者の自己評価について関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
11.	保育者の同僚性について（チームとしての連携・分担）	保育者の同僚性について関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
12.	保育以外の保育者の職務の全体像について	保育者の服務原則について関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
13.	保護者支援と保育者の役割について	保護者支援と保育者の役割について関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
14.	保育者の専門職的生涯発達とキャリア形成	保育の今日的課題について関連する資料を読んで、確認する（2時間）	今回の授業で学んだ授業内容を復習しておくこと（2時間）
15.	まとめ	これまで学んだ内容をまとめる（2時間）	全授業内容を振り返り試験に向けて準備を行うこと（2時間）

教科書	使用しません。適宜、資料を配布します。
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月　フレーベル館 上野恭祐著「プロとしての保育者論」保育出版社
学習成果の評価方法	小テスト40%、課題提出45%、授業への取り組み15%で評価します。 小テストの評価及び課題については、解説を加えつつフィードバックします。
特記すべき事　　項	・毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。 ・遅刻、早退は、必ず本人が直接理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問などがある場合は、オフィスアワー（月曜日　14:50～16:50）に114研究室に来て下さい。

科　目	子どもの理解と援助	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士必修
担当者	専任講師　古林　ゆり	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	乳幼児期の子どもは発達および個人差が著しいため、一人ひとりの心身の発達や学びの過程を把握することが重要である。また、現代においては家庭環境や社会の状況の変化に伴い、保護者支援も多岐にわたる。そのため、子どもの理解と援助では、グループワークやディスカッションを行うことで、多様なニーズを持つ子どもを理解するための観察の視点について考え、一人ひとりに応じた援助の方法や態度について理解を深め、保育実践力を身につけることを目指す。 ※本授業は、保育所において乳幼児教育に13年間携わった実務経験のある教員が、「子ども理解と援助」に関する保育経験を生かし、実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びの過程を把握することの意義について理解している。	DP1	授業内で課せられた課題に取り組み、その内容によって学習成果の評価を行う。
2.	子どもの発達や学びの過程において、保育者の援助における基本的な考え方や役割について理解している。	DP1,3	子ども理解のための基礎的な知識について理解し、課題レポートにおいて論理的で簡潔な文章で作成することができる。
3.	子ども理解のための具体的な方法や、保育者の援助や態度の実際について理解している。	DP1,3	グループワークおよび発表により、学習成果の評価を行う。活動を通して、主体的に取り組み、全体像を把握し、目標が達成できるように協同できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法・評価基準）	シラバスを読み到達目標と授業内容について確認しておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
2.	保育における子ども理解の意義	現代における保育の現状や課題に関する資料を調べておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
3.	子ども理解に基づく保育の展開	子どもを取り巻く社会の現状や課題に関する資料を調べておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
4.	子どもに対する共感的理解と関わり	保育者の役割に関連する書籍を調べ、読んでおく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
5.	子どもを理解する視点（生活）	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読み、生活面の発達について理解を深める（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
6.	子どもを理解する視点（あそび）	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読み、認識等の発達について理解を深める（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
7.	子ども相互の関わりと関係づくり	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説を読み、社会性の発達について理解を深める（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
8.	集団における経験と育ち	クラス運営に関する書籍や資料を検索し、読んでおく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
9.	子どもを理解する方法（観察と記録）	保育実践記録の作成を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
10.	子どもを理解する方法（実践検討）	保育実践記録の作成を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
11.	子どもを理解する方法（実践検討と省察）	保育実践記録の検討と省察を行う（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
12.	職員間および保護者との対話	職員間の連携に関する書籍や資料を検索し、読んでおく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
13.	発達課題に応じた子どもの理解と援助	発達支援に関する書籍や資料を検索し、読んでおく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
14.	発達の連続性と就学への支援	就学移行に関する資料を検索し、読んでおく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し,ノートを整理する（30分）
15.	まとめ	これまで学んだ内容をまとめる（30分）	全ての授業のまとめと振り返りを行う（30分）

教科書	使用しません。（授業時に適宜資料を配布）
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月　フレーベル館
学習成果の評価方法	授業内課題（45%）、最終レポート（40%）、授業への参加姿勢（15%）で評価します。 課題については、解説を加えつつフィードバックします。
特記すべき事項	・毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。 ・遅刻、早退は、必ず本人が直接理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問などがある場合は、オフィスアワー（火曜日　10:30～14:30）に114研究室に来て下さい。

科　目	子どもの食と栄養Ⅰ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士必修
担当者	准教授　元田　幸代	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	小児期の食生活は、心身の健康な成長にとって大変重要であるとともに、生涯にわたる健康な生活の基礎でもあることから、小児にかかわる保育者は、子どもの発育・発達と食生活の関連、栄養に関する基礎的知識を持ち、子ども達が望ましい食生活を送れるように援助していくことが必要です。 よって、子どもの食と栄養Ⅰ、Ⅱでは、子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学びます。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	健康な生活の基本としての食生活の意義、栄養に関する基本的知識を自分の食生活に活かすことができる。	DP1	定期試験において当該内容について60%以上の点数を取得できる。課題を期日までに提出できる。
2.	食育の基本と内容について理解して、食育を検討することができる。	DP1	定期試験において当該内容について60%以上の点数を取得できる。課題を期日までに提出できる。
3.	子どもの食生活の現状と課題を踏まえて、食育教材を作成することができる。	DP1	食育教材を作成し、期日までに提出できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法および評価基準）	シラバスを確認する(30分)	授業内容を復習する(30分)
2.	子どもの健康と食生活の意義　子どもの食生活の現状と課題	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
3.	子どもの健康と食生活の意義　子どもの心身の健康と食生活	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
4.	子どもの健康と食生活の意義　食品と食品表示	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
5.	栄養に関する基本的知識　栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能　炭水化物、脂質	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
6.	栄養に関する基本的知識　栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能　たんぱく質、ビタミン	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
7.	栄養に関する基本的知識　栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能　ミネラル、水分	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
8.	栄養に関する基本的知識　食事摂取基準	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
9.	栄養に関する基本的知識　献立作成　調理の基本	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
10.	食育の基本と内容　食育の意義・目的と基本的考え方	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
11.	食育の基本と内容　食育の内容と計画及び評価、食育のための環境	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
12.	食育の基本と内容　地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通した保護者への支援	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
13.	食育の基本と内容　食育教材の検討	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
14.	食育の基本と内容　食育教材の発表	食育教材発表の準備をする(30分)	授業内容を復習する(30分)
15.	まとめ	全体の振り返りをする(30分)	授業内容を復習する(30分)

教科書	上田玲子編著「子どもの食生活　第６版」ななみ書房
参考書	適宜紹介します。
学習成果の評価方法	定期試験(70%）、授業への参加姿勢・課題・小テストなど(30%)、ただし、食育教材の提出は、定期試験の点数に関わらず、単位取得のための必須条件です。課題、小テストは担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。遅刻、早退等はその日の授業時間内に各自が教員まで伝えにきてください。伝えに来なかった場合は欠席となります。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に研究室にて受け付けます。

科　目	子どもの食と栄養Ⅱ	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士必修
担当者	准教授　元田　幸代	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	小児期の食生活は、心身の健康な成長にとって大変重要であるとともに、生涯にわたる健康な生活の基礎でもあることから、小児にかかわる保育者は、子どもの発育・発達と食生活の関連、栄養に関する基礎的知識を持ち、子ども達が望ましい食生活を送れるように援助していくことが必要です。 よって、子どもの食と栄養Ⅰ、Ⅱでは、子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活、食育の基本と内容、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学びます。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳児の発育・発達と食生活について理解し、それを踏まえて、乳児の食の援助ができる。	DP1	定期試験において当該内容について60%以上の点数を取得できる。課題を期日までに提出できる。
2.	幼児の発育・発達と食生活について理解し、それを踏まえて、幼児の食の援助ができる。	DP1	定期試験において当該内容について60%以上の点数を取得できる。課題を期日までに提出できる。
3.	保育者として子どもの食生活、食環境の改善を図ることができる。	DP1	定期試験において当該内容について60%以上の点数を取得できる。課題を期日までに提出できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法および評価基準）	シラバスを確認する(30分)	授業内容を復習する(30分)
2.	子どもの発育・発達と食生活　身体発育と栄養状態の把握	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
3.	子どもの発育・発達と食生活　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活　食機能の発達	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
4.	子どもの発育・発達と食生活　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活　乳汁栄養	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
5.	子どもの発育・発達と食生活　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活　離乳	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
6.	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の心身の発達と食生活栄養	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
7.	子どもの発育・発達と食生活　幼児期の心身の発達と食生活食生活	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
8.	子どもの発育・発達と食生活　学童期の心身の発達と食生活	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
9.	子どもの発育・発達と食生活　生涯発達と食生活	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
10.	家庭や児童福祉施設における食事と栄養　家庭における食事と栄養	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
11.	家庭や児童福祉施設における食事と栄養　児童福祉施設における食事と栄養	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
12.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　疾病及び体調不良の子どもへの対応	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
13.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　食物アレルギーのある子どもへの対応	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
14.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養　障がいのある子どもへの対応	テキストの該当部分を読む(30分)	授業内容を復習する(30分)
15.	まとめ	全体の振り返りをする(30分)	授業内容を復習する(30分)

教科書	上田玲子編著「子どもの食生活　第６版」ななみ書房
参考書	適宜紹介します。
学習成果の評価方法	定期試験(70%）、授業への参加姿勢・課題・小テストなど(30%)、課題、小テストは担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。遅刻、早退等はその日の授業時間内に各自が教員まで伝えにきてください。伝えに来なかった場合は欠席となります。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に研究室にて受け付けます。

科　目	幼児理解と教育相談	開講時期 履修方法	２年前期 選択、教免必修
担当者	教授　大川　絹代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	幼児理解は幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。さらに、カウンセリングの基礎的な理解を行い、具体的な方法について考える。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度および幼児理解の方法を具体的に理解する。	DP1,2	幼児理解についての知識・考え方・基礎的態度および幼児理解の方法について、定期試験で６割以上解答できる。
2.	幼稚園における教育相談の意義と理論を理解する。教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。	DP1	教育相談の意義・理論および具体的な進め方について、定期試験で６割以上解答できる。
3.	教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。	DP2	教育相談・カウンセリングに関する基礎的知識について、定期試験で６割以上解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について〈評価方法・評価基準〉 幼児理解の意義と原理	教科書１章熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
2.	保育カウンセリングに求められる技法 幼児理解に基づく発達や学びを捉える原理と子どもへの基礎的な態度	教科書２章-1熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
3.	非言語的技法と言語的技法 受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法	教科書2章-2.3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
4.	カウンセリングプロセスと技法 教育相談を行う際の目標の立て方や進め方	教科書2章-4熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
5.	保育カウンセリングにおけるアセスメントの対象と方法 観察と記録の意義や目的に応じた観察法	教科書3章-1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
6.	アセスメントの実際と留意点 幼児のつまづきと周りの幼児との関係性	教科書3章-3.4熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
7.	発達相談・発達支援の方法と実際 保育現場における教育相談の意義と課題	教科書4章-1熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
8.	子育て相談の方法と実際 保育現場におけるカウンセリングマインドの必要性	教科書4章-2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
9.	構成的グループエンカウンターの活用 個と集団の関係を捉える意義や方法	教科書5章-1熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
10.	保育カンファレンスの実施 幼児の不適応や問題行動の意味並びに幼児の発するシグナルに気づき把握する方法	教科書5章-2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
11.	サイコエジュケーションの展開 教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念	教科書5章-3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
12.	子育て支援に求められる「つながり」とは 保護者の心情と基礎的な対応の方法	教科書6章-1熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
13.	身近な地域との連携 教育相談の計画の作成や必要な教育・保育体制の整備など組織的な取り組みの重要性	教科書6章-2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
14.	保健福祉センター・医療機関との連携 いじめ、不登園、虐待等の課題に対する、幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方	教科書6章-3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
15.	よりよい連携のために 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義	教科書6章-6熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）

教科書	冨田久恵・杉原一昭　編著「改定新版　保育カウンセリングへの招待」北大路書房
参考書	適宜配布
学習成果の評価方法	定期試験60%、レポート30%、授業への参加度１０%。レポートはフィードバック後返却します。
特記すべき事　　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。 毎回の出席は、授業開始時の応答および各回のミニレポートにより確認します。
質問･相談等の受付	質問などがある場合にはオフィスアワー（火曜16時～17時）に研究室へ来てください。

科　目	教育課程論	開講時期 履修方法	２年後期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　舩原　将太	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針保育内容を踏まえた各園において編成される教育課程についてその意義や編成の方法を理解することを目指す。また、時代の要請に基づいた質の高い保育を展開するため各園の実情に応じたカリュキラム・マネジメントを行う意義を理解する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼稚園教育・保育所保育において教育・保育課程が有する役割・機能・意義を理解する。	DP1	教育・保育課程が有する役割・機能・意義について、定期試験で６割以上正答できる。
2.	教育・保育課程編成の基本原理及び幼稚園・保育所の教育・保育実践に即した教育・保育課程編成の方法を理解する	DP2	教育・保育課程の基本原理及び編成の方法について、実践に即して適切に説明できる。
3.	領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。	DP1,2	領域をまたいでカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義について適切に説明できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法および評価基準）、 保育における計画について	シラバスをよく読むこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
2.	「幼稚園教育要領等」の位置づけと教育課程編成及び全体計画作成の意義について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
3.	「幼稚園教育要領等」の変遷とそれらが社会において果たす役割について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
4.	教育課程及び全体計画を編成するうえでの基本原理	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
5.	保育におけるカリキュラム・マネジメントの重要性	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
6.	子ども理解とPDCAサイクル	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
7.	社会に開かれた教育課程について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
8.	長期的な指導計画の作成について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
9.	短期的な指導計画の作成について	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
10.	指導計画作成上の留意事項（0～2歳児）	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
11.	指導計画作成上の留意事項（3歳児以上）	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
12.	指導計画作成上の留意事項（異年齢）	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
13.	領域等横断的な保育－内容の選択・配列機序	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
14.	カリキュラムの評価と改善	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）
15.	保育の専門性－保育の記録と省察	事前配布資料に目を通すこと（2時間）	配布資料を再読する（2時間）

教科書	教科書は指定しません。毎回の講義時に配布する資料を基に講義を実施します。
参考書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省）、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府）。そのほか、適宜指示します。
学習成果の評価方法	受講態度・姿勢（10%）、小テスト（40%）、最終試験（50%） 各回の授業終末時に小テストを実施し、採点したものを次回講義時に返却する。また、その際にテストの解説を行いフィードバックする。
特記すべき事　項	授業開始時に点呼を取り出席を確認する。遅刻をした場合は授業終了時に申し出ること。
質問・相談等の受付	オフィスアワー(火曜日15：45～16：45）にて受け付ける。もちろん、その他の時間であっても柔軟に受け付ける。ただし、研究室来訪に際しては事前にアポイントメントを取ること。

科　目	乳児保育Ⅱ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士必修
担当者	講師　大瀧　智子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	乳児保育Ⅰの学習を基礎に、この授業で理論と実践の統合を深めていく。保育所の乳児クラスでより質が高い乳児保育を実践するため、特に基本的生活の援助やあそびに関する実践力を修得する。保育所実習の体験をもとに、「乳児保育の内容や方法に関する問題点と対応策」をグループで話し合い、分析し、グループワークを通して、その内容をまとめる。まとめた内容については、発表資料を作成し、それを掲示して発表し、全体で討議する。その中で、乳児保育への確かで豊かな視点を修得するとともに、乳児保育の実践力を高める。この授業は、保育現場で実際に保育を行っている教員が、実務経験を生かし実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳児保育に関する内容と方法、保育計画、保育者の在り方等の理解を深め、その知識・技術を修得することができる。	DP1	乳児保育に関する実践的な知識・技術について、定期試験で７割以上解答できる。
2.	乳児保育に関する具体的な課題を討議する中で、課題解決能力やコミュニケーション能力を培うことができる。	DP1	「保育実習における乳児保育の内容と方法に関する問題点と対応策」についてグループ討議し、協働して資料を作成し、模擬保育形式で発表できる。
3.	乳児一人一人を大切にする視点と子育て支援者としての意識を持って対応する力を培うことができる。	DP3	視聴覚教材等を通して自分の考えをまとめ、レポートを作成できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（授業内容、授業の進め方） 学習成果について（評価方法、評価基準）	乳児保育Ⅰで学んだ乳児保育で大切にすることを振り返る（30分）	今回の授業で学んだ内容や各種用語について復習する（30分）
2.	「乳児保育Ⅰ」を振り返って　～乳児期　一人一人が大切に育てられるために～	子どもを大切に育てるとはどういうことか、本などを読んでイメージを持つ（30分）	前回の授業で学んだことをプリント等を見て振り返る（30分）
3.	保育所保育指針「乳児保育のねらいと内容」	保育所保育指針「乳児保育のねらいと内容」を事前に調べておく（1時間）	前回の授業で学んだことをプリント等を見て振り返る（30分）
4.	乳児保育の内容と方法 ①基本的生活習慣～食事～	教科書ｐ140～ｐ150を読んでおく（1時間）	乳児の食事で大切にすることを振り返る（30分）
5.	乳児保育の内容と方法 ②基本的生活習慣～排泄～	教科書ｐ150～ｐ159を読んでおく（1時間）	乳児の排泄で大切にすることを振り返る（30分）
6.	乳児保育の内容と方法 ③基本的生活習慣～睡眠・着脱・清潔～	教科書ｐ133～ｐ140を読んでおく（1時間）	乳児の睡眠・着脱・清潔で大切にすることを振り返る（30分）
7.	乳児保育の内容と方法 ④あそびを中心に～あそびの在り方、特徴、環境づくり～	教科書ｐ159～ｐ167を読んでおく（1時間）	乳児の遊びで大切にすることを振り返る（30分）
8.	乳児保育の内容と方法 ⑤あそびを中心に～あそび文化としての絵本～	絵本を何冊か読み、乳児にふさわしい絵本を調べておく（1時間）	絵本を読み返し、乳児にふさわしい絵本のリストを作る（1時間）
9.	乳児保育の内容と方法 ⑥あそびを中心に～手作りおもちゃづくり～	乳児の遊びと特徴を調べておく（30分）	手作りおもちゃの材料等を準備する（1時間）
10.	乳児保育の内容と方法 ⑦あそびを中心に～あそびの実践・発表～	手作りおもちゃの特徴やなぜ手作りおもちゃが良いのか調べておく（30分）	年齢ごとの手作りおもちゃの種類と特徴を表にまとめる（1時間）
11.	「保育所実習における乳児保育に関する問題点と対応策」のグループ学習①グループ討議・資料作成	実習で感じたこと、わかったこと、困ったこと、疑問に思ったことをまとめておく（1時間）	グループ発表に必要な資料をまとめる（1時間）
12.	「保育所実習における乳児保育に関する問題点と対応策」のグループ学習②発表	グループ討議でまとめたことをどうすればわかりやすく伝えることができるか考える（1時間）	他のグループ発表を聞いて気づいたことをまとめる（1時間）
13.	乳児保育の計画と記録 ①年間保育計画・月案・個人計画の立案	教科書ｐ230～ｐ238を読んでおく（1時間）	具体的な保育計画を立てる（1時間）
14.	乳児保育の計画と記録 ②年間保育計画・月案・個人計画の評価	立案した保育計画を見直し、評価の仕方についてイメージを持つ（1時間）	保育計画の評価の仕方を振り返る（1時間）
15.	保育者・保護者との連携	教科書ｐ72～ｐ83を読んでおく（1時間）	乳児保育において保育者・保護者との連携がなぜ大切か振り返る（1時間）

教科書	阿部和子　著　改訂「乳児保育の基本」萌文書林
参考書	汐見稔幸　監修　0.1.2歳児からのていねいな保育1～3巻　フレーベル館
学習成果の評価方法	ペーパーテスト（60%）、レポート・作品・発表（40%）で総合評価する。 レポート等は、評価の上フィードバックします。
特記すべき事　項	各回の出席は、授業開始時の応答、又は課題提出等により確認する。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	質問、相談がある時は、授業の前後に教室、または非常勤講師室で対応します。

科　目	特別支援教育	開講時期 履修方法	２年前期 必修、教免必修、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	専任講師　志方　亮介	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	近年インクルーシブ教育が重要視され、子ども一人ひとりのニーズに合わせた支援が求められている。幼稚園・保育所・認定こども園にも様々な障害や生活背景を持つ子どもがおり、発達や特性に応じた支援の必要がある。本科目では、特別な支援を要する対象者の主体性を尊重した、個別の教育的ニーズに基づく教育的配慮意義や方略の理解、関係機関との連携による組織的な対応や具体的支援の理解を目指す。なお、本授業ではグループワークや文献学習等を取り入れる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。	DP1	特別な支援が必要な幼児、児童が示す特徴やそれに伴う援助について適切に説明することができる。
2.	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の体制・方法について理解する。	DP1,3	特別な支援が必要な幼児、児童を支援するための教育課程や社会制度について理解し、適切に説明することができる。
3.	障害はないが特別な教育的支援のニーズをもつ幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の 困難とその対応を理解する。	DP2,4	定期試験で特別支援教育における基本的な考え方や具体的支援について６割以上正答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果（評価方法・評価基準）について／インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組	特別支援教育の概要に関する疑問の整理（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
2.	発達障害がある幼児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	教科書2章を読み、発達障害の特性などのイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
3.	知的障害がある幼児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	教科書2章を読み、知的障害の特性などのイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
4.	身体障害がある幼児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	教科書2章を読み、身体障害の特性などのイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
5.	基礎的な知識：発達障害がある幼児の生活上の困難について	教科書2章を読み、発達障害への具体的な支援についてイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
6.	基礎的な知識：視覚や聴覚に障害がある幼児生活上の困難について	教科書2章を読み、視聴覚の障害への具体的な支援についてイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
7.	基礎的な知識：知的障害がある幼児生活上の困難について	教科書2章を読み、知的障害への具体的な支援についてイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
8.	基礎的な知識：肢体不自由がある幼児学習上又は生活上の困難について	教科書2章を読み、肢体不自由への具体的な支援についてイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
9.	特別支援教育の方法：ソフト面に着目した支援	教科書2章を読み、特別支援教育の支援の観点や関わり方のイメージをもつ（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
10.	特別支援教育の方法：ハード面に着目した支援	教科書2章を読み、特別支援教育における環境調整や機器の活用について知る（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
11.	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容	教科書3,4章を読み特別支援教育の教育課程について知る（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
12.	特別支援教育の視点に立った個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義と方法	教科書3,4章を読み特別支援教育における計画の立案と支援について知る（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
13.	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携	教科書4章を読み特別支援教育に関する制度等について知る（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
14.	母国語や貧困等を理由とする教育上の問題をふまえた特別の教育的ニーズへの組織的な対応	教科書6章を読み国際的、経済的な教育問題について知る（30分）	授業内容と疑問の整理（30分）
15.	まとめと全体質疑	これまでの授業に関する疑問の整理（30分）	授業全体の振り返りと疑問点の解消(30分)

教科書	尾野明美　小湊真衣　奥田訓子　編著「特別支援教育・保育概論ー特別な配慮を要する子どもの理解と支援ー」　萌文書林
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
学習成果の評価方法	授業態度（グループワークや資料作成など20%）、定期試験（40%）、発表の資料及び内容（40%） 授業中のワークや作成資料については、担当教員が確認し、内容をまとめたうえで解説を行うことで学生へのフィードバックとする。
特記すべき事　項	毎回の出欠確認は開始時の応答およびミニレポートにより確認する。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ることとする。
質問・相談等の受付	質問や相談などはオフィスアワー（火曜：10：40～12：10）に219研究室 にて受け付ける。

科　目	子どもの健康と安全	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士必修、こども音楽選択必修
担当者	教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの健康増進や安全に関わる保健活動の計画や評価について、講義と演習を取り入れて具体的に授業を進めていきます。保育の現場では、子どもの健康・安全の確保が生活の基本です。そのために、子どもの心身の発育・発達を促し、子どもの病気とその予防、及び対応法や救急時の対応、事故防止、安全管理について具体的に学びます。また、現代社会における心身の健康問題や地域保健活動についても理解を深めていきます。　将来母親になった時の育児の参考にもなると思います。 *この授業はこども病院で看護師として7年以上の臨床経験を持つ教員により症例説明や保健活動について実践に即した授業を行います。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育における保健的観点を踏まえ、保育環境・衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解することができる。	DP１	定期試験で6割以上回答できる。演習後は衛生管理、安全対策の知識および具体的な危機管理対策の方法についてレポートすることができる。
2.	子どもの体調不良に対する適切な対応や、保育における感染症対策について、近年のデータ等を踏まえ具体的に理解することができる。	DP１	演習後は体調不良対応や感染症対策について具体的に理解し、且つ救急時の観察ポイント等をレポートすることができる。
3.	子どもの発達や状態等に対して、適切な対応法を理解するとともに、組織的取組や計画・評価についても理解することができる。	DP３	演習後は子どもの個別的対応を理解し、家庭や自治体との連携の必要性等をレポートすることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
1.	本科目について説明。導入を行う。子どもの健康と保育の環境。 本科目を学ぶ意義や学習成果(評価方法および評価基準)につい	望ましい保育環境とは何かをを考えてみる　(30分)	幼稚園・保育所の設置基準について、比較しながら理解する。　(30分)
2.	子どもの保健に関わる健康と安全・衛生管理 子どもに多い感染症等を見据え、衛生管理についてディスカッションを行う	衛生管理の考え方について調べる　(30分)	講義で学んだ衛生管理について自身も含め当てはめてみる(30分)
3.	事故防止と安全対策 不慮の事故にはどのようなものがあるか、その予防策についてディスカッションを行う	子どもの日常おこりやすい事故にはどのようなことがあるか考え調べる(30分)	講義で学んだ内容や子どもの現状について復習する(30分
4.	災害への備えと危機管理 災害体験などを出し合い、災害に対す裏備えについてグループワークを行う	予測される災害について過去の出来事等も考慮し調べる(30分)	講義で学んだ内容や避難方法について復習する(30分)
5.	子どもの体調不良への対応－おもな症状と対応－ 子どもに多い発熱、下痢、嘔吐、発疹等について具体的対応	自分自身の体調不良時の症状について考えてみる　(30分)	講義で学んだ内容や対応方法について復習する(30分)
6.	子どもの体調不良への対応－応急処置－ 子どものに多い怪我、やけど、打撲等について演習を通して学ぶ	応急処置が必要な場合はどのような時かについて考えてみる　(30分)	講義で学んだ内容や応急処置について復習する(30分)
7.	救急処置及び救急蘇生法の習得(AED対応) 救急処置について関連するDVD視聴を通して蘇生法の演習を行う	AEDについて図書館等で調べる(30分)	講義で学んだ内容や救命方法(胸骨圧迫)について復習する(30分)
8.	子どもと薬：飲み薬、塗り薬への対応 保育園等でも依頼を受けて取り扱う薬について演習を通して学ぶ	自分自身が服用したことのある薬にはどのようなものがあるかを調べる　(30分)	講義で学んだ薬の内容や投与方法について復習する(30分)
9.	感染症の予防と対策－集団発症の予防 感染症に関するDVDを視聴し予防策についてグループワークを行う	自身が罹患したことのある感染症について母子手帳等を使い調べる(30分)	講義で学んだ感染症発症時の対応について復習する(30分)
10.	感染症の予防と対策－3大要因に対する対策 病原体、感染経路についてや予防についてディスカッションを行う	感染症の要因(３大要因)にはどのようなものがある科考える	講義で学んだ内容や３大要因に対する対応策について復習する(30分)
11.	３歳未満児への対応－抱っこ、排せつ、入浴－ 乳児の抱っこの基本、オムツ交換の方法などを演習を通して	３歳未満児と接してみる。または抱っこをしている人の観察をしてみる　(30分)	講義で学んだ内容や方法について実際にお人形等を利用してやってみる。(30分)
12.	３歳未満児への対応－抱っこ、排せつ、入浴－ 抱っこ、オムツ交換の技術に加え沐浴の方法を演習を通して	３歳未満児と接してみる。また薬局などでおむつなどに触れてみる　(30分)	講義で学んだ内容や方法について機会があれば子供用具を店頭などで見てみる(30分)
13.	特別な配慮を必要とする子どもへの対応 －アレルギー疾患、循環器疾患、てんかん等－	アレルギー疾患やてんかんについて図書館等を利用して情報を集めておく　(30分)	講義で学んだ内容や疾患について復習する(30分)
14.	障がいがある子どもへの対応 －身体障害、発達障害、重症心身障害など－	発達障害について図書館等を利用して調べておく(３０分)	講義で学んだ内容や障害の種類について復習する(30分)
15.	健康安全への取り組み－組織や地域連携－ －母子保健法とその活用について福岡市以外の例を調べる－	地域保健活動について自分の居住地域の情報を集めておく　(30分)	講義で学んだ内容や地域保健活動などについて復習する(30分)

教科書	山下雅佳実 他著　「イラスト　子どもの保健・健康と安全」　東京教学社
参考書	巷野悟郎　「保育のための救急傷病看護ハンドブック」　同文書院 ＊その他の参考書は適宜授業中に紹介します。
学習成果の評価方法	期末試験(70%)　レポート(20%)　受講態度、演習に取り組む姿勢(10%)　レポートは評価・フィードバック後に返却します。
特記すべき事　項	実技演習はグループ編成で行います。演習後に提出する課題レポートは合格するまで再提出してください。基本的にグループごとに提出します。出席確認は各自呼応にて行います。遅刻、早退等は必ず個人で申し出てください。
質問・相談等の受付	質問、相談などがあるときは授業終了後 直接質問に来てください。その時の内容で即答、次回持越しや研究室対応を決めます。研究室対応は金曜日16：30～17：30内で受け付けます。

科　目	社会的養護Ⅱ	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士必修
担当者	教授　大川　絹代	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	少子高齢社会の進展と並行して、地域社会や家庭のあり方が大きく変化してきている。このような状況のなか、子どもを公的責任で社会的に養育し保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことが必要とされている。本講義では、増大する児童虐待や、ますます複雑化する養護ニーズにこたえるための社会的養護の実際面に焦点をあて学習する。さらに、社会的養護の実際を捉えながら、個々の児童に応じた支援内容、支援計画作成、ソーシャルワークの方法と技術について理解し、児童の権利擁護や保育士の倫理について、グループワーク、ディスカッションを通して事例検討を行い、実践的・主体的に学ぶ。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会的養護における基礎的な内容について理解し、施設養護および家庭養護の実際について理解できる。	DP1	定期試験及びレポートで６割以上解答できる。
2.	社会的養護における計画、記録、自己評価について理解し、相談援助の方法、技術について考えることができる。	DP1	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。
3.	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解できる。	DP1	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 社会的養護における子どもの理解	教科書Chapter１熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
2.	日常生活支援	教科書Chapter3熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
3.	治療的支援	教科書Chapter5熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
4.	自立支援（自立、リービングケア）	教科書Chapter9熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
5.	自立支援（親子再統合）	教科書Chapter10熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
6.	自立支援（措置変更）	教科書Chapter11熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
7.	自立支援（アフターケア）	教科書Chapter12熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
8.	施設養護の生活特性（生活のルール）	教科書Chapter4熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
9.	施設養護の生活特性（行事）	教科書Chapter7熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
10.	家庭養護の生活特性（里親、ファミリーホーム）	教科書Chapter6熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
11.	アセスメントと個別支援計画の作成	教科書Chapter2熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
12.	記録及び自己評価	教科書Chapter13熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
13.	保育の専門性に関わる知識・技術	教科書Chapter8熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
14.	社会的養護に関わる相談援助の知識	教科書Chapter14熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）
15.	社会的養護における家庭支援と課題	教科書Chapter14熟読（30分）	講義内容、配布資料のまとめ（30分）

教科書	中山正雄監修　浦田雅夫編著「よりそい支える社会的養護Ⅱ」教育情報出版
参考書	適時、授業内で提示
学習成果の評価方法	試験50%、レポート40%、授業参加度（取組、発表）10%。レポートはフィードバック後、返却します。
特記すべき事　　項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。 毎回の出席は、授業開始時の応答および各回のミニレポートにより確認します。
質問・相談等の受付	質問、相談があるときはオフィスアワー（火曜日16時～17時）に研究室にて受け付けます。

科　目	子育て支援	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士必修
担当者	専任講師　志方　亮介	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育者の責務として、子どもの保育に加え、保護者への子育て支援があげられる。幼児保育に携わる立場であることは、乳幼児期の発達の専門家として子育てに関する諸問題への助言や行動が求められる。子育てに関わる悩みや問題については、家族や地域といった環境の側面、また行政サービスや経済的な側面などの多角的な視点から解決を図らなくてはならない。本授業では、保護者への相談支援に関する基礎知識の習得に加え、実際の事例に関するディカッションやロールプレイによる実技演習を通じて子育て支援に有効な技術の習得を目標とする。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育相談支援の意義と基本的な内容について理解する。	DP1	定期試験および授業内の課題等で保育相談支援の基礎知識についての問いに６割以上正答できる。
2.	保育相談支援における要点や方法を理解し、実践的な技術を身に付ける。	DP1,3	授業中に行う演習に積極的に取り組み、面接の技術を身に付け実践することができる。
3.	子育ての問題とその支援について関心をもち具体的な問題意識を持つ。	DP3	授業内の課題やワークにおいて、個人の積極的な問題意識を持ち、子育ての問題に対する具体的な解決策を提示できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	授業のオリエンテーションと学習成果（評価方法・評価基準）についての説明／相談支援の位置づけと方法について	児童福祉や家庭支援に関する授業の振り返り（30分）	第１回の授業内容と疑問点の整理（30分）
2.	子育て支援が求められる社会背景への理解と現状の理解	子育てに関する現代社会の背景に関する予習（30分）	第２回の授業内容と疑問点の整理（30分）
3.	子育て支援に関わる社会制度の理解と保護者の相談ニーズへの気づき	子育てに関する現代社会の背景に関する予習（30分）	第３回の授業内容と疑問点の整理（30分）
4.	保育所等の児童福祉施設による子育て支援	保育や児童養護の観点からの子育て支援に関する予習（30分）	第４回の授業内容と疑問点の整理（30分）
5.	教育施設による子育て支援	幼児教育の観点から見た子育て支援に関する予習（30分）	第５回の授業内容と疑問点の整理（30分）
6.	家庭内の問題への理解と地域の子育て支援の重要性	貧困や保護者の疾患、成育歴等による問題に関する予習（30分）	第６回の授業内容と疑問点の整理（30分）
7.	自治体・関係機関との連携による虐待問題の予防と社会的資源の利用	虐待問題に関する予習（30分）	第７回の授業内容と疑問点の整理（30分）
8.	子育て支援における保護者への多面的理解と信頼関係の構築	子育て家庭の現状とラポール形成に関する予習（30分）	第８回の授業内容と疑問点の整理（30分）
9.	子育て支援のための相談支援のプロセス①（状況把握と支援計画の立案）	相談業務のプロセスに関する予習（30分）	第９回の授業内容と疑問点の整理（30分）
10.	子育て支援のための相談支援のプロセス②（記録と支援の評価・カンファレンス、職員間の連携）	支援における記録や評価に関する予習（30分）	第10回の授業内容と疑問点の整理（30分）
11.	多様な支援ニーズの理解と障害等により特別な配慮を要する家庭への支援	家族に生じ得る諸問題に関する予習（30分）	第11回の授業内容と疑問点の整理（30分）
12.	子育て支援のための面接技術①　～面接の種別と環境設定～	教科書（5章）を用いた相談支援に関する予習（30分）	第12回の授業内容と疑問点の整理（30分）
13.	子育て支援のための面接技術②　～受容と共感、傾聴訓練～	教科書（5章）を用いた相談支援に関する予習（30分）	第13回の授業内容と疑問点の整理（30分）
14.	子育て支援のための面接技術③　～ロールプレイを用いた実践的な面接の展開～	教科書（5章）を用いた相談支援に関する予習（30分）	第14回の授業内容と疑問点の整理（30分）
15.	授業の振り返りとまとめ	授業内容全体に関する疑問点の整理（30分）	授業全体の振り返りと疑問点の解消(30分)

教科書	伊藤篤 編　名須川知子、大方美香　監修　「子育て支援」　ミネルヴァ書店
参考書	授業中に紹介する。
学習成果の評価方法	試験（60%）、授業内のワークやミニレポートを含む受講態度（40%）で評価を行う。 ワークやミニレポートについては担当教員が確認し、内容をまとめたうえで解説を行うことで学生へのフィードバックとする。
特記すべき事　項	毎回の出欠確認は開始時の応答により確認する。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ることとする。
質問・相談等の受付	質問や相談などはオフィスアワー（木曜：10：30～12：10）に３号館 219研究室 にて受け付ける。

科　目	子どもの動きとリズム	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修、こども音楽選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・専任講師　四童子　薫・講師　能塚　由紀子・講師　今村　由紀	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育園や幼稚園では、子どもの身体性や感性を向上させるために、エミール・ジャック＝ダルクローズの発展させた音楽教育の手法である「リトミック」が多く用いられている。この授業においては、動きを通して音楽を学ぶ方法であるリトミックについて、その理論を理解し、体験や実践を通じてリトミックの技術を習得することを目的とする。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	リトミックを体験することで、子どもの動きや気持ちを理解する。	DP1	実際にリトミックを体験し、音楽に合わせて体を動かすということの意味・意義を理解できる。
2.	グループ活動を積極的に行い、互いに協力し合う。	DP1	リトミックを指導するための指導法等をグループで協力して研究し、発表することができる。
3.	リトミックを実践するための技術を習得する。	DP1	保育現場においてリトミックを実践するため、身体の動かし方・ピアノ伴奏等の技術を習得することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について （評価方法および評価基準）	１年時に習った和音(C,F,G)の復習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
2.	リトミックとは？ リトミックの歴史・理論と幼児教育への活用	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
3.	リトミックの体験と実践　即時反応	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
4.	リトミックの体験と実践　ビート・拍子	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
5.	リトミックの体験と実践　ダイナミクスとテンポ・ニュアンス	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
6.	リトミックの体験と実践　リズム・パターン・フレーズ・形式	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
7.	リトミックの体験と実践　ソルフェージュ	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
8.	季節のリトミック（春・夏）	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
9.	季節のリトミック（秋・冬）	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
10.	リズムアンサンブル	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
11.	リトミック　グループ活動①（指導内容の討議・発表）	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
12.	テーマに沿ったリトミック（絵本を含む）の組み立て方	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
13.	テーマに沿ったリトミック　グループ活動②（指導内容の討議・発表）	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
14.	テーマに沿ったリトミック　グループ活動③（指導内容の討議・発表）	進度に合わせたピアノ伴奏の練習をしておく(30分)	授業内容について復習しておく(30分)
15.	まとめと試験（筆記・実技）	これまでの内容を復習し、試験に備える(30分)	授業内容全体についてまとめる(30分)

教科書	神原雅之監修「楽しみながらからだを動かす　１～５歳のかんたんリトミック」ナツメ社
参考書	塩野マリ編著「0・1歳児のふれあい歌あそび」ひかりのくに、塩野マリ編著「2・3歳児のふれあい歌あそび」ひかりのくに、「日本の子どもの歌」音楽之友社、板野平著「みんなでやろうリトミック」ひかりのくに
学習成果の評価方法	授業の取り組み(30%)、グループ発表を含む課題(30%)、実技試験(40%)等により総合的に評価する。 提出課題については、フィードバックを行ったうえで返却する。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時と終了時に行う。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。 授業時の取組みも重視するため、欠席等がないように心がけること。
質問・相談等の受付	質問・相談等は授業の前後かオフィスアワー（火曜日14:50～16:20）に研究室にて受け付ける。

科　目	「子どもと健康」指導法	開講時期 履修方法	２年前期 選択、教免必修、保育士必修
担当者	准教授　三好　伸幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。乳幼児において育みたい資質能力について背景にある専門的領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。	DP1	授業中に行う小テストで、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「健康」について6割以上解答できる。
2.	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	DP1,3	領域「健康」に関わる指導案を、各年齢に応じた内容で記入することができる。また、指導案に沿って模擬保育を行うことができる。
3.	乳幼児の基本的生活習慣を理解し、適切にアドバイスできる知識を身に付ける。	DP3	基本的生活習慣について、現在の乳幼児の生活習慣を把握し改善策を考えまとめることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果・評価基準および評価方法について	健康に関する指導法について事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
2.	幼稚園教育要領や保育所保育指針における基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造	健康領域に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
3.	領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点	健康領域のねらいについて内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
4.	領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法	幼児に適した教材について事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
5.	領域「健康」の教材解釈と工夫応用	教材の工夫について事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
6.	領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながり	幼小連携に関する内容を事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
7.	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性	幼児の発達過程について事前に復習しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
8.	領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向	子どもの遊びの現状について事前に情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
9.	幼稚園・保育所の運動遊びの現状と問題点	これまでの実習日誌を事前に見直しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
10.	幼稚園・保育所での遊びと運動遊びの関連	これまでの実習日誌を事前に見直しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
11.	子どもの発育発達に応じた運動遊びの実践	前回の授業を振り返り運動遊びの特性を整理しておくこと（30分）	実践を通し気付きをまとめ授業計画の立案の準備をしておくこと（30分）
12.	運動遊びと基本的生活習慣について	基本的生活習慣について情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
13.	幼稚園教育における評価の考え方	幼児期の評価に関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ指導計画を考えておくこと（30分）
14.	指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成	これまでの授業を振り返り指導計画を考えておくこと（30分）	授業で学んだ内容を踏まえ指導計画を見直すこと（30分）
15.	模擬保育とその振り返り	模擬保育に向けて準備を行うこと（30分）	模擬授業を通し学んだ内容についてまとめること（30分）

教科書	なし
参考書	幼稚園教育要領(平成29年3月告示　文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育･保育要領(平成29年3月告示　内閣府）
学習成果の評価方法	発表（40%）、課題（40%）、授業への取組み（20%） 発表、課題については評価をおこない、授業内で解説しフィードバックとする。
特記すべき事　項	出席は点呼をとるため、挙手し返事をすること。また、遅刻、早退、欠席理由は本人より申し出ること。
質問･相談等の受付	質問、相談については、授業前後またはオフィスアワーの時間（主に火曜日15:00～17:00）に研究室にて受付ける。

科　目	「子どもと人間関係」指導法	開講時期 履修方法	２年後期 選択、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「人間関係」は、「他の人々に親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。乳幼児期において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付ける。また、授業内でアクティブラーニングを活用し、グループワークを行うことがある。この授業は、認定こども園での実務経験のある教員が、その経験を活かし、実践を踏まえながら授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する	DP1	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、人間関係を育む保育の構想について、課題レポートで自分の考えを記述できる
2.	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける	DP3	授業時に適宜実施する領域「人間関係」に関するグループワークを通して、実際の保育を想定しながらその方法論について、振り返りシートを提出する
3.	保育者を取り巻く人間関係について、自己認知・他者認知の視点からも基礎的知識を身に付ける	DP1	授業内容を踏まえ、保育者を取り巻く人間関係について自己認知・他者認知の視点を取り入れ、文章で論理的にまとめることができる（課題レポート）

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果（評価方法・評価基準）について	シラバスを読み、授業目標について理解する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
2.	幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「人間関係」の位置づけ（ねらい及び内容）を理解する	領域「人間関係」のねらい及び内容を読んでおく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
3.	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点	領域「人間関係」のねらい及び内容を読んでおく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
4.	幼稚園教育における評価の考え方	自らの実習日誌から子どもの見方について整理する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
5.	乳幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等のつながり	保幼小の連携について調べ、整理する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
6.	乳幼児の心情、認識、思想及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性	子どもの空想や情緒面の発達について整理する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
7.	領域「人間関係」の特性及び乳幼児の体験との関連性を考慮した教材の効果的な活用法	乳幼児期に用いられる遊具や遊びについて整理する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
8.	幼児の体験との関連を想定した情報機器の活用	ICT教育の利用について調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
9.	育ちあう子ども同士の人間関係	子ども同士の情緒的交流の意義を整理する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
10.	育ちを支える保育者同士の人間関係	保育者同士の連携や協働の意義を整理する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
11.	育ちを支える保護者と保育者の人間関係	保護者支援や家庭支援に関する知識を整理する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
12.	育ちに関わる「私」の人間関係	エリクソンの発達論を中心に自我の発達について予習する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
13.	指導案の構造を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案の作成	授業内の事例を振り返り指導案作成の準備をする（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
14.	模擬保育やロールプレイ的手法を用いた子ども理解	自身が経験した実習やボランティアに関する記録の作成（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
15.	領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向	授業を振り返り疑問点を整理と現代的課題の検討（30分）	全授業のまとめを踏まえてレポートを作成する（30分）

教科書	なし（授業時に適宜資料を配布します）
参考書	配布プリント、幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示　文部科学省）、保育所保育指針解説（平成29年3月告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年3月告示　内閣府）、その他（授業の際に適宜紹介する）
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（10%）、課題レポート（50%）、小テスト（40%） 課題・レポート・小テストについては次回、解説を加えフィードバックを行います
特記すべき事　項	出席は授業開始時の応答により行います。遅刻、早退は時間内に必ず本人が直接理由を申し出てください
質問・相談等の受付	質問・相談がある際は、オフィスアワー(火曜日、14:50～17:00　※会議で不在の時もあります）に担当教員の114研究室に来てください

科　目	「子どもと環境」指導法	開講時期 履修方法	２年後期 選択、教免必修、保育士必修
担当者	専任講師　古林　ゆり	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	領域「環境」で必要とされる感性を養い、現代の乳幼児を取り巻く環境と乳幼児の身近な環境との関わりや乳幼児期の生物や自然との関わり、事象に対する興味・関心・理解について学ぶ。乳幼児期の発達に即した主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、グループワーク、プレゼンテーションなどを通して、領域「環境」の具体的な保育を構想する方法を身につける。 ※本授業は、保育所において乳幼児教育に13年間携わった実務経験のある教員が、「子どもと環境」の指導に関する保育経験を生かし、実践に即した授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された基本を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容を理解する。	DP1	幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「環境」の内容を理解し、提示された課題に取り組むことができる。
2.	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	DP1,3	保育実践や参考図書を利用して、保育指導案や年間の指導計画を作成することができる。
3.	自然などの環境に親しみ、活動に積極的に参画し、自らの感性を磨く。	DP1,3	保育指導案や指導計画をもとに、模擬保育の中で実際に指導することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法、評価基準）	シラバスを読み到達目標と授業内容について確認しておく(30分)	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
2.	領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造	幼保連携型認定こども園教育・保育要領２章第３節の内容を読んでおく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
3.	領域「環境」のねらい及び内容と指導上の留意点	幼保連携型認定こども園教育・保育要領4章を読んでおく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
4.	幼稚園における評価の考え方	指導案の書き方に関連する資料・書籍等を確認しておく(30分)	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
5.	指導案の構造と指導案の作成方法	保育指導計画の作成を事前に行い自己学習を進める(30分)	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
6.	領域「環境」における教材研究と情報機器の活用法	保育教材研究に関連する資料・書籍等を確認しておく(30分)	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
7.	幼児の心情、認識、思考及び動きを視野に入れた保育構想の重要性	子どもを取り巻く社会・生活環境に関連する資料等を確認しておく(30分)	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
8.	環境と認識①季節・植物・動物・自然現象	季節・植物・動物・自然現象を感じる保育の展開に関連する資料などを確認しておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
9.	環境と認識②数量・図形・標識・文字環境と認識	数量・図形・標識・文字を体験できる保育の展開に関連する資料などを確認しておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
10.	環境と認識③地域・社会・生活文化	地域・社会・生活文化を体験できる保育の展開について関連する資料等を確認しておく（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
11.	季節に関する指導計画の立案と実践（春夏）	模擬保育の指導案と教材準備(30分)	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
12.	季節に関する指導計画の立案と実践（秋冬）	模擬保育の指導案と教材準備(30分)	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
13.	模擬保育とその振り返り	模擬保育の指導案と教材準備（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
14.	年間指導計画の立案	模擬保育の指導案と教材準備（30分）	授業で学んだ内容や資料を読み返し、ノートを整理する（30分）
15.	領域「環境」における現代的課題や保育実践の動向 まとめ	これまで学んだ内容をまとめる(30分)	試験に向けての準備と振り返り（30分）

教科書	使用しません（授業時に適宜資料を配布します）
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」平成30年3月　フレーベル館
学習成果の評価方法	課題の提出（35%）、模擬保育（30%）、小テスト（20%）、授業への参加姿勢（15%）で評価します。 小テストの評価及び課題については、解説を加えつつフィードバックします。
特記すべき事項	・毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。 ・遅刻、早退は、必ず本人が直接理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問などがある場合は、オフィスアワー（月曜日　14:50～16:50）に114研究室に来て下さい。

科　目	施設実習Ⅰ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士必修、レク選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・専任講師　志方　亮介・専任講師　新田博司	授業形態 単位数	学外実習 2単位
授業概要	施設実習Ⅰ、保育所以外の児童福祉施設のうち居住型施設において原則として10日間の宿泊実習を行う。施設の種類は、児童養護施設、乳児院、知的障がい児(者)施設、肢体不自由児(者)施設、重症心身障がい児(者)施設、情緒障がい児短期治療施設および児童発達支援センターなど多岐にわたります。この実習は「見学・観察・参加」活動を主な目的とするが、他の実習同様に積極的に実習を行うことが望まれます。 なお、本実習においては交通費をはじめ、実習施設によっては宿泊費や生活費などの実費(施設によっては30,000円程度)がかかります。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	児童福祉施設(保育所を除く)の役割や機能を具体的に理解する。	DP2	実習施設の評価が2.5以上であること。所感や日誌等に役割や機能について、十分な記述ができる。
2.	観察や関わりを通して対象児(者)への理解を深めることができる。	DP2,3	実習施設の評価が2.5以上であること。所感や日誌等に対象児(者)の理解について、十分な記述ができる。
3.	児童福祉施設(保育所を除く)における保育士の役割や職業倫理等について理解する。	DP4	実習施設の評価が2.5以上であること。所感や日誌等に保育士の役割や職業倫理等について、十分な記述ができる。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
○オリエンテーション／学習成果について(実習資格基準、評価方法および評価基準) 「施設実習Ⅰ」においては「見学・観察・参加」活動を主とする実習を行う。「見学・観察・参加」においては、各施設の実情、入所児(者)の実態、保育士の仕事などについて理解を深める。「参加」においては、各施設の指導保育士の方々の助言を受け、その指示に従いながら、保育活動・養護活動を積極的に行う。 　各施設により、児童処遇の目的と方法は異なっているので、配属された各施設での実習指導計画をよく理解し、指導保育士の指導に従い実習を行うことが必要である。原則として宿泊実習であり、入所児(者)の日常生活の支援を行う実習であるから、夜勤を行うこともある。なお、実習施設において、以下の内容を学ぶ。 １．施設の機能と役割 　(1) 施設の生活と一日の流れ 　(2) 施設の役割と機能 ２．利用児・者の理解 　(1) 利用児・者の観察とその記録 　(2) 個々の状態に応じた援助や関わり ３．養護内容・生活環境 　(1) 計画に基づく活動や援助 　(2) 利用児・者の心身の状況に応じた対応 　(3) 利用児・者の活動と生活の環境 　(4) 健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 　(1) 支援計画の理解と活動 　(2) 記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 　(1) 保育士の業務内容 　(2) 職員間の役割分担や連携 　(3) 保育士の役割と職業倫理	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示で準備をおこなう（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容を生かし翌日の実習目標を立てる（2時間）	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示を復習し、実習園の教育方針や目標を復習する（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容についてまとめる（2時間）

教科書	特になし
参考書	実習指導Ⅲのテキスト、社会養護のテキストなど。
学習成果の評価方法	実習施設の評価（70%）を基準に、実習日誌等(30%）を併せ学内で総合的に評価をする。 実習園の評価については、事後指導にてフィードバックを行う。
特記すべき事　　項	実習の参加にあたり、学内資格審査基準を順守し、事前指導、事後指導に出席すること。 実習中の欠勤・遅刻・早退、トラブル等の連絡は、確実に実習演習室に連絡をすること。
質問・相談等の受付	相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：50～16：20）研究室に来てください。

科　目	保育所実習Ⅱ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	准教授　元田　幸代・専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	学外実習 2単位
授業概要	保育所実習は、保育所やこども園での現場における保育の実際を体験的に学ぶ機会です。 1年次の保育所実習Ⅰ（見学・観察・参加）での体験を踏まえ、2年次においては、自分で指導計画を立てて子どもたちの指導にあたる"指導実習"を行います。下記授業計画(授業内容)に記載している内容を、実習園の先生方の指導のもと実施します。 本実習は、実習を希望する保育所、こども園に自分で実習を依頼します。園よりの承諾書を指定期日内に科目担当者に提出してください。 実習にあたっては、交通費、給食費、教材費等の費用が必要になる場合があります。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	実習園の保育方針を理解し、保育士としての態度、姿勢を意識して実習を行うことができる。	DP2	実習日誌の園の概要欄に実習園の保育方針を適切に記入しており、説明できる。実習評価表の関連項目において良好な評価を得ている。
2.	保育所の役割、機能、子育て支援、保育士の業務内容、職業倫理を意識して実習を行うことができる。	DP2	実習評価表の関連項目において良好な評価を得ている。
3.	保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価を行うことができる。	DP2,3	実習評価表の関連項目において良好な評価を得ている。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
○オリエンテーション、学習成果について（評価方法及び評価基準） ○本実習の目標、内容は次のとおりです。 ＜目標＞ 1．保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 3．既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 4．保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 5．保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 6．実習における自己の課題を明確化する。 ＜内容＞ 1．保育所の役割や機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となって行われる保育 （2）保育所の社会的役割と責任 2．観察に基づく保育の理解 （1）子どもの心身の状態や活動の観察 （2）保育士等の援助や関わり （3）保育所の生活の流れや展開の把握 3．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 （2）入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 （3）関係機関や地域社会との連携・協働 4．指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 （1）全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5．　保育士の業務と職業倫理 （1）多様な保育の展開と保育士の業務 （2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6．自己の課題の明確化	実習前 　実習依頼時や事前訪問において、実習園の先生方よりのオリエンテーションをしっかり受け、実習園の保育方針を理解しておく。 　また、指導計画の立案、ピアノの練習、教材準備等の準備を行う。 実習中 　毎日、その日の実習の自己課題を設定する。 　また、指導計画の立案、ピアノの練習、教材準備等の準備を行う。 実習後 　事後指導および提出に向けて実習日誌の確認を行う。	実習前 　実習依頼時や事前訪問での指導内容をまとめる。 　事前指導内容をまとめる。 実習中 　毎日、実習後に実習日誌にその日の記録を行い、先生方よりのアドバイス、自分自身での気づきなど実習内容を振り返る。翌日以降の実習に生かす。 実習後 　全体の振り返りを行う。実習日誌全体を見返して、必要に応じて追加記入、訂正を行い、実習演習室に提出する。

教科書	なし
参考書	朝木徹・大谷朝「保育者を目指すみんなを応援する　保育所実習　サブテキスト」2022
学習成果の評価方法	実習園の評価(70%)を参考に実習日誌等を(30%)併せ学内で総合的に評価します。 実習園の評価については、事後指導にてフィードバックを行います。
特記すべき事項	実習を行うためには、実習資格基準を満たすこと、および事前指導に出席する必要があります。実習終了後は事後指導に出席してください。 実習中の欠勤・遅刻・早退、トラブル等の連絡は確実に実習演習室に連絡してください。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に研究室にて受け付けます。

科　目	施設実習Ⅱ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	准教授　宮本　幸	授業形態 単位数	学外実習 2単位
授業概要	施設実習Ⅰでの経験をふまえ、より専門的、総合的に施設養護のあり方を実習します。実習施設は、児童福祉施設(保育所を除く)、児童発達センター、その他社会福祉関係書法令の規定に基づき設置されている施設になります。ただし実習施設は、保育士の職務が十分学べるような指導体制がとられていることが前提です。 なお、本実習においては交通費をはじめ、実習施設によっては宿泊費や生活費などの実費(施設によっては30,000円程度)がかかります。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1．	児童福祉施設(保育所を除く)の役割や機能を具体的に理解する。	DP2	実習施設の評価が2.5以上であること。所感や日誌等に役割や機能について、適切かつ十分な記述ができる。
2．	観察や関わりを通して対象児(者)への理解を深め、適切な対応をすることができる。	DP2	実習施設の評価が2.5以上であること。所感や日誌等に役割や機能について、適切かつ十分な記述ができる。
3．	社会福祉施設における対象を理解し、指導的立場として関わることができる。	DP3	実習施設の評価が2.5以上であること。対象を十分に理解した指導案を書くことができる。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
○オリエンテーション／学習成果について(実習資格基準、評価方法および評価基準) 実習においては、以下の点に留意しながら学外の実習施設において実習を行う。 これらは本学の実習の評価項目でもある。 １．服装、言葉遣い、礼儀等の基本的生活習慣ができている。 ２．何事にも意欲をもって積極的に取り組む姿勢がみられる。 ３．心身の管理に気を配り、健康で元気に実習に取り組もうとする態度・姿勢がみられる。 ４．人間関係が円満で、みんなと仲良く協力・協調しながら、気持ちよく行動できる。 ５．対象児(者)の生活の状況や発達過程を理解しようとする態度がみられる。 ６．対象児(者)の生活の状況や発達過程に応じた言動をとろうとする度がみられる。 ７．保育・福祉に関する理論と技術を生かし、熱心に取り組むことができる。 ８．現場の支援方針を把握志、見通しを持って行動しようとする態度がみられる。 ９．日誌の記録の仕方が適切であり、丁寧に書かれている。 １０．自ら問題や課題を発見し、解決しようとする態度がみられる。 １１．余暇活動に積極的に参加し、対象児(者）とよく交流することができる。 １２．余暇活動では、保育技術を生かした指導や支援をしようとする態度がみられる。 １３．保健衛生や安全に留意し、施設をつねに快適に保つことができる。 １４．施設の整理整頓や美化、環境構成に努めることができる。	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示で準備をおこなうこと。（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容を生かし翌日の実習目標を立てること。（2時間）	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示を復習し、実習園の教育方針や目標を復習しておくこと。（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容についてまとめること。（2時間）

教科書	特になし。
参考書	実習指導のテキスト、社会養護のテキストなど。
学習成果の評価方法	実習施設の評価（70%）を基準に実習日誌等(30%）を併せ学内で総合的に評価をする。 実習園の評価については、事後指導にてフィードバックを行う。
特記すべき事　　項	実習の参加にあたり、学内資格審査基準を順守し、事前指導、事後指導に出席すること。 実習中の欠勤・遅刻・早退、トラブル等の連絡は、確実に実習演習室に連絡をすること。
質問･相談等の受付	相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：50～16：20）研究室に来てください。

科　目	教育実習Ⅱ	開講時期 履修方法	２年後期 選択、教免必修
担当者	准教授　元田　幸代・准教授　三好　伸幸	授業形態 単位数	学外実習 2単位

授業概要	教育実習は、幼稚園やこども園での現場における教育の実際を体験的に学ぶ機会です。 １年次の教育実習Ⅰ（見学・観察・参加）での体験をふまえ、２年次においては、自分で指導計画を立てて子どもたちの指導にあたる"指導実習"を行います。下記授業計画(授業内容)に記載している内容を、実習園の先生方の指導のもと実施します。 本実習は、実習を希望する幼稚園、こども園に自分で実習を依頼します。園よりの承諾書を指定期日内に科目担当者に提出してください。 実習は後期ですが、実習に向けての準備は前期から行いますので教科書は前期開始時に用意してください。前期より課題を出しますので、しっかり取り組み、実習に備えてください。

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
１．	実習園の教育・指導方針を理解して、幼稚園教諭としての態度、姿勢を意識して実習を行うことができる。	DP2	実習日誌の園の概要欄に実習園の教育・指導方針を適切に記入しており、説明できる。実習評価表の関連項目において良好な評価を得ている。
２．	幼児について基本的、一般的な発達過程、特質を理解して、幼児にかかわることができる。	DP1,2	発達過程にあった指導計画を作成することができる。実習評価表の関連項目において良好な評価を得ている。
３．	幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。	DP1,2	指導案を作成し、それに基づいて、学内では模擬保育を、実習では設定保育を行うことができる。実習評価表の関連項目において良好な評価を得ている。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
○オリエンテーション、学習成果について（評価方法及び評価基準） ○指導実習の具体的内容は次の通り １．教育課程の理解と実践 （１）教育課程の理解と指導計画の具体的な立案 （２）指導案に基づいた幼児主体の教育活動の実践 （部分・全日保育） ２．幼稚園教諭としての態度と技術の習熟 （１）幼稚園教諭の教育活動と職業倫理の理解 （２）子ども理解と愛情にもとづいた子どもへの関わり （３）幼児への教育指導技術の習熟 （４）集団指導、幼児の個人差を考慮した 個別指導の理解と実践 ３．家庭連絡の内容と方法についての理解 （１）保護者との連絡方法の理解 （２）家庭支援の理解	実習前 実習依頼時や事前訪問において、実習園の先生方よりのオリエンテーションをしっかり受け、実習園の教育・指導方針を理解しておく。 また、指導計画の立案、ピアノの練習、教材準備等の準備を行う。 実習中 毎日、その日の実習の自己課題を設定する。 また、指導計画の立案、ピアノの練習、教材準備等の準備を行う。 実習後 事後指導および提出に向けて実習日誌の確認を行う。	実習前 実習依頼時や事前訪問での指導内容をまとめる。 事前指導内容をまとめる。 実習中 毎日、実習後に実習日誌にその日の記録を行い、先生方よりのアドバイス、自分自身での気づきなど実習内容を振り返る。翌日以降の実習に生かす。 実習後 全体の振り返りを行い、その後の学びに生かす。

教科書	・文部科学省「指導と評価に生かす記録 令和３年１０月」チャイルド本社 ・文部科学省「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開 令和３年２月」チャイルド本社
参考書	三好伸幸「精華女子短期大学 実習指導 サブテキスト 2022」
学習成果の評価方法	実習園の評価(70%)を参考に実習日誌等(30%)を併せ学内で総合的に評価します。 課題等および実習園の評価についてはフィードバックを行います。
特記すべき事項	実習を行うためには、実習資格基準を満たすこと、および事前指導に出席する必要があります。実習終了後は事後指導に出席してください。 実習中の欠勤・遅刻・早退、トラブル等の連絡は確実に実習演習室に連絡してください。
質問・相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に研究室にて受け付けます。

科　目	実習指導Ⅳ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	准教授　元田　幸代・専任講師　志方　亮介・専任講師　新田博司・教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育士資格選択必修の「保育所実習Ⅱ(指導実習)」の事前・事後指導を行う授業です。 この科目では、講義による指導、面接による個別指導、指導計画立案や模擬保育などの実践的な内容で行われます。特に指導実習では専門的な知識や技術を要求されますので、受講は真剣で積極的な姿勢が必要となります。また、「実習資格」を満たす要件を各自で確認する必要があります。 指導計画作成、教材製作、実習園でのオリエンテーションなどの際、材料費、交通費等が必要になる場合があります。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	「保育所実習Ⅱ」が円滑かつ有意義に行われることを念頭に、実習の意義・目的の理解を深めることができる。	DP2	１年次の保育所実習Ⅰを踏まえて、保育所実習Ⅱの意義・目的を理解し、保育の改善を検討することができる。
2.	保育士の職業倫理を理解し、実習の心構えを形成することができる。	DP2	実習実施要領について理解し、説明することができる。
3.	対象児を考慮した指導計画の立案を行うことができる。	DP2	模擬保育の準備・発表が適切に行える。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法および評価基準)	実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのテキスト、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
2.	「保育所実習Ⅱ」の意義と目的について	これまでの実習を振り返り、自己課題を設定しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
3.	児童福祉施設の理解（１） 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
4.	児童福祉施設の理解（２） 子どもの保育と保護者支援	配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
5.	個人指導面接（１）（心構え、自己課題について）	日誌など面接の準備を整えておく(30分)	面接で指導を受けたことについて復習する(30分)
6.	事前訪問(実習園でのオリエンテーション)	日誌を整え、質問内容などを準備しておく(30分)	事前訪問報告書にまとめ、復習する(30分)
7.	指導計画立案トレーニング（１） 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
8.	指導計画立案トレーニング（２） 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
9.	個人指導面接（２）（事前準備状況確認）	日誌など面接の準備を整えておく(30分)	面接で指導を受けたことについて復習する(30分)
10.	保育実践力の育成 保育の知識・技術を活かした保育実践	実践準備を行っておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
11.	実習施設について学ぶ（１） 実習合同協議会	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
12.	実習施設について学ぶ（２） 学外講師(園長および保育者)による講演	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
13.	実習施設について学ぶ（３） 子どもの状況に応じた適切な関わり	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
14.	保育士の専門性と職業倫理	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
15.	事後指導における実習の総括と評価	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)

教科書	・厚生労働省「保育所保育指針解説〈平成30年3月〉」フレーベル館 ・内閣府/文部科学省/厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)」フレーベル館
参考書	実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのテキスト・配付資料、その他適宜紹介します。
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢・課題提出(60%)、レポートなど（40%)、課題・レポートについては担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	欠席・遅刻・早退の連絡は、必ず本人が実習演習室に連絡してください。この科目の受講状況は、実習資格基準に関わります。「幼児保育学科の学外実習に関する実習資格基準内規」をよく確認してください。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に各研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に各研究室にて受け付けます。

科　目	実習指導Ⅴ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・教授　角　眞由美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育士資格選択必修の「施設実習Ⅱ(指導実習)」の事前・事後指導を行う授業です。 この科目では、講義による指導、面接による個別指導、指導計画立案や模擬保育などの実践的な内容で行われます。特に指導実習では専門的な知識や技術を要求されますので、受講は真剣で積極的な姿勢が必要となります。また、「実習資格」を満たす要件を各自で再確認する必要があります。 指導計画作成、教材製作、実習園でのオリエンテーションなどの際、教材費、交通費等が必要になる場合があります。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	「施設実習Ⅱ」が円滑かつ有意義に行われることを念頭に、実習の意義・目的の理解を深めることができる。	DP2	自己到達目標チェックリストの項目を、8割以上達成している。
2.	保育士の職業倫理を理解し、実習の心構えを形成することができる。	DP2	授業のノート記載、配布資料の管理を適切に行い、課題を期日までに提出できる。
3.	対象児(者)を考慮した指導計画の立案を行うことができる。	DP3	模擬保育の準備・発表が適切に行える。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について(評価方法および評価基準)	実習指導Ⅰ･Ⅱ･Ⅲのテキスト、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
2.	「施設実習Ⅱ」の意義と目的について	これまでの実習を振り返り、自己課題を設定しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
3.	児童福祉施設の理解（1） 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
4.	児童福祉施設の理解（2） 子どもの保育と保護者支援	配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
5.	個人指導面接（1）（心構え、自己課題について）	日誌など面接の準備を整えておく(30分)	面接で指導を受けたことについて復習する(30分)
6.	事前訪問(実習園でのオリエンテーション)	日誌を整え、質問内容などを準備しておく(30分)	事前訪問報告書にまとめ復習する(30分)
7.	指導計画立案トレーニング（1） 保育全体計画に基づく具体的な計画と実践	日誌、配布資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
8.	指導計画立案トレーニング（2） 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	日誌、配布資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
9.	個人指導面接（2）（事前準備状況確認）	日誌など面接の準備を整えておく(30分)	面接で指導を受けたことについて復習する(30分)
10.	保育の実践力の育成 保育の知識・技術を活かした保育実践	実践準備を行っておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
11.	実習施設について学ぶ（1） 実習合同協議会"	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習しておく(30分)
12.	実習施設について学ぶ（2） 学外講師(園長および保育者)による講演	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
13.	実習施設について学ぶ（3） 子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わり	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
14.	保育士の専門性と職業倫理	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
15.	事後指導における実習の総括と評価	日誌、配付資料に目を通しておく(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)

教科書	施設実習サブテキスト
参考書	実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのテキスト、社会養護のテキスト、配付資料など。
学習成果の評価方法	授業態度・課題提出(60%)、レポートなど(40%) 課題、レポートについては、解説を加えフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	欠席・遅刻・早退の連絡は、必ず本人が実習演習室に連絡してください。この科目の受講状況は、実習資格基準に関わります。 「幼児保育学科の学外実習に関する実習資格基準内規」をよく確認してください。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に各研究室にて受付します。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に各研究室にて受付します。

科　目	保育・教職実践演習（幼稚園）前期	開講時期 履修方法	２年前期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	教授　朝木　徹・准教授　元田　幸代・准教授　三好　伸幸・准教授　宮本　幸・専任講師　古林　ゆり・専任講師　志方　亮介	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	これまでの履修状況を踏まえ、保育者として必要な教育・保育に関する専門的知識・技能、教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得されたか、自らの学びを把握する。また、実習を通じた体験や収集した情報に基づき、教育・保育に関する現代的課題について分析し、その課題への対応として保育者・保育の現場・地域・社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。１年間を通して、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を目指す。少人数のゼミに分かれ、保育職の意義や役割、職務内容等について確認するとともに、子ども理解を深め、社会性や対人関係能力・指導力をグループワークや討論・実践等を通して高める。ゼミによっては学外活動のための交通費等が必要になる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育者として必要な教育・保育に関する専門的知識・技能、教養等の自らの習得状況を把握し、自己の課題を明確にする。	DP2	履修カルテを利用して自己の学びを振り返り、保育者として必要な専門的知識、技能、教養等について、自己分析することができる。
2.	保育者に必要とされる社会性や対人関係能力、指導力を高めることができる。	DP2,3	保育者に必要とされる社会性や対人関係能力、指導力をグループワークや現場での実践等で発揮できる。
3.	保育に関する現代的課題についての現状を分析し、多様な視点から考察することができる。	DP3	実習を通じた自らの体験やこれまでの学修より保育に関する現代的課題についての情報の収集を行い、分析、考察し、発表することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果について（評価方法及び評価の基準）　保育・教職実践演習(幼稚園)とは	シラバスを確認する（30分）	授業内容を復習する(30分)
2.	これまでの学修、実習を振り返り、履修カルテを用いた自己分析の実施	履修カルテを見返し、自己の学修、実習状況を確認する(30分)	自己分析を再確認する(30分)
3.	保育者に必要とされる知識・技能等について 実習の経験をもとに（グループディスカッション等）	実習日誌等を読み返してディスカッションの準備をする(30分)	ディスカッション内容を振り返る(30分)
4.	保育者に必要とされる知識・技能等について 文献をもとに（グループディスカッション等）	保育者に必要とされる知識・技能等について文献を準備する(30分)	ディスカッション内容を振り返る(30分)
5.	保育職の意義・役割・職務内容について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
6.	保育職の子どもに対する責任、倫理について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
7.	保育職の社会性について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
8.	保育職の対人関係能について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
9.	子ども理解と子どもの家庭の理解等について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
10.	保育者の連携、保護者や地域の関係者との連携について（グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
11.	保育や子育て家庭に対する支援の展開について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
12.	保育教材、保育内容等の指導力について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
13.	保育職に必要な資質・能力について （グループワーク、ロールプレイング、実践、調査等）	各ゼミにおける課題を進める（30分）	授業内容を振り返る（30分）
14.	保育に関わる現代的な課題について	前期の各自の課題を振り返る（30分）	各自の課題をまとめる（30分）
15.	まとめ	前期の内容を振り返る(30分)	後期に向けて取り組むべきことを明確にする（30分）

教科書	なし
参考書	幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）、保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府）
学習成果の評価方法	各教員による課題（100%） 課題は担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時の応答により行います。欠席・遅刻・早退等は、必ず本人が申し出てください。 ゼミによっては、学外で活動を行い、学外用の準備（服装など）や交通費等が必要になることがあります。
質問・相談等の受付	質問等がある場合は、第1回の授業時に伝達する各教員のオフィスアワー（各研究室前にも掲示）の時間帯に各研究室に来てください。

科　目	保育・教職実践演習（幼稚園）後期	開講時期 履修方法	２年後期 必修、教免必修、保育士必修
担当者	教授　朝木　徹・准教授　元田　幸代・准教授　三好　伸幸・准教授　宮本　幸・専任講師　古林　ゆり・専任講師　志方　亮介	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	これまでの履修状況を踏まえ、保育者として必要な教育・保育に関する専門的知識・技能、教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得されたか、自らの学びを把握する。また、実習を通じた体験や収集した情報に基づき、教育・保育に関する現代的課題について分析し、その課題への対応として保育者・保育の現場・地域・社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。１年間を通して、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を目指す。少人数のゼミに分かれ、保育職の意義や役割、職務内容等について確認するとともに、子ども理解を深め、社会性や対人関係能力・指導力をグループワークや討論・実践等を通して高める。ゼミによっては、学外活動のための交通費等が必要になる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育者として必要な教育・保育に関する専門的知識・技能、教養等の自らの習得状況を把握し、自己の課題を明確にする。	DP2	履修カルテを利用して自己の学びを振り返り、保育者として必要な専門的知識、技能、教養等について、自己分析することができる。
2.	保育者に必要とされる社会性や対人関係能力、指導力を高めることができる。	DP2,3	保育者に必要とされる社会性や対人関係能力、指導力をグループワークや現場での実践等で発揮できる。
3.	保育に関する現代的課題についての現状を分析し、多様な視点から考察することができる。	DP3	実習を通じた自らの体験やこれまでの学修より保育に関する現代的課題についての情報の収集を行い、分析、考察し、発表することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果について（評価方法及び評価の基準） 前期内容の振り返り、後期の進め方	前期の内容を確認する(30分)	授業内容を復習する(30分)
2.	2年前期までの実習、学修を踏まえ、履修カルテを用いた、自己分析、自己課題の明確化	履修カルテを見返し、自己の学修、実習状況を確認する(30分)	自己課題を再確認する(30分)
3.	保育の現代的課題（研究テーマ）について（研究計画）	前期内容を振り返り、後期の計画を立てる(30分)	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)
4.	保育の現代的課題（研究テーマ）について① 実践、調査、分析、レポート作成等	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)
5.	保育の現代的課題（研究テーマ）について② 実践、調査、分析、レポート作成等	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)
6.	保育の現代的課題（研究テーマ）について③ 実践、調査、分析、レポート作成等	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)
7.	保育の現代的課題（研究テーマ）について④ 実践、調査、分析、レポート作成等	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)
8.	保育の現代的課題（研究テーマ）について⑤ 実践、調査、分析、レポート作成等	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)
9.	保育の現代的課題（研究テーマ）について⑥ 実践、調査、分析、レポート作成等	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)
10.	ゼミ発表準備（原稿作成）	研究テーマについて計画に沿って研究を進める(30分)	発表に向けて準備を行う(30分)
11.	ゼミ発表準備（スライド等の作成）	発表に向けて準備を行う(30分)	発表に向けて準備を行う(30分)
12.	ゼミ発表準備（リハーサル）	発表に向けて準備を行う(30分)	発表に向けて準備を行う(30分)
13.	ゼミ発表	発表に向けて準備を行う(30分)	発表の結果を踏まえ、振り返りを行う(30分)
14.	ゼミ発表の振り返り	発表の結果を踏まえ、振り返りを行う(30分)	前期、後期を振り返る(30分)
15.	まとめ	前期、後期を振り返る(30分)	前期、後期を振り返る(30分)

教科書	なし
参考書	幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）、保育所保育指針（平成29年告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府）
学習成果の評価方法	各教員による課題（100%） 課題はフィードバック担当教員が確認した後、解説を加えてを行います。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時の応答により行います。欠席、遅刻、早退等は、必ず本人が申し出て下さい。 ゼミによっては、学外で活動を行い、学外用の準備（服装など）や交通費等が必要になることがあります。
質問・相談等の受付	質問等がある場合は、第1回の授業時に伝達する各教員のオフィスアワー（各研究室前にも掲示）の時間帯に各研究室に来てください。

科　目	キャリア形成演習	開講時期 履修方法	２年後期 必修、科目
担当者	教授　朝木　徹・准教授　元田　幸代・専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を養い、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力を育成すること、職に就いた後も自らのキャリアを発展させていくことができる能力を育てることを目的とします。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会的・職業的自立を目指し、自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力を高める。	DP2	学修・実習の振り返り、自己分析を行い、キャリアプランを検討、作成、説明することができる。
2.	社会人としての基礎的・汎用的能力として人間関係形成能力、課題発見・課題対応能力、企画力を高める。	DP2,3	グループ活動において協働して課題に取り組むことができる。また、合同協議会では1年生へ分かりやすく適切な情報伝達を行うことができる。
3.	自分の保育観(職業観)、働き方等を検討し、保育者(社会人)としての1年目の就業に向けての準備ができる。	DP2,3	自分の保育観(職業観)について自分の考えをまとめて説明できる。 就業に向けて具体的な準備を計画し、実践できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、学習成果について（評価方法および評価基準) キャリア形成における2年次教育実習の位置づけ	シラバスを確認し、教育実習日誌の準備をする(30分)	授業内容について復習する(30分)
2.	保育所実習Ⅱ、施設実習Ⅱの振り返りから自己理解を深め、キャリアプランニングに活用する	保育所実習Ⅱ、施設実習Ⅱ振り返りの準備を行う(30分)	授業内容について復習する(30分)
3.	教育実習の振り返りから自己理解を深め、キャリアプランニングに活用する	教育実習の振り返りの準備を行う(30分)	授業内容について復習する(30分)
4.	学修・実習の成果の再確認と自己分析、キャリアプランの作成（キャリアプランニングファイル、履修カルテ）	履修カルテ入力、キャリアプラン作成の準備(30分)	授業内容について復習する(30分)
5.	1年次保育実習の振り返りを行い、課題解決の視点を持って、1年生への情報の伝え方を検討する	保育実習日誌を読み返しておく(30分)	授業内容について復習する(30分)
6.	１年次保育実習の振り返りを、１年生に対して分かりやすく適切な情報伝達を行う（教育・保育実習合同協議会）	保育実習日誌を読み返しておく(30分)	授業内容について復習する(30分)
7.	学校から社会・職業への円滑な移行に向けて 人間関係形成能力	授業資料に目を通す(30分)	授業内容について復習する(30分)
8.	目指す保育者(社会人)像と自分の保育観(職業観) グループディスカッション、発表	授業資料に目を通す(30分)	授業内容について復習する(30分)
9.	保育所実習Ⅱ、施設実習Ⅱ、教育実習の振り返りから自己理解を深め、キャリアプランニングに活用する	授業資料に目を通す(30分)	授業内容について復習する(30分)
10.	施設実習の振り返りを、１年生に対して分かりやすく適切な情報伝達を行う（教育・保育実習合同協議会）	施設実習日誌を読み返しておく(30分)	授業内容について復習する(30分)
11.	学校から社会・職業への円滑な移行に向けて 自己管理能力	授業資料に目を通す(30分)	授業内容について復習する(30分)
12.	学校から社会・職業への円滑な移行に向けて 保育者の仕事	授業資料に目を通す(30分)	授業内容について復習する(30分)
13.	学校から社会・職業への円滑な移行に向けて １年目の保育者(社会人)に期待されること	授業資料に目を通す(30分)	授業内容について復習する(30分)
14.	各自の研究課題の発表 プレゼンテーション能力の向上	発表準備をする(30分)	授業内容について復習する(30分)
15.	まとめ	授業資料に目を通す(30分)	授業内容について復習する(30分)

教科書	なし
参考書	適宜紹介します。
学習成果の評価方法	課題・提出物(80%)、授業への参加姿勢（20%)、課題は担当教員が確認した後、解説を加えてフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時の着席状況で行います。遅刻、早退等等は、その日の授業時間内に各自が教員まで直接伝えに来てください。伝えに来なかった場合は欠席となります。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日15：45～16：45）に各研究室にて受け付けます。オフィスアワー時、会議等が入る場合もあります。その時は、授業担当者が研究室在室時（研究室前に掲示）に各研究室にて受け付けます。

科　目	乳幼児心理学	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	胎児期から老人期までのヒトの生涯発達において、乳幼児期は最も発達変化が大きく、その後の生涯の土台となる重要な時期である。また、保育において、乳幼児期の認知、社会性、身体・運動などの各発達と全体像を理解することは、子どもの姿を観るために欠かせない基礎知識と言える。本授業では、乳幼児の発達に関わる様々なテーマの代表的研究や最新の研究の学術論文を読み解くことで、保育者に求められる専門的知識の習得と知識に根ざした保育のあり方を考えることを目標とする。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児研究で用いられる手法や尺度について、それぞれの特徴について理解できる。	DP1	定期試験で、乳幼児研究で用いられる手法や尺度について解答できる。
2.	乳幼児期の発達における認知や社会性など各テーマにおける代表的研究や最新の研究の知見について理解できる。	DP2	定期試験で、認知や社会性など各テーマにおける代表的研究や最新の研究の知見について解答したり、記述することができる。
3.	乳幼児発達の基礎知識と保育技術を関連づけ、基礎と実践の視点から子どもの発達と保育を考えることができる。	DP2	定期試験で、乳幼児期の発達に関する基礎知識やそれに基づく保育、子どもへの関わりについて解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：学習成果や授業の目的、評価の基準などについて	シラバスで授業概要を把握しておく（1時間）	授業目的や到達目標を振り返り、2回目以降の授業に備える（30分間）
2.	データの尺度・研究方法の種類について	関連する資料や用語等を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
3.	乳幼児研究に用いられる研究手法について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
4.	他者理解の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
5.	実行機能の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
6.	顔処理の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
7.	感情推論の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
8.	聴覚・視覚の認知処理の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
9.	社会的規範の認知の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
10.	言語能力の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
11.	嘘の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
12.	自己の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
13.	泣きの発達・泣きと親の関係について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
14.	運動の発達（原始反射・反応・ハンドスキル)の発達について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理を行い、単元の理解を深める（1時間）
15.	授業の振り返り・まとめ	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語を本やネットを用いて調べる（30分）	これまでの授業内容を振り返り、定期試験に向けての準備をする（3時間）

教科書	特になし。毎回、授業資料を配布する。
参考書	特になし。
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、授業内課題　（15%）、授業への取り組み(15%) 授業内課題へのフィードバックは、次回の授業にて実施する。
特記すべき事　　項	出席は、授業の開始時に点呼により確認する。授業開始（出席確認後）から15分までの出席を「遅刻」とし、それ以降は「欠席」とする。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
質問･相談等の受付	質問・相談等の対応は以下の通りとする。 (1) 授業終了後、授業教室にて受けつける。(2) オフィスアワー(木曜日14：50 ～16：20）の時間内に、研究室にて受けつける。

科　目	対人コミュニケーション	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	専任講師　新田　博司	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「コミュニケーション」について考える時、私たちは「コミュニケーションが得意・苦手」や「良い・悪いコミュニケーション」というように自分の感情や評価でコミュニケーションをとらえることがある。このような主観的な感情・評価は、時に思い込みや苦手意識につながることもある。また、保育の現場をはじめ、仕事のなかで行うコミュニケーションには、冷静で客観的な知識や技術も求められる。本科目ではコミュニケーションや対人関係を社会心理学の枠組みから「知識」として見直すことで、自分自身のコミュニケーションのあり方を理解することを目指す。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	社会心理学に関わる現象や理論を学び、それらの知識を対人コミュニケーションと関連づけることができる。	DP3	レポートにおいて、講義で学んだ知識について、対人コミュニケーションと関連づけて記述することができる。
2.	多様な状況におけるコミュニケーションを学び、自分自身の行動や考えに活かすことができる。	DP3	レポートにおいて、講義で学んだ知識をもとづいて様々な文脈でのコミュニケーションについて説明することができる。
3.	他者と円滑にコミュニケーションをとるための技術や姿勢を意識することができる。	DP3	レポートにおいて、講義で学んだ知識に触れながら自分自身のコミュニケーションのあり方について記述することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：学習成果や授業の目的、評価の基準など	シラバスで授業概要を把握しておく（30分）	授業目的や到達目標を確認する（30分）
2.	コミュニケーションについて	関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
3.	語用論の理論について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
4.	関連性理論１：定義と関連用語について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
5.	関連性理論2：事例の検討	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
6.	比喩・ポライトネス・アイロニーについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
7.	非言語的・言語的コミュニケーションについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
8.	態度と説得について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
9.	自己に関わる概念と理論について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
10.	対人魅力について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
11.	集団の特徴と集団に関わる現象について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
12.	内集団・外集団について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
13.	偏見・差別について	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
14.	文化とコミュニケーションについて	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	用語や授業内容の整理をし、疑問や感想をまとめる（30分）
15.	授業の振り返り・まとめ	前回の授業内容の振り返りと、関連する資料や用語について本やネットを用いて調べる（30分）	これまでの授業内容を振り返り、最終レポートに向けての準備をする（2時間）

教科書	特になし。毎回、授業資料を配布する。
参考書	(1) 池田謙一 他 (2019) 「社会心理学 補訂版」 有斐閣； (2) 今田邦彦 他 (2021) 「用論のすべて」 開拓者； (3) 小泉保 (2001) 「入門語用論研究」 研究社
学習成果の評価方法	最終レポート（70%）、授業内課題　(15%)、授業への取り組み(15%) 授業内課題へのフィードバックは、次回の授業にて実施する。
特記すべき事　　項	出席は、授業の開始時に点呼により確認する。授業開始（出席確認後）から15分までの出席を「遅刻」とし、それ以降は「欠席」とする。遅刻・早退等はその日の授業時間内に本人が直接申し出ること。
質問・相談等の受付	質問・相談等の対応は以下の通りとする。 (1) 授業終了後、授業教室にて受けつける。(2) オフィスアワー(木曜日14：50 ～16：20) の時間内に、研究室にて受けつける。

科　目	乳児保育指導技術	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修
担当者	講師　日野　多賀美	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	乳児保育Ⅱの学びを基礎に、さらに乳児保育の重要性を認識し、実践に活かすための理論と技術を総合的に学ぶ。赤ちゃんは何もできないではなく「有能な存在」だという考え方を基本に一人ひとりの行動の読み取りとかかわりを学ぶ。非認知能力の育ちにつなげる保育の中のアタッチメントと愛着の技術を学ぶ。子どもの興味・関心に応じた環境の提供により子ども主体の学びにつなげる保育の技術を学ぶ。保護者の子育てパートナーとしての保育士の役割を考察する。家庭と園更に地域との連携の中で子どもを育てる技術を学ぶ。子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育の専門性について学ぶ。アクティブラーニングの手法の「デイスカッション」「プレゼンテーション」を用いて保育士としての実務経験から実践に則した授業を行う		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳児保育の基本を踏まえたうえで、実践に結びつけることができるように専門的技術を高める。	DP2	乳児保育の基礎や重要性を理解し、乳児の発達を踏まえた子どもの見方や成長の道筋を見通す力をつけ、考えたことを表現したり、発表することができる。
2.	子どもの姿を通して、子ども理解を深め、しなやかにていねいにかかわる資質能力を身につける。	DP３	子どもを取り巻く様々な環境に関心をもち、乳児の発達を促す遊びや環境の整え方やかかわり方について表現したものを評価する。
3.	子どもの実態に即した課題をさぐり、ねらい及び内容を計画し、保育の質を高める実践の技術を身につける。	DP３	子どもの実態に即した課題をさぐり、受容的・応答的なかかわりを考察し、主体的に保育に臨もうとする意欲を演習やレポート等を通して評価する。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（授業内容、授業の進め方） 乳児保育の意義と目的 学習成果について（評価方法及び評価基準）	乳児の基本p8～p41を読む （30分）	乳児保育の現状を知り役割と機能をさぐる（30分）
2.	乳児の生活　～保育のねらいと内容～ アタッチメントと非認知能力	乳児の基本p42～p71を読む （30分）	配布プリントを読み考えをまとめる（30分）
3.	乳児の基本　受容的・応答的かかわり ～乳児の主体性を尊重した生活と遊び～	乳児の基本p88～p114 、ていねいな保育ｐ153～p155を読む（30分）	配布プリントを読み考えをまとめる（30分）
4.	乳児の生活や遊びを通しての保育とその環境 ～食事・アレルギー～	ていねいな保育p46～p51を読む （30分）	乳児の食事についてわかったことを整理する（30分）
5.	乳児の生活や遊びを通しての保育とその環境 ～排泄・環境～	乳児の基本p150～p193読む （30分）	乳児の排せつ環境について分かったことを整理する（30分）
6.	乳児の生活や遊びを通しての保育とその環境 ～生活リズム・睡眠・清潔～	乳児の基本p122～p193、を読む （30分）	乳児の生活リズムについて分かったことを整理する（30分）
7.	乳児の発育発達を踏まえた生活と遊びの実際 ～保育室の環境づくりと一日のながれ～	乳児の基本p194～p225を読む （30分）	保育室の環境と子どもの育ちについて分かったことを整理する （30分）
8.	保育の全体的な計画と指導計画の実際 ～PDCAサイクルの重要性～	乳児の基本p226～p252　ていねいな保育p137～p143を読む　（30分）	配布プリントを読み考えをまとめる（30分）
9.	乳児の遊び、受容的・応答的なかかわり ～ていねいな保育の園外・園庭遊び～	ていねいな保育p61～p101を読む （30分）	園外・園庭遊びについて気づいたことをまとめる（30分）
10.	乳児の遊び、受容的・応答的なかかわり ～ていねいな保育の室内遊び～	ていねいな保育p102～p129を読む （30分）	室内環境について考える（30分）
11.	協働の中の保育の実際 ～保護者支援と職員間の連動、行事～	乳児の基本p72～p86ていねいな保育p152～p158を読む（30分）	配布プリントを読み考えをまとめる（30分）
12.	協働の中の保育の実際 ～家庭支援・連絡帳・ドキュメンテーション・医療～	乳児の保育p72～p86）ていねいな保育p144～p149を読む　（30分）	配布プリントを読み考えをまとめる（30分）
13.	乳児の遊び　受容的・応答的なかかわり ～保育者の専門性について～	乳児の基本p13～p29を読む （30分）	配布プリントを読み考えをまとめる（30分）
14.	ていねいな保育の基本 ～園舎の環境、かみつき、ひっかきの対応～	ていねいな保育p13～p29を読む （30分）	具体的な対応について考える （３0分）
15.	子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育の専門性について、まとめ	乳児の基本p2～p8を読む　（30分）	目指す乳児保育について考える （30分）

教科書	阿部和子　著　「乳児保育の基本」　萌文書林 大豆生田啓友　おおえだけいこ　著　「日本が誇る！ていねいな保育」　小学館
参考書	井桁容子　著「子ども主体で考える　かみつき・ひっかき」学研 岩城敏之　著「主体性を育む保育」三学出版　等
学習成果の評価方法	ペーパーテスト（60%）レポート・演習に対する思考力・判断力・表現力・学ぶ意欲（40%）で総合評価する。 レポートについては次の授業で解説を加えフィードバックする。
特記すべき事　　項	各回の出席は授業開始時の応答又は、課題提出等により確認する。 遅刻した際は、授業終了後に担当教員に申し出ること。
質問･相談等の受付	質問、相談がある場合は、授業の前後に教室または、非常勤講師室にて対応する。

科　目	障害児保育指導技術	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修、こども音楽選択必修
担当者	講師　永野　淳子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	現在はインクルーシブな社会の構築が求められており、社会全体の障害に対する認識、価値観が変化し始めている。そういった社会のニーズに応じて、保育の領域では一人一人の子どもに合わせたきめ細やかなまなざしによる障害の早期発見、早期介入、保護者に対する支援がより一層求められている。本授業では、長期的な視点を持ちつつも具体的な支援については乳幼児期に絞り、実践的な保育場面で、どのような視点で子どもを観察し、理解し、支援し、保護者とどうやり取りするかについて、学生自身が問題意識を持ち、主体的に学習していくことを求める。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育場面で出会う様々な障害の子どもの具体的な状態像と、障害特性との関係を理解する。	DP1	さまざまな障害特性について、小テストやレポートにおいて、6割以上解答できる。
2.	様々な障害の子どもの特性と、長期的に何を育てていく必要があるのかという視点で指導方法を検討できるようになる。	DP1 DP3	子どもの行動から特性を理解し、それに応じた適切な指導方法をレポートにおいて6割以上解答できる。
3.	障害のある子どもをもつ家族について理解できるようになり、その支援方法について検討できるようになる。	DP1 DP3	様々な事例の家族のサポートについてレポートにおいて丁寧なわかりやすい文章で6割以上解答できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：授業方針と学習成果について（評価方法および評価基準）	「子ども家庭福祉」で習った児童福祉法の第1、２章や合理的配慮について復習する（30分）	合理的配慮の例をインターネットなどメディアで確認する。（30分）
2.	障害児保育とは 理念・子ども理解・合理的配慮・保育士の役割	教科書第1章に目を通しておく（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
3.	障害の理解と援助の基本 知的発達症の理解	教科書第2章に目を通しておく(30分)	授業の復習と疑問点の整理(30分)
4.	知的発達症のへの理解と支援	教科書第2章に目を通しておく(30分)	授業の復習と疑問点の整理(30分)
5.	自閉スペクトラム症・注意欠陥多動症の理解	自閉スペクトラム症・注意欠陥多動症の定義について調べる。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
6.	自閉スペクトラム症・注意欠陥多動症への理解と支援 ①基本	自閉スペクトラム症・注意欠陥多動症によりどのように困るかを洗い出しておく。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
7.	自閉スペクトラム症・注意欠陥多動症への理解と支援 ①応用	自閉スペクトラム症・注意欠陥多動症と周囲との関係について考える。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
8.	限局性学習症の理解	限局性学習症の種類を調べておく。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
9.	限局性学習症の理解と支援	限局性学習症があるとどのように困るか、種別ごとに調べ考察する。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
10.	視覚障害の理解と支援	視覚障害があるとどのように困るのか調べ、考察する。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
11.	聴覚障害の理解と支援	聴覚障害があるとどのように困るのか調べ、考察する。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
12.	肢体不自由児の理解と支援	身体障害があるとどのように困るのか調べ、考察する。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
13.	病弱の子どもの理解と支援	入退院を繰り返すと子どもにどのような影響があるか、考察する。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
14.	障害と向き合う家族の理解と支援	教科書第5章に目を通しておく。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)
15.	実践事例検討・全体のまとめ	これまでの授業資料と教科書を見ながら振り返っておく。（30分）	授業の復習と疑問点の整理(30分)

教科書	若月芳浩・宇田川久美子編著「新しい保育口座⑭障害児保育」ミネルヴァ書房
参考書	田中康雄監修「イラスト図解　発達障害の子どものこころと行動がわかる本」西東社
学習成果の評価方法	最終レポート課題(60%)　授業内小テスト・ミニレポート(40%)　授業内小テスト・ミニレポートについては後日授業で解説とフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	毎回の出席は授業開始時の応答および小レポートやミニレポートより確認します。遅刻した際は、到着後すぐに担当教員に申し出てください。その時の申し出がない場合は時間を確認できないため欠席扱いとなります。早退も必ず申し出てください。
質問・相談等の受付	ミニレポートに記載したものについては次の授業で回答します。また、授業終了後の教室でも受け付けます。

科　目	保育実践と評価・記録	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修
担当者	専任講師　井手　裕子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	教育・保育家庭に基づく長期・短期指導計画を立案し、幼稚園、保育所での保育実践後、子ども達一人一人の成長発達の個人記録をとり、次の指導計画及び指導技術に活かすためにPDCAサイクルの重要性を理解する。また、具体的な乳幼児指導要録・保育所児童保育要録の目的・内容について理解し、記述の方法を学習する。この授業は、認定こども園での実務経験のある教員が、その経験を活かし、実践を踏まえながら授業を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児の発達段階を理解し、具体的に説明できる	DP2,3	各年齢別の大まかな発達段階を掴んでいて、乳幼児の特性を話すことができる
2.	保育現場での（保育）実践の見通しを持つことができる	DP2,3	科目学習や実習を通して、実際の保育実践の難しさ、楽しさなどを積極的に理解しようとする
3.	実践記録に関する基礎知識を習得する	DP2,3	記録する時のポイントが分かり、実際に活用できる

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果（評価方法・評価基準）について	シラバスを読み、授業目標について理解する（30分）	学習の目的を確認する（30分）
2.	0歳児の保育実践	0歳児について予備知識を得ておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
3.	1歳児の保育実践	1歳児について予備知識を得ておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
4.	2歳児の保育実践	2歳児について予備知識を得ておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
5.	3歳児の保育実践	3歳児について予備知識を得ておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
6.	4歳児の保育実践	4歳児について予備知識を得ておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
7.	5歳児の保育実践	5歳児について予備知識を得ておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
8.	1年間の指導計画作成	年間指導計画とはどういうものかを調べておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
9.	1年間の指導計画作成	グループで作成していくことの意義を深める（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
10.	0歳児の指導計画作成	0歳児の指導計画とはどういうものかを調べておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
11.	0歳児の指導計画作成	グループで作成していくことの意義を深める（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
12.	1,2歳児または3,4,5歳児の指導計画作成	月・週・日案とはどういうものかを調べておく（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
13.	1,2歳児または3,4,5歳児の指導計画作成	グループで作成していくことの意義を深める（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
14.	1,2歳児または3,4,5歳児の指導計画作成	グループで作成していくことの意義を深める（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
15.	まとめ	全授業を振り返り、ノートをまとめる（30分）	全授業のまとめを踏まえてレポートを作成する（30分）

教科書	幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示　文部科学省）、保育所保育指針解説（平成29年3月告示　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年3月告示　内閣府）
参考書	授業中適宜紹介する
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（20%）、提出物（40%）、課題レポート（40%） 提出物・レポートについては次回、解説を加えフィードバックします
特記すべき事　項	出席は授業開始時の応答により行います。遅刻、早退はその時間内に必ず本人が申し出てください
質問・相談等の受付	質問・相談がある際は、オフィスアワー(火曜日、14:50～17:00　※会議で不在の時もあります）に担当教員の114研究室に来てください

科　目	うたと簡易伴奏	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修、こども音楽選択必修
担当者	専任講師　四童子　薫	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの歌の弾き歌いができるように、ピアノ等の鍵盤楽器によるコード奏法を中心に学びを深める。保育においては、ピアノが弾けるということだけではなく、子どもの音楽表現を支えることが求められ、子どもの音楽の世界に気づき、受け止め、共感し、励まし、子どもと一緒に音楽を創る気持ちが大切となる。そのため本授業では、ピアノを弾きながら子どもの気持ちや表情に気づくこと、あるいは言葉かけをしたり、歌詞を伝えたり、合図を送ったりすることができるよう、グループ活動を通して弾き歌いの力を高めることを目的とする。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	英語音名、コードネームを理解し、子どもの歌の弾き歌いができる。	DP1	英語音名やコードネームを理解し、コード譜をみながら子どもの歌の弾き歌いができる。
2.	前奏、伴奏を工夫し、言葉かけをしながら弾き歌いができる。	DP1	2～4小節の前奏をつけ、伴奏形を工夫して弾き歌いができる。また、歌い出しの合図を出し、曲の雰囲気に合った歌い方を伝えることができる。
3.	一定のテンポ（速さ）で弾き歌いをすることができる。自分や他者の歌声に合わせて伴奏の強さを調整できる。	DP1,3	グループでお互いに演奏を聴き合ったり、伴奏の強さを調整し、一定のテンポで演奏したりして、協力しながら弾き歌いの技術を高めることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法および評価基準）	1年時のピアノ授業の復習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
2.	英語音名、日本音名 コードネームから和音を考える	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
3.	ハ長調の3コード 前奏の付け方、歌いだしの合図	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
4.	小テスト①（英語音名、日本音名の確認、コードネームの基礎） 付点リズムを含む楽曲を演奏するポイント	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
5.	メジャーコードとマイナーコードの響きの違い	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
6.	メジャーコードとマイナーコードの関係性	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
7.	伴奏のアレンジについて	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
8.	中間発表会 コード譜による伴奏を用いた弾き歌いの発表	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
9.	和音の転回形とコードネームの表記	実技の小テストに向けてピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
10.	ハ長調・ヘ長調・ト長調の3コード	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
11.	ニ長調の3コード	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
12.	小テスト②（メジャーコードとマイナーコード、転回形） 和音記号とコードネームの関連	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
13.	最終テスト（実技）に向けての説明 移調について	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
14.	アウフタクトと歌いだしの合図について	進度に合わせたピアノの練習をする（30分）	本時の内容について復習する（30分）
15.	実技テスト コードによる伴奏を用いた弾き歌いの発表	これまでの内容を復習し、実技試験に備える（30分）	本授業全体の振り返りをする（30分）

教科書	1年時のピアノのテキスト「歌って弾いて楽しく学ぶ　保育者のためのピアノレッスン」および適宜配布する楽譜を持参すること。
参考書	植田光子編著「手あそび百科」ひかりのくに
学習成果の評価方法	授業時の取り組み（30%）、音楽理論に関する小テスト（20%）、中間発表会および実技テスト（50%）にて総合的に評価する。 音楽理論に関する小テストについては、次回解説を加えフィードバックを行う。
特記すべき事　　項	出席は授業の開始時と終了時に確認をする。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。弾き歌いの技術向上に向けて、授業内の練習時間だけでは上達は難しい。授業前の予習および授業後の復習が非常に重要な科目である。
質問・相談等の受付	授業前・授業後にて教室で受け付ける。もしくはオフィスアワー（月曜日14:50～17:00）に研究室にて受け付ける。

科　目	アンサンブル	開講時期 履修方法	２年後期 選択、こども音楽選択必修、保育士選択必修
担当者	准教授　宮本　幸・講師　遠江　亮子・講師　鈴木　徹平	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	アンサンブルは、ピアノ、打楽器、トーンチャイム、ミュージックベル、和太鼓など様々な楽器の演奏とアンサンブル体験を通して、保育者として必要な総合的な音楽表現力や指導力を高めることが目標である。そのために、初回のオリエンテーションで2グループの編成を行い、「鍵盤楽器などの合奏」、外部講師による「和太鼓」の講義・実演を2回行った後、「打楽器や弦楽器などの合奏」を5回の授業内容で、「歌唱、ミュージックベル、トーンチャイムなどの合奏」を7回の授業内容でローテーションを組んで行う。それぞれの楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を身に付けるとともに、音に耳を傾け仲間と一緒に演奏する楽しさを共有できるようにする。グループワークを主とし、発表準備として演奏動画の提出など、ICT教育を活用した双方向授業も行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	保育現場で使用される様々な楽器の基礎的な演奏ができる。	DP1	演奏に必要な音楽知識や楽器の基礎的な演奏技術を身に付け、演奏することができる。
2.	鍵盤楽器での演奏力を高め、連弾、合奏などのレパートリーを拡げる。	DP3	子どもの歌の弾き歌い、連弾や合奏など、取り組んだ曲を表情豊かに演奏することができる。
3.	グループで協力し、様々な楽器によるアンサンブルができる。	DP3	楽器の特性や奏法を理解し、仲間と一緒に協力しながら演奏することができる。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
1. オリエンテーション 授業の進め方：授業内容とローテーション、グループ編成 学習成果について(評価方法および評価基準)	アンサンブルについて基礎知識を調べておく(30分) 鍵盤楽器の基礎練習をしておく(30分) 発表の準備(30分)	演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 発表の振返り(30分)
【鍵盤楽器などの授業内容】 1. 選曲と演奏：連弾、弾き歌い 2. 発表とまとめ		
【和太鼓の授業内容】 2. 外部講師による実演／基本奏法の学び、選曲と演奏など 3. 発表とまとめ	和太鼓について基礎知識を調べ、基本奏法、演奏曲の練習(30分) 発表の準備(30分)	演奏曲の練習(1時間) 和太鼓についての振返りを行う(30分)
【打楽器、弦楽器などの授業内容】 4. アンサンブルとは 5. 楽器の特徴と奏法：打楽器、弦楽器などの楽器について知る 6. 選曲と演奏：リズム奏など 7. 選曲と演奏：子どもの歌など 8. 発表とまとめ	打楽器、弦楽器について基礎知識を調べておく(1時間) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 発表の準備(30分)	演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 全体の振返り(30分)
【歌唱、ミュージックベル、トーンチャイムなどの合奏の授業内容】 9. アンサンブルの多様性について 10. 楽器の特徴と奏法：ミュージックベル、トーンチャイムなどの楽器について知る 11. リズム奏：リズム譜、リズムアンサンブルなど 12. メロディ奏：選曲、編曲など 13. ハーモニー奏：実際の演奏技術 14. 発表の準備 15. 発表とまとめ	様座な楽器について基礎知識を調べておく(1時間) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 発表の準備(30分)	演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 演奏曲の練習(30分) 全体の振返り(30分)

教科書	鍵盤楽器については、１年次の教科書および各自の選曲に応じた楽譜を持参すること。
参考書	大石由紀子編曲「ベルのための J-POP １・２」サーベル社、日本ミュージックベル協会編 「ミュージックベルの奏法と楽典　初級編・中級編」全音楽譜出版社など
学習成果の評価方法	授業時の取組み（60%）、演奏内容（40%）により担当者の合議で総合的に評価する。 フィードバックは、授業時に適宜行う。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時と終了時に行う。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。 授業時の取組み評価の配点が高いので、欠席等がないように心がけること。
質問・相談等の受付	質問、相談等があるときは、授業の前後の教室もしくはオフィスアワー（火曜日14：50～16：20）に研究室にて受け付ける。

科　目	子どものあそび文化	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修
担当者	講師　豊永　智恵子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもが子どもとして健やかにのびのびと生きていくにはあそびが不可欠です。 そのあそびを通して、子どもの成長・発達を学ぶと共に、そこに関わる大人（保育士）はどんな手だてが必要なのか、大事なことは何なのかを実践やディスカッションの中で考え合っていきます。 この授業は、現役保育士が現場での経験を活かし実践に即した授業を行います。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子どもにとってのあそびの意義や魅力を理解し、あそびを工夫することができるようになる。	DP2,3	あそびを見る視点・子どもを見る視点などの学びやあそびの大切さをわかりやすい文章でまとめられている。
2.	あそびを体験する中で、子どもの姿に合わせて展開していくことの重要性を理解する。	DP2,3	グループであそびの計画・実践・振り返りを行う。保育者としての気づきを次回に活かせるように可視化・言語化することができる。
3.	あそびの計画や実践について、グループで協力して行う。	DP2,3	グループワーク及び発表により学習成果の評価を行なう。互いに仕事を分担しながら進める中で、目標達成に向けて協力できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法及び評価基準）	シラバス確認（30分）	講義を振り返る（30分）
2.	あそびの指導について考える	あそびとは何か考えておく（30分）	講義を振り返る（30分）
3.	子どもの様子を見る	子どもを見るとはどういうことなのか調べておく（30分）	子どもを見る視点をまとめる（30分）
4.	触れ合いあそび、ゆさぶりあそびについて	触れ合いあそびや揺さぶりあそびについて調べる（30分）	年齢によるあそび方の違いなどをまとめる（30分）
5.	実践・振り返り	実践の準備をする（30分）	実践後の気づきなどをまとめる（30分）
6.	みたてつもりあそび、ごっこあそびについて	ごっこあそびなどについて調べる（30分）	年齢によるあそび方の違いなどをまとめる（30分）
7.	実践・振り返り	実践の準備をする（30分）	実践後の気づきなどをまとめる（30分）
8.	ルールのあるあそびについて	ルールのあるあそびなどについて調べる（30分）	年齢によるあそび方の違いなどをまとめる（30分）
9.	実践・振り返り	実践の準備をする（30分）	実践後の気づきなどをまとめる（30分）
10.	わらべうた・伝承あそびについて	わらべうた・伝承あそびなどについて調べる（30分）	年齢によるあそび方の違いなどをまとめる（30分）
11.	実践・振り返り	実践の準備をする（30分）	実践後の気づきなどをまとめる（30分）
12.	自然物を利用したあそびについて	自然物を利用するについて調べる（30分）	年齢によるあそび方の違いなどをまとめる（30分）
13.	実践・振り返り	実践の準備をする（30分）	実践後の気づきなどをまとめる（30分）
14.	あそびを伝えることとは	保護者にどう伝えるのか考える（30分）	どのような方法があったのかをまとめる（30分）
15.	まとめ・レポート	これまでの学びや気づいたことなどをまとめておく（30分）	講義全体を振り返る（30分）

教科書	特になし
参考書	配布プリント
学習成果の評価方法	参加姿勢（20%）・振り返りシート（20%）・提出課題レポート（20%）・実践発表（40%） 振り返りシート等はフィードバックしたうえで返却します。
特記すべき事　　項	出席は授業開始時の応答によって確認します。遅刻・早退等は、その日の授業時間内に本人が直接申し出てください。 授業中、授業と関係ないことはしないでください。
質問・相談等の受付	質問などがあれば、授業後に声をかけてください。

科　目	子どもと造形	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	講師　楢﨑　雅	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	この授業は、幼保連携型認定こども園における保育実践に現在携わっており20年以上の実務経験のある教員が、その実務経験を活かし実践に即した授業を行い、保育者にとって必要な乳幼児期の造形に関する意識をより深めることを目指します。実践の場における様々なデータを使用し、実践の場ならではのいろいろなエピソードや実践の場での子どもの姿の画像やデータなどを交え、実践に対するイメージを深めたり、実践に活かせる考え方やスキルを身につけられるような授業内容を予定しています。グループワークを主軸に子どもを主体とした造形活動に関してディスカッションや相互プレゼンテーションを行います。学生負担の費用の発生はありません。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	乳幼児の発達に応じた造形活動を理解し、実践できる。	DP2,3	課題に意欲的に取り組み、自分なりの楽しみを見つけ出す姿を評価します。
2.	子どもの自発的かつ主体的な造形活動を理解し、保育における造形表現の意義を理解する。	DP2,3	グループワークおよび発表により、学習成果の評価を行います。自発性や主体性の理解度や違う感性をまとめる力を評価します。
3.	チームとして保育にあたる重要性を理解し、実践できる。	DP3	レポートにより、学習成果の評価を行います。画像等を利用し、論理的でわかりやすい構成で作成されているかどうかを評価します。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果について（評価方法および評価基準）	授業計画を確認しておく（30分）	学習の目標を確認する（30分）
2.	感性の違いを知る 好きな造形物のデータを持ち寄りグループ討議	好きな造形物を探し、データまたは印刷物で準備する（30分）	グループで出た意見を振り返る（30分）
3.	乳幼児の発達と自発的かつ主体的な造形活動 実践の場における子どもの姿を知る・グループ討議	1年生の時に学んだことを振り返っておく（30分）	子どもの発達の状況による表現の違いを振り返る（30分）
4.	発達に課題がある子どもの造形活動 実践の場における子どもの姿を知る・グループ討議	発達障害含む子どもの障害について調べておく（30分）	子どもの発達状況による表現の違いを振り返る（30分）
5.	テーマからイメージして造形物で表現する① 各自のメモをもちよりグループ討議	「植物」「動物」「食べ物」からイメージしたことをメモしておく（60分）	グループで出たイメージを共有しておく（30分）
6.	テーマからイメージして造形物で表現する② どのように造形物で表現するかグループ討議	各自の意見をもとにできる造形物をイメージしておく（60分）	必要な用具や素材を確認し、グループで共有しておく（30分）
7.	テーマからイメージして造形物で表現する③ 協議した内容をもとにグループで造形物をつくる	必要な用具や素材を準備し、自身の役割を確認しておく（30分）	各グループの造形物を振り返る（30分）
8.	STEAMと造形表現のつながりを知る 身の回りのSTEAMにつながることをグループ討議	STEAMが何かを調べておく（30分）	授業で出たキーワードを振り返る（30分）
9.	造形物で表現してみる グループ内で相互プレゼン	無地の白画用紙1枚で表現できることを考えておく（30分）	他者の表現を振り返る（30分）
10.	他者の造形物から感じたことを次へつなげる 造形物を使ってできるあそびのアイデアを出し合う	各自の造形物から得た感覚やイメージできるあそびをメモしておく（30分）	あそびの連続性を理解する（30分）
11.	子どもの姿からつなげる① 実践の場のデータをもとにグループ討議	実践の場へのイメージをふくらませておく（30分）	実践の場への疑問を考えておく（30分）
12.	子どもの姿からつなげる② 実践の場のデータをもとにグループ討議	実践の場への疑問や質問をメモしておく（30分）	実践の場へのイメージを深くする（30分）
13.	造形活動と記録において得意なことを持ち寄る 得意なことを持ち寄ってグループ討議	造形活動において自分が得意とするところを考えておく。10の姿を調べておく。（30分）	チームワークの重要性を理解する（30分）
14.	チームによる造形活動の記録（10の姿を切り口として記録作成） グループ内で役割分担し、レポート作成の準備をする	レポート作成にあたっての自身の役割と論理的な記録について考えておく（30分）	レポート完成までの時間の見通しをたてておく（30分）
15.	グループによるレポート作成と相互プレゼン	レポートに使用するデータや素材を準備しておく（30分）	他グループのレポートを振り返り、学びを深める（30分）

教科書	深谷ベルタ　著　　「“体験”が感性を育む　造形あそび」　風鳴舎　※授業時に別途プリントの配布あり
参考書	樋口　一成　編著　　「幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材」　萌文書林　　※1年生時の教科書です
学習成果の評価方法	課題に対する意欲（４０％）　グループ活動の取組状況（３０％）　レポート（３０％） 最終レポートは評価の上、最終授業時にフィードバックします。
特記すべき事　　項	写真撮影や用語検索、レポート作成等でスマートフォン等を使用してもらいます。充電して授業に参加するようにしてください。出席確認は授業開始時に点呼により行います。欠席、遅刻、早退は、授業の進行を妨げないタイミングで理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問や相談は、授業前後やメール、LINEなどで応じます。また、質問カードを準備しますので必要に応じて記入の上提出してもらえれば、次の授業時に授業内容に組み入れます。

科　目	子どもと文学	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修
担当者	講師　大谷　朝	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	幼い子どもは、絵本を聞くとき、お話を聞くとき、どのような体験をしているだろうか。保育者として、言葉で表現された芸術としての文学が子どもにどのような意義をもつかを理解することは、言葉を育む保育において大変重要である。 「子どもと文学」では、実際に子どもが楽しんできた文学として、絵本や昔話、創作幼年物語を取り上げ、その作品を実際に読み、子どもが楽しむ文学の特徴を検討する。また、文学を子どもと分かち合う方法として、ストーリーテリングを取り上げ、実習を行う。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子どもにとっての文学の意義を理解することができる。	DP3	子どもにとっての文学の意義について考察を深め、最終レポートにおいて自らの考えをまとめることができる。
2.	子どもが楽しむ文学の特徴を把握し、保育者として絵本や昔話、幼年物語の評価・選択ができる。	DP2	子どもが楽しむ文学の特徴を理解し、年齢に配慮した選択が行え、その楽しみについて発表することができる。
3.	ストーリーテリングの基礎知識・技術を習得し、実践することができる。	DP1	ストーリーテリングの技術を身につけ、お話を選択し、語る練習を行った上で発表することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション　学習成果について（評価方法及び評価の基準）	シラバスを読み、授業目標について理解する（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
2.	子どもの文学体験の実際　子どもは物語を聞くとき何を体験しているか	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
3.	子どもが楽しむ物語の「構造」　「行きて帰りし」物語	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
4.	子どもが楽しむ物語の「構成」と「言葉」　伝承文学としての昔 話の特徴	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
5.	子どもが楽しむ物語の「考え」　昔話の結末における満足感	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
6.	子どもの文学としての絵本　絵がもたらす物語性の比較	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
7.	子どもと分かち合う幼年文学（1）詩	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
8.	子どもと分かち合う幼年文学（2）ストーリーとファンタジー	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	授業内容について振り返り、ノートをまとめる（30分）
9.	ストーリーテリングの実践に向けて　物語の選択とおぼえ方、語り方	授業テーマについて参考書を読み関連の書籍を調べる（30分）	グループ発表の準備を行う（30分）
10.	子どもが楽しむ文学について　グループ発表（1）昔話	グループ発表の準備を行う（30分）	発表の振り返りを行い、ノートにまとめる（30分）
11.	子どもが楽しむ文学について　グループ発表（2）幼年文学	グループ発表の準備を行う（30分）	発表の振り返りを行い、ノートにまとめる（30分）
12.	ストーリーテリングの実習（1）3歳児	ストーリーテリングに向けて物語の選択、準備を行う（30分）	ストーリーテリングの振り返りを行い、ノートにまとめる（30分）
13.	ストーリーテリングの実習（2）4歳児	ストーリーテリングに向けて物語の選択、準備を行う（30分）	ストーリーテリングの振り返りを行い、ノートにまとめる（30分）
14.	ストーリーテリングの実習（3）5歳児	ストーリーテリングに向けて物語の選択、準備を行う（30分）	ストーリーテリングの振り返りを行い、ノートにまとめる（30分）
15.	まとめ	全授業を振り返り、ノートをまとめておく（30分）	全授業のまとめを踏まえて最終レポートを作成する（30分）

教科書	なし（授業時に適宜資料を配布する）
参考書	瀬田貞二「幼い子の文学」中公新書　　L・H・スミス「児童文学論」岩波書店　　間崎ルリ子「ストーリーテリング-現代におけるはなし-」児童図書館研究会
学習成果の評価方法	授業への参加姿勢（10%）、発表（10%）、ストーリーテリング実習（30%）、最終レポート（50%） 提出課題等は、解説を加え、フィードバックします。
特記すべき事　項	出席は授業開始時の応答により行います。遅刻はその時間内に申し出てください。
質問・相談等の受付	質問・相談がある際は、授業の前後か、授業の際に提出するまとめカードを利用してください。

科　目	自然体験実習Ⅰ	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	講師　土居　元・講師　西尾　悠	授業形態 単位数	実験実習 1単位
授業概要	幼児教育では身近な環境に主体的に関わり、周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や喜び、驚き、神秘などに関心を持つことが求められている。この授業では、自然体験活動の必要性や理論、実践などについて学ぶことを目的とし、色々な体験をすることによる人間関係の醸成、自分で選んだり決めたりできる経験を積むことによる自立を目標とする。授業形態は、学外での集中講義を中心にしており、学内ではそのための事前、事後指導を行う。集中講義では、週末(日帰り)や夏期休暇中(1泊2日)を利用しての授業で、実際に野外での自然体験活動を行う。実費負担あり(2022年度は8,000円程度)。 また、自然体験活動指導者(NEALリーダー)の資格取得を希望する学生は、別途資格申請・登録費(3,000円@終身資格)が必要となる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	自然体験活動の理念、目的と必要性および安全対策などの理論を理解している。	DP1,3	自然体験活動指導者の資格に必要なカリキュラムを受講し、資格認定試験において８割以上の解答ができる。
2.	子どもと自然と触れ合う中で、好奇心や不思議さに氣づき、楽しさや重要性を伝えることができる。	DP1,3	自然体験活動をとおして自然のすばらしさや不思議さ、仕組みなどを知り、積極的に活動に参加することができる。
3.	自然体験活動に関する基礎的な知識と技術を身につけ、プログラムを作ったり、安全に活動を指導することができる。	DP1,3	自ら遊びを考えたり、活動計画を作成し、グループ内で協力・協働して課題に取り組み、実践することができる。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
1.　オリエンテーション、学習成果（評価方法・評価基準）	1.　シラバスを読み、到達目標と授業内容について確認しておく(30分)	1.　授業で学んだ内容や資料を読み返し、復習しておくこと(30分)
2. 自然体験活動の理念：目的と必要性、安全対策	2.　自然体験活動について関連資料を読んでおく(30分)	2.　授業で学んだ内容や資料を読み返し、復習しておくこと(30分)
3～6.学外授業における体験活動 〈主な内容〉 都市型公園での日帰り自然体験活動の実践 ・自然体験活動における特質、指導法、基礎技術、プログラム作りの基礎知識、コミュニケーションスキルについて実践から学ぶ ・公園内でのグループや個人で行うさまざまな自然体験活動 自然観察、ネイチャーゲーム、アウトドアクッキング、自然物を使っての創作活動など ・体験学習とその振り返り	3～6.　学内授業で学習した内容から学外体験活動の準備を行う（２時間）	3～6.　振り返りシートの作成(1時間)と活動全体の振り返り(1時間)
7～10. 〈主な内容〉 宿泊施設での宿泊をともなう自然体験活動の実践１ ・自然体験活動における特質、指導法、基礎技術、プログラム作りの基礎知識、コミュニケーションスキルについて実践から学ぶ ・施設内・フィールドでのグループや個人で行う、さまざまな自然体験活動 自然観察、ネイチャーゲーム、アウトドアクッキング、自然物を使っての創作活動など ・体験学習とその振り返り	7～10. 自然体験活動への準備資料や関連資料を検索し、自然体験活動の準備を行う(２時間)	7～10. 集中講義(自然体験活動)の振り返りシートの作成(30分×４回)
11～14. 〈主な内容〉 宿泊施設での宿泊をともなう自然体験活動の実践２ ・自然体験活における特質、指導法、基礎技術、プログラム作りの基礎知識、コミュニケーションスキルについて実践から学ぶ ・施設内・フィールドでのグループや個人で行う、さまざまな自然体験活動 自然観察、ネイチャーゲーム、アウトドアクッキング、自然物を使っての創作活動など ・体験学習とその振り返り	11～14. 自然体験活動への準備資料や関連資料を検索し、自然体験活動の準備を行う(２時間)	11～14. 集中講義(自然体験活動)の振り返りシートの作成(30分×４回)
15,自然体験活動指導者認定試験	15.　資格認定試験に向けての準備(30分)	15.　資格認定試験と全授業の振り返りとまとめ(30分)

教科書	使用しません。（授業時に適宜資料を配布）
参考書	適宜紹介します。
学習成果の評価方法	授業への参加意欲・態度(20%)、課題達成状況(20%)、資格認定試験(60%)により総合評価します。 課題、資格認定試験については、フィードフォワードの視点に立った上でポジティブフィードバック（評価）をもって返却します。
特記すべき事　　項	野外での活動は危険を伴うので、自己管理を行い、主体性と協調性を持って授業に参加の事。社会状況により授業内容が一部変更になる場合がある。毎回の出席は授業開始時の応答により確認する。遅刻・早退は必ず本人が直接理由を申し出る事。
質問・相談等の受付	質問、相談などがある場合は、授業中、もしくはその前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	自然体験実習Ⅱ	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修
担当者	講師　江副　吉子・講師　大久保　大助	授業形態 単位数	実験実習 1単位
授業概要	この授業は、日本キャンプ協会の資格を取得し、20年間携わった実績経験のある教員が、キャンプ研究・実績の経験を活かし実践に即した授業を行う。キャンプ生活を行う際に必要とされる生活技術の理解を深め、グループ実習を通して、人間関係作りを行い、協力して活動する意義を理解し、実践態度を養う。また、現代社会における様々な課題を認識し、保育実践の中で幼児教育に活かす態度を養う。講座は、座学と実技を組み合わせて行う。集中講義(複数コマを同一日実施）)形式で行うことがある。集中講義は、学校外での実施予定。実施方法として実費負担あり（交通費、教材費、施設利用料)等-5000円程度）。また、キャンプインストラクターの資格取得を希望する学生は、別途登録費用（令和4年度15,300円）（1年更新）が必要となる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	環境、安全に配慮したキャンプ活動に必要な基礎的な知識と指導技術を習得する。	DP1	授業中振り返りにより、学習成果の評価を行う。資格取得に必要なカリキュラムを受講し、資格認定試験において6割以上の回答ができる。
2.	実践を通して、主体的に活動に参加し、集団の一員としてのキャンプ体験を通して、協力して活動することができる。	DP1	GWを通して、学習成果の評価を行う。ルールやマナーを守り、集団活動に参加し、目標達成のために力を発揮し、協力して課題に取り組むことができる。
3.	子どもに自然と触れ合うなかで、好奇心や不思議さに気付く楽しさを伝え、保育に活かす手立てを身に付ける。	DP3	自然の中や仲間との活動を通して、身に付けた知識や技術を、安全に配慮した保育実践をイメージして振り返りで、まとめることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	「学習成果について（評価方法および評価基準）」について キャンプの特性（講義）・振り返り	教科書のｐ1～ｐ28に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
2.	キャンプの対象（講義）・振り返り	教科書のｐ29～ｐ47に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
3.	キャンプの指導（講義）・振り返り	教科書のｐ57～ｐ71に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
4.	キャンプの生活技術（実技）・振り返り	教科書のｐ115～ｐ133、ｐ135～ｐ144に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
5.	キャンプの安全（実技）・振り返り	教科書のｐ201～ｐ220に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
6.	様々なアクティビティ（実技）・振り返り	教科書のｐ173～ｐ206に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
7.	キャンプの対象（講義）・振り返り	教科書のｐ48～ｐ56に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
8.	キャンプの指導（講義）・振り返り	教科書のｐ72ページ～p86に目を通しておくこと（30分））	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
9.	様々なアクティビティ（実技）・振り返り	教科書のｐ173～ｐ206に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
10.	様々なアクティビティ（実技）・振り返り	教科書のｐ173～ｐ206に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
11.	キャンプの安全・対象（講義）・振り返り	教科書のｐ87～ｐ114に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
12.	キャンプの生活技術（実技）・振り返り	教科書のｐ145～ｐ159に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
13.	様々なアクティビティ（実技）・振り返り	教科書のｐ173～ｐ206に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
14.	キャンプの安全（講義）・振り返り キャンプの生活技術（実技）	教科書のp87～ｐ114、p160～ｐ172に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）
15.	まとめ・キャンプインストラクター認定試験	教科書の全体に目を通しておくこと（30分）	今回の講義で学んだ授業内容や各用語について復習する（30分）

教科書	日本キャンプ協会指導者養成員会編集、「キャンプ指導者入門」、日本キャンプ協会発行
参考書	日本キャンプ協会　https://camping.or.jp/
学習成果の評価方法	キャンプインストラクター認定試験(60%)、小テスト・振り返り(30%)、授業への参加度（取り組み、発表）(10%)少テストや振り返りについては、評価したうえで、返却します。次回に解説を加えフィードバックします。
特記すべき事　　項	毎回の出席は、授業開始時の応答および各回の振り返りにより、確認します。遅刻した際は、授業終了時に担当教員に申し出ること。申し出がない場合は、欠席となります。早退も欠席も必ず、本人が、直接、担当者へ、理由等を申し出ること。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、授業終了後の教室または、授業前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	安全保育実習	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修
担当者	教授　緒方　まゆみ	授業形態 単位数	実験実習 1単位
授業概要	成長発達の著しい乳幼児期には、その段階ごとに発達課題もめまぐるしく変化していきます。子どもは一人で成長することは困難であり、周囲の温かいサポートが不可欠です。また、病気、不慮の事故など予期せぬ事態も起こりやすいため、支援者の危機管理の意識も問われます。子どもの成長を支える支援者として子どもの発達段階を理解したうえで、応急処置や救命処置の方法を学び実践力を身につけましょう。＊この授業はこども病院において看護師として7年以上の臨床経験を持つ教員により症例説明や保健活動について実践に即した授業を行います。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	子どもの心身の発育・発達を促すためには安全管理が不可欠であり、保育士による安全安心な保育重要であることが理解できる。	DP3	定期試験で6割以上解答できる。演習後のレポートにおいて安全管理の知識および具体的なチェックリスト内容を理解することができる。
2.	救急時の対応や事故防止、危機管理について具体的に理解し、実践内容を理解することができる。	DP3	演習後のレポートにおいて危機管理について具体的に記入でき、且つ救急時の観察ポイントが理解できるようになる。
3.	応急処置時の観察点や、救命蘇生時の方法を理解し実践できるようになる。	DP3	定期試験で6割以上解答できる。演習時は積極的に取り組み、モデル人形や友人に対して応急処置が実践できるようになる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	科目概要・評価方法及び評価基準について説明。 保育士による安全安心な保育とは何かについて学ぶ	安全安心な保育とはどのような事かを考える　(30分)	保育学生として安心安全についてについて自己評価をしておく(30分)
2.	事故防止の方策とチェックリスト 配布資料のチェックリストを使用しグループワークを行う	子どもの事故にはどんなものがあるか調べる　(30分)	講義で学んだチェックリストについて当てはめてみる(30分)
3.	安全教育と保育園から家庭への事故防止支援 安全に関する園だよりを想定しディスカッションを行う	家庭での事故にはどんなものがあるか考え調べる　(30分)	講義で学んだ内容や家庭内での事故ついて復習する(30分)
4.	危険予知トレーニングー　保育場面のイラストを用いて危険予知についてグループワークを行う。グループで発表をする	危険な場所や状況について調べる(30分)	自分の身の回りで危険な場所や状況はないか調べ、対応策を考える(30分)
5.	危機管理事項(熱中症、園外活動中、プール水遊びなど)について、具体例とともに考える	前回の授業を参考に危機管理について考えてみる　(30分)	講義で学んだ内容や方法について具体例をもとに復習する(30分)
6.	危機管理事項(食中毒、児童虐待、災害時対策など)について具体的な例を取り上げディスカッションを行う	前回の授業を参考に危機管理について考えてみる　(30分)	講義で学んだ内容や方法について復習する(30分)
7.	集団の中の感染症の考え方と感染症対策 コロナ感染症対策等を例に挙げグループワークを行う	感染症の種類について調べておく(30分)	講義で学んだ感染症対策について具体的に復習する(30分)
8.	感染症と予防接種スケジュール作成ー　厚労省が毎年発表する予防接種スケジュールを基に各自が作成してみる	自分自身の乳幼児期の予防接種の実際を調べる　(30分)	講義で学んだ内容を基に実際にスケジュールを立ててみる(30分)
9.	アレルギー出現時の観察と対応 アレルギーの種類と主な症状について学ぶ	アレルギーの種類について調べる(30分)	講義で学んだ内容やアレルギーの観察点について復習する(30分)
10.	急病が疑われる際の観察チェックリスト 配布資料のチェックリストを使用しグループワークを行う	子どものときに急病にかかったことがないか家族より情報を得ておく　(30分)	講義で学んだ内容や観察チェックリストについて復習する(30分)
11.	保育における看護と観察点－発熱、下痢、咳など－	自分自身が発熱や下痢をした時の対応を考えてみる　(30分)	講義で学んだ内容や観察点について復習する(30分)
12.	応急手当(出血、捻挫、脱臼、外傷、目・耳の異物など) 包帯材料や副木等を用いてグループ内で演習を行う	自分自身が捻挫や、出血をした時の対応を考えてみる　(30分)	講義で学んだ内容や観察点について実技を含め復習する(30分)
13.	応急手当(熱傷、誤飲誤嚥、肘内障、虫刺されなど) DVDを参照しグループワークを行う	自分自身が熱傷や、虫刺されをした時の対応を考えてみる　(30分)	講義で学んだ内容や観察点について実技を含め復習する(30分)
14.	救急処置及び救急蘇生法の習得(AED対応) 救急蘇生の実技を各自行う	救急蘇生やAEDについて新聞等を用いて情報を集めておく　(30分)	講義で学んだ内容やAEDの使用法ついて復習する(30分)
15.	安全保育実習の振り返りとまとめ	配布資料やレポート全体を振り返り、し確認したいことなどを挙げておく　(30分)	定期試験に備え返却レポート等を再確認をしておく(30分)

教科書	講義内容、演習内容に合わせたプリントをその都度配付します。　＊指定の教科書はありません
参考書	飯島一誠監修　「保育者のためのわかりやすい子どもの保健」　田中哲郎　「保育士による安全保育」　日本小児医事出版 その他必要時に授業内で提示します
学習成果の評価方法	期末試験(70%)　レポート(20%)　受講態度、演習に取り組む姿勢(10%)　レポートは評価・フィードバック後に返却します。
特記すべき事　項	実技演習はグループ編成で行います。演習後に提出する課題レポートは必ず提出してください。基本的にグループごとに提出します。出席確認は各自呼応にて行います。遅刻、早退については個人で理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問、相談などがあるときは授業終了後 直接質問に来てください。その時の内容で即答、次回持越しや研究室対応を決めます。研究室対応は金曜日16：30～17：30内で受け付けます。

科　目	保育と環境教育	開講時期 履修方法	２年前期 選択、保育士選択必修
担当者	講師　村江　史年	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	温暖化や異常気象、またそれに伴う自然災害の頻発といった地球環境の悪化が叫ばれています。こうした状況が続けば、私たちの身近な生活はおろか、地球全体の存亡が危ぶまれる事態になりかねません。地球環境を守り、次の世代へと持続可能な社会を築くことのできる環境人材の育成が重要となってきます。幼児期への環境教育は自然環境に対する感性を育む大切な時期だと言われています。子どもと身近にある自然を結びつけ、子どもの発育・発達に寄与できる保育者づくりを目指します。		

	到　達　目　標	該当する DP番号	学習成果の評価基準
1.	幼児期の環境教育の必要性を理解する。	DP3	身近な自然と環境教育とを結びつけ、その必要性について説明することができる。
2.	幼児期を対象とした環境教育プログラムを考えることができる。	DP2	グループで協力し、幼児期を対象とした環境教育プログラムを考えることができる。
3.	環境教育プログラムを指導できる。	DP2	グループで協力して考えた環境教育プログラムを指導することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	ガイダンス（学習成果と評価方法・評価基準について） ESD・SDGsを知る①	シラバスを読んでおく（30分）	授業内容の復習（30分）
2.	ESD・SDGsを知る② 路上ゴミから見る日本人の環境意識	事前課題（30分） 事前に指定した動画教材を視聴する	復習課題（30分） 小レポート
3.	ESD・SDGsを知る③ 海洋ゴミを事例に世界との繋がりを意識して環境問題を考える	事前課題（30分） 自身の興味関心のある環境問題について調べる	復習課題（30分） 小レポート
4.	子どもを取り巻く環境について考える① KYTとリスクマネジメント教育	事前学習（30分） 事前に指定した動画教材を視聴する	復習課題（30分） 小レポート
5.	子どもを取り巻く環境について考える② 犯罪と防犯教育	事前学習（30分） 事前に指定した動画教材を視聴する	復習課題（30分） 小レポート
6.	子どもを取り巻く環境について考える③ 災害と防災教育	事前学習（30分） 事前に指定した動画教材を視聴する	復習課題（30分） 小レポート
7.	環境教育実践① プロジェクトWETを用いた環境教育プログラムを体験する	事前学習（30分） プロジェクトWETの実践事例を調べる	復習課題（30分） 小レポート
8.	環境教育実践② HUGを用いた防災教育プログラムを体験する	事前学習（30分） 被災した幼稚園・保育園の防災に関する調べる	復習課題（30分） 小レポート
9.	環境教育実践③ SDGsカードゲームクロスを用いて環境問題の解決策を考える	事前学習（30分） 保育現場で取り組まれてSDGsや環境教育について調べる	復習課題（30分） 小レポート
10.	環境教育プログラムの発表準備（グループワーク①）	事前学習（30分～60分） グループでの話合い	復習課題（30分～60分） グループでの話合い
11.	環境教育プログラムの発表準備（グループワーク②）	事前学習（30分～60分） グループでの話合い	復習課題（30分～60分） グループでの話合い
12.	模擬保育（グループ発表①）	発表準備（30分～60分） グループでの話合い	復習課題（30分） 発表したグループに対する評価シートの記入
13.	模擬保育（グループ発表②）	発表準備（30分～60分） グループでの話合い	復習課題（30分） 発表したグループに対する評価シートの記入
14.	模擬保育（グループ発表③）	発表準備（30分～60分） グループでの話合い	復習課題（30分） 発表したグループに対する評価シートの記入
15.	環境教育プログラム集の作成と講義のまとめ	事前学習（30分） 発表した環境教育プログラムのまとめを作成	

教科書	なし
参考書	今日よりいいアースへの学び　ESDQUEST（文部科学省）　初回講義時に配布
学習成果の評価方法	講義毎の小レポート（40%）、グループごとの模擬保育発表（30%）、終講時のレポート（30%） 小レポートは講義中にフィードバックします。
特記すべき事　　項	講義によっては屋外で活動する場合もあります。動くことができる服装で参加をして下さい。毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。遅刻、早退は、必ず本人が直接理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	質問、相談等は授業中とその前後に非常勤講師室にて受付ます。

科　目	健康科学実習	開講時期 履修方法	２年後期 選択、保育士選択必修
担当者	准教授　三好　伸幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	実習と講義を通して、運動が心身の健康に与える影響について運動生理学や心理学の視点から学び、実践することで健康管理に関する能力を身につける。健康度と関連の深い有酸素能（持久力）や身体組成について自己評価を行い、各機能の維持・改善のための運動プログラムを考えていく。また、運動を通じコミュニケーション能力を高めるとともに、気軽に運動を取り組むことができるようルールを工夫することを考え、楽しさ・爽快感・ストレスの発散などを体感し、心身の健康づくりを実践する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	身体の仕組みと運動の効果について理解する。	DP3	運動の効果を理解し、運動プログラムを考えることができる。
2.	自身の運動習慣を振り返り、運動プログラムを実践する。	DP3	身体機能の測定結果から、運動計画を考えまとめることができる。
3.	気軽に運動を実践できる工夫の仕方を学ぶ。	DP4	得意・不得意に関わらず、誰もが楽しく取り組めるルール作りを行える。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	ガイダンス・学習成果・評価基準および評価方法について	健康づくり運動に関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
2.	身体機能の測定	体力測定の項目と方法について調べておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
3.	身体機能の測定と評価	体力測定の項目の意味と評価について調べておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
4.	効果的な運動方法と運動プログラム	運動プログラムに関する情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
5.	身体機能を高めるトレーニング	トレーニングについての情報を収集しておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
6.	スポーツと身体の応答Ⅰ（バレーボールなど）	実施する種目のルールについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	実践を行い身体の反応についてまとめておくこと（30分）
7.	スポーツと身体の応答Ⅱ（バドミントンなど）	実施する種目のルールについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	実践を行い身体の反応についてまとめておくこと（30分）
8.	スポーツと身体の応答Ⅲ（バスケットボールなど）	実施する種目のルールについて事前に情報を収集しておくこと（30分）	実践を行い身体の反応についてまとめておくこと（30分）
9.	スポーツを楽しむための工夫	スポーツを楽しむための工夫について考えておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
10.	ニュースポーツの体験	ニュースポーツについて調べ事前に情報を収集しておくこと（30分）	実践で行った内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
11.	身体活動と健康（女性のライフステージの観点から）	女性のライフステージについて調べておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）
12.	創作スポーツⅠ（創作スポーツを考える）	実施する種目についてルールや特性を理解しておくこと（30分）	実践を行い改善点などについて振り返りまとめておくこと（30分）
13.	創作スポーツⅡ（創作スポーツの実践と工夫）	実施する種目のルール変更などの工夫について考えておくこと（30分）	実践を行い改善点などについて振り返りまとめておくこと（30分）
14.	創作スポーツⅢ（創作スポーツの完成）	授業を通し楽しめるスポーツの創作を完成させておくこと（30分）	実践を行い改善点などについて振り返りまとめておくこと（30分）
15.	まとめ	これまでの授業を振り返り自身の健康についてまとめておくこと（30分）	授業で学んだ内容についてまとめ復習しておくこと（30分）

教科書	なし
参考書	適宜資料を配布
学習成果の評価方法	課題（40%）、グループ発表（30%）、授業への取組み（30%）を総合的に評価する。 課題、発表については評価をおこない、授業内で解説しフィードバックとする。
特記すべき事　項	出席は点呼をとるため、挙手し返事をすること。また、遅刻、早退、欠席理由は本人より申し出ること。
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後またはオフィスアワーの時間（主に火曜日、15:00～17:00）に研究室にて受付ける。

科　目	レクリエーション概論	開講時期 履修方法	２年前期 選択、レク必修
担当者	講師　前田　淳	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この授業はレクリエーションの実績経験のある教員が担当し、（公財）日本レクリエーション協会公認指導者レクリエーション・インストラクターの資格取得を目指して行います。レクリエーション・イントラクターは、楽しい時間と空間を共有するための知識と技術を身に付け、レクリエーション活動の楽しさをとおして自ら心を元気にできるよう支援する指導者です。インストラクターは福祉分野や教育分野の施設、学校（保育園やこども園）、地域の行事など現場で活躍しています。レクリエーション活動の楽しさをベースに、信頼関係を深め、相互作用を起こし、集団をまとめていく知識と実践を習得します。資格取得を希望する場合は、別途申請料・登録料等が必要です。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	レクリエーション・インストラクターの資格取得に関する基礎知識を習得することができる。	DP3	定期試験、授業中の小テストにより学習成果の評価をおこなう。レクリエーションの基礎知識について6割以上解答できる。
2.	信頼関係を構築する方法としてホスピタリティを身につけ実践できる。	DP3,4	グループワーク、発表により学習成果の評価を行う。レクリエーションを行ううえで望ましい人間関係とは何かをイメージしてまとめることができる。
3.	達成感と良好なコミュニケーションの楽しさを十分に感じられるようにレクリエーション活動を展開することができる。	DP3,4	発表により学習成果の評価をおこなう。対象者が互いに助け合う集団づくりにむけて、レクリエーション活動を段階的に展開しながら楽しく提供できる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	ガイダンス　学習成果について（評価方法、評価基準） （体験）コミュニケーションゲーム	シラバスと教科書4ページから8ページまで目を通しておくこと（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
2.	第1章　レクリエーション概論 レクリエーション支援とは　　インストラクターの2つの役割り　（体験）「知育ゲーム」	教科書10ページから17ページまで目を通しておくこと（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
3.	第2章　楽しさを通した心の元気づくりの理論 楽しさを通した心の元気づくりの理解　（体験）「ネイチャーゲーム」	教科書20ページから28ページまで目を通してくこと（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
4.	第2章　楽しさを通した心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり　（体験）「ネイチャーゲーム」	教科書29ページから32ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
5.	第2章　楽しさを通した心の元気づくりの理論 心の元気づくりと地域のきずな　（体験）「ディスコン」	教科書33ページから36ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
6.	第1章・第2章のまとめとふりかえり （体験）木育活動「クップ」	これまでの講義をまとめておく（2時間）	これまでの要点をまとめ、整理する（2時間）
7.	第3章　レクリエーション支援の理論 コミュニケーションと信頼関係づくりの理論　（体験）木育活動「モルック」	教科書38ページから42ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
8.	第4章　レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　（体験）木育活動「エコボール」	教科書58ページから61ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
9.	第4章　レクリエーション支援の方法 気持ちをひとつにするコミュニケーション技術　（体験）グループワークトレーニング	教科書62ページから65ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
10.	第3章　レクリエーション支援の理論 良好な集団づくりの理論　（実践）作ってみよう自然体験ゲーム	教科書44ページから49ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
11.	第4章　レクリエーション支援の方法 良好な集団づくりの方法・アイスブレーキング　（実践）自然体験ゲームを計画	教科書66ページから69ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
12.	第3章　レクリエーション支援の理論 自主的・主体的に楽しむ力を育む理論　（体験）自然体験ゲーム「ネイチャートレイル」	教科書50ページから55ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
13.	第4章　レクリエーション支援の方法 自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法　（実践）体験した活動をアレンジしてみよう	教科書70ページから77ページまで目を通しておく（2時間）	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
14.	第4章　レクリエーション支援の方法 相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法　（体験）アレンジした活動を体験	教科書78ページから82ページまで目を通しておく	授業で学んだ内容についてまとめ、復習しておくこと（2時間）
15.	講義のまとめ （体験）もう一度、実践したい活動を！	これまでの講義をまとめておく	講義全体をふりかえる（2時間）

教科書	「楽しさをとおした心の元気づくり」（レクリエーション支援の理論と方法）公益財団法人日本レクリエーション協会（1800円＋税）
参考書	なし
学習成果の評価方法	筆記試験60%、課題発表と課題に対する提出物40%　　小テストや課題については評価したうえで返却します。
特記すべき事　項	毎回の出席は授業開始時の応答で確認します。遅刻、早退、欠席は本人が直接理由を申し出てください。
質問・相談等の受付	相談等があるときは、授業終了後の教室または授業前の非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	レクリエーション実技	開講時期 履修方法	２年後期 選択、レク必修
担当者	講師　原田　弘美	授業形態 単位数	実験実習 1単位
授業概要	多様なレクリエーション素材を多く体験し、様々な情報を得ることによってレクリエーションの本質的な楽しさの体験を理解する。ひとつの素材に対して、対象者に合わせたアレンジ技術や、自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法を学ぶ。また、良好な集団づくりの方法のアイスブレイキング・モデルの支援技術を学ぶとともに発表の体験により集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する指導技術を習得する。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	福祉分野や教育分野などの現場で、高齢者や子どもなどを対象としたレクリエーション支援プログラムを習得する。	DP3	授業中のミニテストにおいて学習成果の評価を行う。
2.	多様なレクリエーション活動を学び、良好な集団づくりの方法のアイスブレーキング・モデルの支援技術を習得する。	DP3	対象者や目的に合わせたレクリエーションの指導ができる。
3.	対象者の相互作用を促進する言葉かけや互いに認め合う機会づくり、また自主性・主体性を引き出す展開が実施できる。	DP4	レクリエーション指導計画書の作成、内容に沿った指導ができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション学習成果について（評価方法および評価基準）第４章　レクリエーション支援の方法 第１節　信頼関係づくりの方法　ホスピタリティ	楽しさをとおした心の元気づくり 58P～65P（30分）	ホスピタリティについて調べる（30分）
2.	第４章　レクリエーション支援の方法 第２節　良好な集団づくりの方法　アイスブレーキング	楽しさをとおした心の元気づくり 66P～69P（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
3.	レクリエーション活動の取得 出会いを楽しく演出するレクリエーション活動	課題プリント（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
4.	第４章　レクリエーション支援の方法 第２節　自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法①　ハードル設定	楽しさをとおした心の元気づくり 70P～77P（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
5.	第４章　レクリエーション支援の方法 第２節　自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法②　相互作用の促進　CSSプロセス	楽しさをとおした心の元気づくり 78P～82P（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
6.	レクリエーション活動の取得 リスクマネジメント	課題プリント（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
7.	レクリエーション活動の習得 基本的な集いの流れを理解する	課題プリント（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
8.	レクリエーション活動の習得 季節を楽しむレクリエーション	課題プリント（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
9.	レクリエーションプ活動の習得 目的や対象に合わたレクリエーション	課題プリント（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
10.	レクリエーション活動の習得 目的や対象に合わせたアレンジを学ぶ	課題プリント（30分）	講義のレクリエーション実技を振り返る（30分）
11.	レクリエーションプログラムの立案 目的や対象に合わせた指導計画書の作成	レクリエーションプログラムの企画（30分）	楽しさをとおした心の元気づくり 66P～69P（30分）
12.	レクリエーション支援の実施① 対象者の課題や目的にあわせたレクリエーションの集いの演習とふりかえり	計画したレクリエーション財を練習する（30分）	プログラムの振り返りを整理し、要点をまとめる（30分）
13.	レクリエーション支援の実施② 対象者の課題や目的にあわせたレクリエーションの集いの演習とふりかえり	計画したレクリエーション財を練習する（30分）	プログラムの振り返りを整理し、要点をまとめる（30分）
14.	レクリエーション支援の実施③ 対象者の課題や目的にあわせたレクリエーションの集いの演習とふりかえり	計画したレクリエーション財を練習する（30分）	プログラムの振り返りを整理し、要点をまとめる（30分）
15.	レクリエーション支援の実施④ 対象者の課題や目的にあわせたレクリエーションの集いの演習とふりかえり　　全体のまとめ	計画したレクリエーション財を練習する（30分）	授業を振り返る（30分）

教科書	「楽しさをとおした心の元気づくり」（レクリエーション支援の理論と方法）公益財団法人日本レクリエーション協会（1800円　税）
参考書	適宜紹介します
学習成果の評価方法	目的・対象に合わせたプログラムの企画・発表・評価（60 %）、課題・提出物（30 %）、授業への参加度（取組（10%） 課題は評価・フィードバックした上で返却します。
特記すべき事　項	毎回の出席は事業開始時における応答、レポート提出により確認します。遅刻、早退、欠席は本人が直接理由を申し出ること。
質問・相談等の受付	相談等があるときは、授業終了後の教室または授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	こども音楽療育概論	開講時期 履修方法	２年前期 選択、こども音楽必修
担当者	講師　遠江　亮子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	心身に障がいのある子どもの音楽療育に関する基本理念を学習し、対象となる0歳から6歳の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びとの関係について学ぶ。また、こども音楽療育の意義を理解し、障がい種別の具体的援助方法等について学ぶ。 学外における授業は、土日・休日を利用して実施するため、交通費実費は自己負担となる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	音楽療法に関する基礎知識を習得する。	DP2	定期試験において、音楽療法に関する基礎知識について6割以上解答できる。
2.	対象児の発達とそれに応じての音楽活動について理解できる。	DP2,3	定期試験において、対象児の発達とそれに応じての音楽活動について6割以上解答できる。
3.	実習や保育現場で実践できる。	DP3	グループまたは個人で、プログラムを立て実践することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について（評価方法および評価基準）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
2.	施設見学(1)　概要	見学の目的を明確にし、準備を整える（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
3.	施設見学(2)　活動内容	見学の目的を明確にし、準備を整える（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
4.	音楽療法の概要：音・音楽、歴史など	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
5.	小児の基礎知識（身体的発達など）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
6.	小児の基礎知識（心理的発達・コミュニケーションの発達など）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
7.	乳児期の心身の発達と音楽・遊びの関係／音楽活動（実践）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
8.	幼児期の心身の発達と音楽・遊びの関係／音楽活動（実践）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
9.	児童期の心身の発達と音楽・遊びの関係／音楽活動（実践）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
10.	対象者を知る：発達障害について（脳性麻痺・知的障害など）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
11.	対象者を知る：発達障害について（ダウン症・自閉症など）	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
12.	小グループによる実践の計画	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
13.	小グループによる実践発表(1)　指導案	発表の準備を整える(2時間)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
14.	小グループによる実践発表(2)　実演	発表の準備を整える(2時間)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
15.	まとめと総合テスト	教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間）	授業全体の振り返りを行い、まとめをする（2時間）

教科書	古賀幹敏 編著　「基礎から学ぶ音楽療法　増補改訂版」　海鳥社
参考書	松井紀和 著　「音楽療法の手引き」　牧野出版
学習成果の評価方法	授業時の取り組み(20%)、筆記試験(60%）、グループ発表(20%)で総合評価する。グループ発表については、授業中に解説を加えながら、フィードバックを行います。
特記すべき事　　項	毎回、授業開始時に出席確認を行います。遅刻した際は、授業終了時に担当教員に申し出ること。申し出がない場合、欠席となります。また早退時も、必ず本人が担当教員へ直接、理由等を申し出るようにして下さい。
質問･相談等の受付	質問、相談等がある時は、授業後の教室または授業前後に非常勤講師室にて受け付けます。

科　目	こども音楽療育演習	開講時期 履修方法	２年後期 選択、こども音楽必修
担当者	准教授　宮本　幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	発達障がいの子どもたちの多くは、コミュニケーションに困難を伴い社会性を保つことが難しいが、社会の中で成長していく過程がある。音楽を媒体として、個々に応じた表現力を引き出す力を身に付けることによって安定した空間を生み出す。そこで、何を必要とするか見定め、目標設定を決め、達成させる技術を習得することを学ぶ。シンプルな音楽的な関わりによって、こどもの心を動かすことができるように具体的実践方法を学ぶ。授業内ではグループワークやディスカッションを主としたアクティブラーニングを活用し、模擬セッションの様子を撮影するなど、ICT教育を活用した双方向授業も行う。模擬セッションは、土日・祝日に学外で実施することもある。その際、交通費実費は自己負担となる。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	こどもの発達状況を理解して、複数の「困難」な行動に対して、活動の「仕掛け」をしていく事ができる。	DP3	楽器の使い方、弾き歌い、即興伴奏が即座に対応できる。障がい別、形態に応じて適切に工夫して援助ができる。
2.	模擬セッションにおいて、セラピストを実践することができる。	DP3	実習を体験後、再度検討課題として、どのように対象者との関りを持つべきなのか、技術・技能を研究して発表できる。
3.	活動のプログラム、記録紙の作成ができる。	DP3	プログラムの内容、活動の流れ、対象者の様子、評価の方法など、丁寧に理解しやすい表現で作成することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習	
		予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について(評価方法および評価基準)	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
2.	こども音楽療育の基礎	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
3.	個人・集団セッションの特徴：実践の現場を知る	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
4.	楽器演奏の方法(トーンチャイム、ハンドベルなど)	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
5.	楽器演奏の方法(季節、行事の歌を通して)	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
6.	コミュニケーションを育てる療育プログラム(1)見学	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
7.	コミュニケーションを育てる療育プログラム(2)参加	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
8.	模擬セッションのプログラム(季節、行事など)の作成	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
9.	模擬セッションで使用する曲の奏法理解(1)	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
10.	模擬セッションの実施と振り返り(1)	発表の準備を整える(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
11.	模擬セッションのプログラム(対象者別)の作成	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
12.	セッションで使用する曲の奏法理解(2)	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分）	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
13.	模擬セッションの実施と振り返り(2)	発表の準備を整える(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
14.	弾き歌いテストについて	発表の準備を整える(30分)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する(30分)
15.	弾き歌いテストとまとめ	発表の準備を整える(30分)	授業全体の振り返りを行い、まとめをする（30分）

教科書	古賀幹敏 編著　「基礎から学ぶ音楽療法」　海鳥社
参考書	松井紀和 著　「音楽療法の手引き」　牧野出版
学習成果の評価方法	授業時の取り組み(30%)、実技試験(20%）、課題提出、(20%)、グループ発表(30%)で総合評価する。 課題については、解説を加えフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	出席確認は、授業開始時に行う。遅刻、早退、欠席等の理由は、本人が直接申し出ること。 授業時の取組みも重視するため、欠席等がないように心がけること。
質問・相談等の受付	相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日14：50～16：20）に研究室に来てください。

科　目	こども音楽療育実習	開講時期 履修方法	２年前期 選択、こども音楽必修
担当者	准教授　宮本　幸	授業形態 単位数	実験実習 1単位
授業概要	学外の障がい児施設において、子どもたちとのグループ体験や音楽活動への参加、観察実習、体験実習を通して、音や音楽を用いた音楽活動の現場での具体的実践方法を学ぶ。実習準備として、グループワークやディスカッションを主としたアクティブラーニングを活用し、ICT教育を活用した双方向授業も行う。 主に、学外での施設実習が中心となり、学内ではそのための事前・事後指導を行う。学外における実習は、休日および夏期休暇中を利用して計5日間実施する。通勤のための交通費実費および実習費5000円は自己負担となる。 また、こども音楽療育士の資格取得を希望する学生は、認定証交付料5500円が別途必要である。		

	到　達　目　標	該当するDP番号	学習成果の評価基準
1.	実習の意義・目的を十分に理解できる。	DP3	実習の意義・目的を、日誌・レポートに具体的に記述することができる。
2.	対象(施設や障がい児)や実習内容について理解し、自らの課題を明確にすることができる。	DP3,4	対象や実習内容について、日誌・レポートに具体的に自らの言葉で述べることができる。
3.	実習の計画、実践、観察、記録の方法や内容について、具体的に理解することができる。	DP3	日誌等の課題提出を期限内に行い、発表を的確に行うことができる。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習（必要時間）	授業時間外学習 復習（必要時間）
重症心身障がい児者施設における音楽活動の実際 1．事前指導として オリエンテーション、学習成果について(評価方法および評価基準) 2．施設への見学実習：概要 3．施設への見学実習：活動内容 4．事後指導として 5．ふりかえり・発表	教科書に目を通し、授業の準備を行う（30分） 見学の目的を明確にし、準備を整える（30分） 見学の目的を明確にし、準備を整える（30分） 教科書に目を通し、授業の準備を行う（2時間） 発表の準備を整える　(2時間)	今回の講義で学んだ授業内容について復習する（30分） 1日の実習の振り返りと翌日の準備を行う（30分） 1日の実習の振り返りと翌日の準備を行う（30分） 今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間) 今回の講義で学んだ授業内容について復習する(2時間)
実習施設においての学び 1．施設・対象の把握 2．音楽活動への参加 3．発達と音楽について学ぶ 4．楽器について学ぶ 5．援助方法について学ぶ 6．音楽と活動内容の意味を考える 7．音楽を用いた活動を実践する 8．活動の記録を行う	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示で準備を行う（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容を生かし翌日の実習目標を立てる（2時間）	＜実習初日＞ 事前訪問で実習園より受けた指示を復習し、実習園の教育方針や目標を復習する（2時間） ＜実習2日目以降＞ 実習中に行われた反省会や日誌提出時に実習園の担当教諭から指導を受けた内容についてまとめる（2時間）

教科書	古賀幹敏 編著　「基礎から学ぶ音楽療法」　海鳥社
参考書	松井紀和 編著　「音楽療法の実際」　牧野出版
学習成果の評価方法	授業・実習時の取り組み(70%)、レポート・日誌(30%) レポートについては、解説を加えフィードバックを行います。
特記すべき事　　項	実習先でのマナーは、必ず身につけたうえで取り組んでください。 実習中の欠勤・遅刻・早退、トラブル等の連絡は、確実に実習演習室に連絡をしてください。
質問･相談等の受付	相談等がある時は、オフィスアワー（火曜日14：50～16：20）に研究室に来てください。